特別養護老人ホーム（なでしこ香川）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

日暮・松林遺跡（済生会特養ホーム）

２００５年８月

高松市教育委員会

社会福祉法人恩賜財団済生会支部
香川県済生会

日暮・松林遺跡出土木樋

例　　言

1．本報告書は，社会福祉法人恩賜財団済生会支部香川県済生会が建設する特別養護老人ホーム（なでしこ香川）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で，高松市多肥上町に所在する日暮・松林遺跡（ひぐらし・まつばやしいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査地ならびに調査期間は次のとおりである。
　調 査 地：高松市多肥上町1423－１ほか
　発掘調査：平成16年６月23日～平成16年８月27日
　整理作業：平成16年９月１日～平成17年８月31日

3．発掘調査及び整理作業は高松市教育委員会が担当し，その費用は社会福祉法人恩賜財団済生会支部香川県済生会が全額負担した。

4．発掘調査は高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員山元敏裕と同大嶋和則が担当し，大朝利和がこれを補佐した。

5．本報告書は執筆から編集まで大嶋が行った。

6．発掘調査から整理作業，報告書執筆を実施するにあたって，下記の関係諸機関ならびに方々から御教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順，敬称略）
　香川県教育委員会，地元自治会，地元水利組合
　片桐孝浩，松本和彦

7．発掘調査から整理作業，報告書執筆まで下記の方々の協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（敬称略）
　中村茂央（徳島文理大学），池見有加（京都橘大学）

8．本調査に関連して，以下の業務を業務委託発注により実施した。
　発掘調査掘削工事……別枝土建工業㈱
　空中写真測量……四航コンサルタント㈱
　遺物保存処理……㈱吉田生物研究所
　遺物写真撮影……西大寺フォト

9．挿図として，国土地理院発行1／25,000地形図「高松南部」を一部改変して使用した。

10．本報告の高度値は海抜高を表し，方位は国土座標第Ⅳ系（世界測地系）の北を示す。なお，2002年４月から世界測地系に移行しているが，これまでの周辺の調査地との位置関係を明らかにするため，遺跡全体の平面図には日本測地系の座標を併記して報告した。

11．本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
　SB：掘立柱建物　　SD：溝　　SK：土坑　　SP：柱穴

12．発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

本 文 目 次

巻頭図版

第１章　調査の経緯と経過
　第１節　調査の経緯……1
　第２節　調査の経過……3
　第３節　整理作業の経過……4

第２章　地理的・歴史的環境
　第１節　地理的環境……5
　第２節　歴史的環境……5

第３章　調査の成果
　第１節　調査地の概要と基本層序……7
　第２節　遺構……11

第４章　自然科学的分析……63

第５章　まとめ
　第１節　遺構の変遷について……68
　第２節　多肥松林遺跡群における弥生時代から古墳時代の集落域の変遷……71

観察表……81

写真図版……91

報告書抄録……103

挿　図　目　次

第１図　調査地及び周辺遺跡位置図……2
第２図　調査地位置図……3
第３図　土層断面柱状図……7
第４図　包含層出土遺物実測図……8
第５図　調査地平面図……9
第６図　SB1平・断面図……11
第７図　SB2平・断面図……12
第８図　SB3平・断面図……13
第９図　SB4平・断面図……13
第10図　SB5平・断面図……14
第11図　SK1平・断面図……15
第12図　SK2平・断面図及び出土遺物実測図……15
第13図　SK3平・断面図……16
第14図　SK4平・断面図及び出土遺物実測図……16
第15図　SK5平・断面図及び出土遺物実測図……17
第16図　SK6平・断面図及び出土遺物実測図……18
第17図　SK7平・断面図及び出土遺物実測図……19
第18図　SK8平・断面図及び出土遺物実測図……20
第19図　SK9平・断面図及び出土遺物実測図……20
第20図　SK10平・断面図及び出土遺物実測図……21
第21図　SK11平・断面図及び出土遺物実測図……22
第22図　SK12平・断面図及び出土遺物実測図……22
第23図　SK13平・断面図……23
第24図　SK14平・断面図……23
第25図　SK15平・断面図……23
第26図　SK16平・断面図及び出土遺物実測図……24
第27図　SD1木樋出土状況図……25
第28図　SD1断面図……26
第29図　SD1上層出土土器実測図……26
第30図　SD1上層出土木器実測図……27
第31図　SD1上層出土石器実測図……28
第32図　SD1中層出土土器実測図①……29
第33図　SD1中層出土土器実測図②……30
第34図　SD1中層出土土器実測図③……31
第35図　SD1中層出土土器実測図④……32
第36図　SD1中層出土木器実測図①……33
第37図　SD1中層出土木器実測図②……34
第38図　SD1中層出土木器実測図③……35
第39図　SD1中層出土木器実測図④……36
第40図　SD1中層出土木器実測図⑤……37
第41図　SD1中層出土木器実測図⑥……38
第42図　SD1中層出土石器実測図……39
第43図　SD1下層出土土器実測図①……40
第44図　SD1下層出土土器実測図②……41
第45図　SD1下層出土土器実測図③……42
第46図　SD1下層出土土器実測図④……43
第47図　SD1下層出土土器実測図⑤……44
第48図　SD1下層出土土器実測図⑥……45
第49図　SD1下層出土木器実測図……46
第50図　SD1下層出土石器実測図……47
第51図　SD2断面図……48
第52図　SD2上層出土土器実測図……48
第53図　SD2上層出土木器実測図……49
第54図　SD2上層出土石器実測図……49
第55図　SD2下層出土土器実測図……50
第56図　SD2下層出土木器実測図……51
第57図　SD2下層出土石器実測図……52
第58図　SD2下層出土骨実測図……52
第59図　SD3・4・5断面図……52
第60図　SD3出土遺物実測図……53
第61図　SD4出土遺物実測図……53
第62図　SD5出土遺物実測図……54
第63図　SD6断面図……55
第64図　SD7断面図及び出土遺物実測図……55
第65図　SD8断面図及び出土遺物実測図……56
第66図　SD9断面図……57
第67図　SD9出土遺物実測図……58
第68図　SD10～13断面図……59
第69図　SD14断面図……59
第70図　SD15平・断面図及び出土遺物実測図……59
第71図　SD16平・断面図……60
第72図　SD17断面図及び出土遺物実測図……60
第73図　SD18断面図……61
第74図　SD19平・断面図……61
第75図　SD20断面図……61
第76図　SD21平・断面図……62
第77図　SD22平・断面図……62
第78図　弥生時代中期の主要遺構平面図……69
第79図　弥生時代終末期の主要遺構平面図……69
第80図　古墳時代後期の主要遺構平面図……70
第81図　中世の主要遺構平面図……70
第82図　近世の主要遺構平面図……71
第83図　弥生時代前期の集落域……73
第84図　弥生時代中期の集落域……75
第85図　弥生時代後期の集落域……77
第86図　古墳時代後期の集落域……79

挿表目次

第１表　整理作業工程表……4
第２表　周辺の調査履歴……6

写真図版目次

写真１　調査地全景（北から）……92
写真２　N区遺構検出状況（東から）……92
写真３　S区遺構検出状況（西から）……92
写真４　SB1検出状況（西から）……92
写真５　SB1完掘状況（北から）……92
写真６　SB1・SB2完掘状況（西から）……92
写真７　SB3検出状況（西から）……92
写真８　SB3完掘状況（東から）……92
写真９　SB4完掘状況（西から）……93
写真10　SB5完掘状況（東から）……93
写真11　SK5断面（南から）……93
写真12　SK5断面（西から）……93
写真13　SK5土器（13）出土状況（北から）……93
写真14　SK6断面（南から）……93
写真15　SK6土器（15）出土状況（北から）……93
写真16　SK5・SK6・SK7完掘状況（北から）……93
写真17　SK7断面（南から）……94
写真18　SK10完掘状況（東から）……94
写真19　SK11完掘状況（南から）……94
写真20　SD1完掘状況（北から）……94
写真21　SD1断面（南から）……94
写真22　SD1木樋出土状況（西から）……94
写真23　SD1～SD6完掘状況（北から）……94
写真24　SD1～SD6完掘状況（南から）……94
写真25　SD2完掘状況（北から）……95
写真26　SD2完掘状況（南から）……95
写真27　SD2断面（南から）……95
写真28　SD7・SD8完掘状況（北から）……95
写真29　SD7完掘状況（北から）……95
写真30　SD7断面（南から）……95
写真31　SD7断面（西から）……95
写真32　SD8完掘状況（北から）……95
写真33　SD8完掘状況（南から）……96
写真34　SD8断面（北から）……96
写真35　SD9完掘状況（西から）……96
写真36　SD9断面（南から）……96
写真37　SD9断面（西から）……96
写真38　SD9断面（西から）……96
写真39　SD12完掘状況（東から）……96
写真40　SD12断面（西から）……96
写真41　日暮・松林遺跡出土木樋……97
写真42　日暮・松林遺跡出土木製品……98
写真43　日暮・松林遺跡出土遺物①……99
写真44　日暮・松林遺跡出土遺物②……100
写真45　日暮・松林遺跡出土遺物③……101
写真46　日暮・松林遺跡出土遺物④……102

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

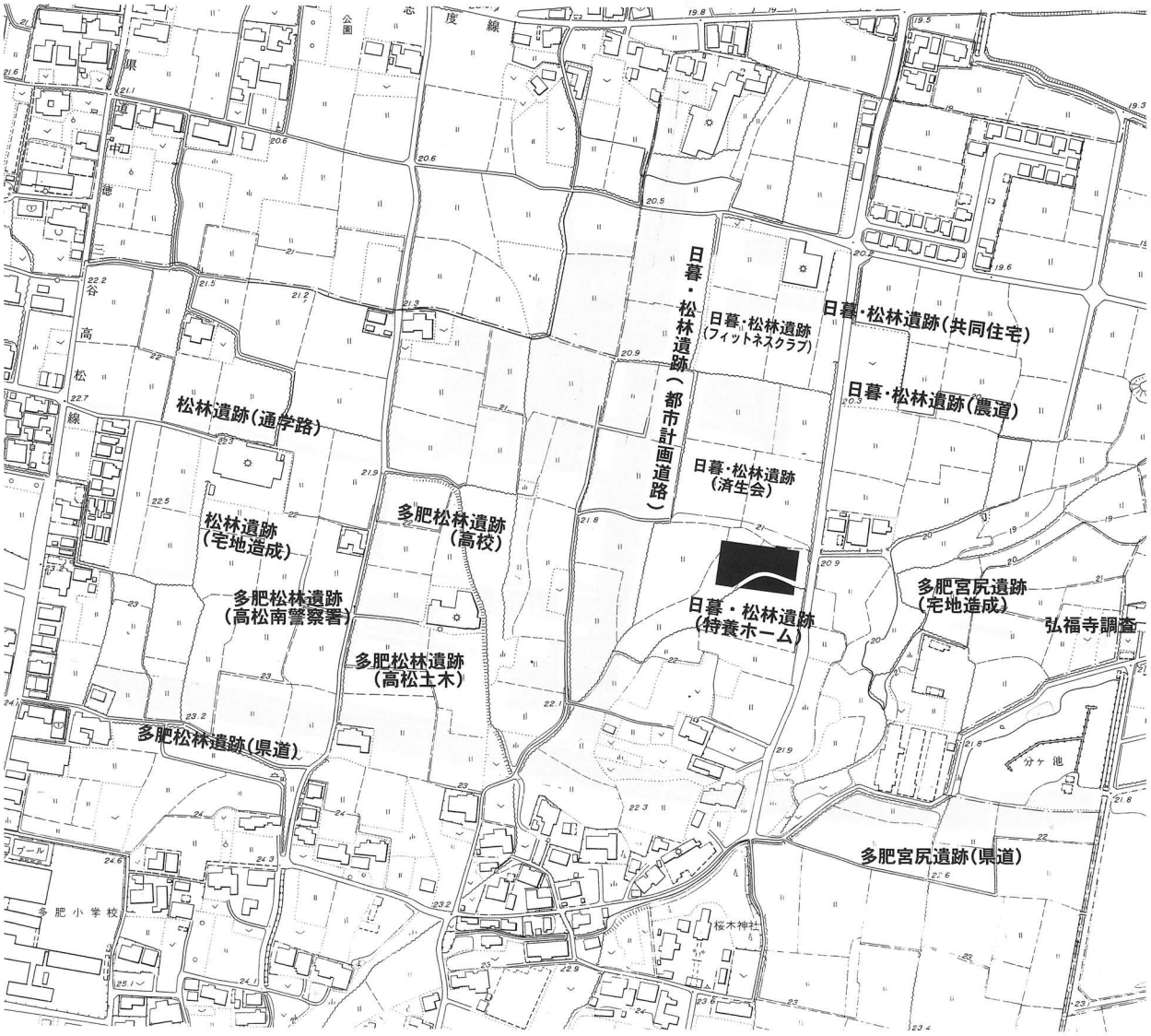
平成16年５月20日に社会福祉法人恩賜財団済生会支部香川県済生会（以下「香川県済生会」と略称）が計画する特別養護老人ホーム（なでしこ香川）建設工事に関し，予定地内における埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があった。高松市教育委員会では工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である日暮・松林遺跡に隣接しており，当該地まで包蔵地が広がっている可能性が考えられたため，香川県済生会に対し，「現状では周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが，周知の埋蔵文化財包蔵地に隣接していることから，遺跡が存在する可能性が極めて高く，工事着手後に遺跡が発見された場合は工事の進捗に多大な影響を及ぼす可能性もあるため，工事着手前に確認調査を実施することが望ましい。」と説明を行い，任意協力をお願いしたものである。

その後，５月31日に香川県済生会から高松市教育委員会に対し，確認調査の依頼があった。協議の結果，約8,190㎡の工事予定地のうち工事により地下遺構に影響の恐れがある建物建設部分約1,800㎡のみを試掘対象地とし，６月７日に試掘調査を実施した。試掘調査では３箇所のトレンチ調査を実施し，すべてのトレンチで遺構・遺物を確認しており，建物建設予定地全域に埋蔵文化財の包蔵が予想された。高松市教育委員会は，香川県教育委員会に対し確認調査結果を送るとともに，６月９日に香川県済生会から提出された埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法57条２第１項）を進達したところ，香川県教育委員会から事前に発掘調査を実施する旨の回答を得た。

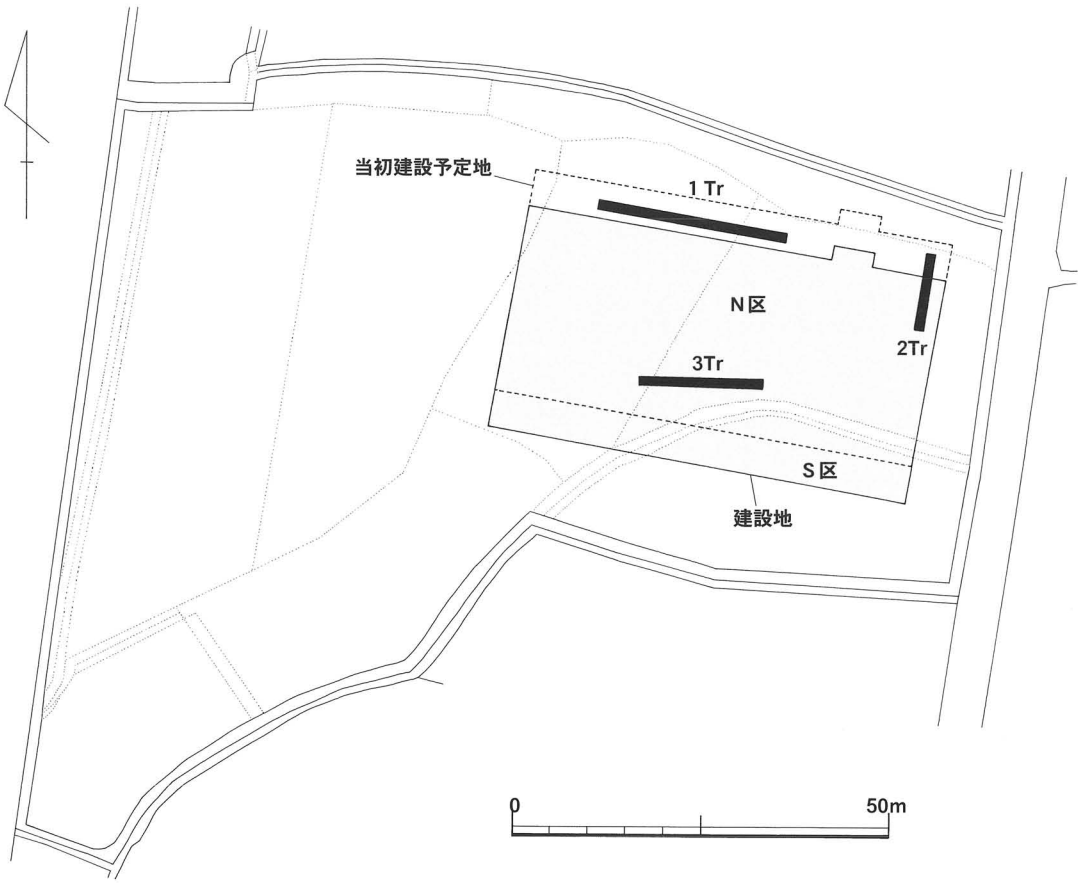
これを受け，香川県済生会と協議を行った結果，工事着手前までに調査が完了することを条件に，事前の発掘調査を行うことで合意し，６月15日に埋蔵文化財調査協定書を締結した。業務名は「特別養護老人ホーム（なでしこ香川）建設に伴う埋蔵文化財調査管理業務」とし，高松市教育委員会は発掘調査・整理作業の実務を行い，その費用負担および契約・支払事務については香川県済生会が行うこととした。調査面積は建物建設予定地のうち，現有水路部分を除く約1,600㎡を対象地とした。また，９月中旬が工事着手予定時期であったことから，協定上は６月21日～８月31日を発掘調査期間，９月１日～平成17年10月31日を整理作業期間とし，その準備事務を進めた。

しかしながら，協定書締結後の６月18日になって香川県済生会から建物建設地を南へ５ｍ移動する設計変更の申し出があった。これにより，当初の予定地の北部約280㎡が建設地から除かれ，予定地の南側約280㎡が新たに含まれることとなった。このため，６月21日の調査開始を延期し，香川県済生会と再度協議を行った。北部の280㎡については，建設地から除外されたことで遺跡の現状保存がなされることから，発掘調査の対象外とすることで合意した。一方，南側280㎡については，新たに試掘調査を実施し協議を重ねることによる工期の遅れが懸念された。このため，新たな試掘調査は行わず，当初試掘調査で検出された溝が延びていることが予想されたことから，発掘調査対象地とし，機械掘削時に包蔵状況を確認し，遺構が検出されないようであれば調査対象から除外することで合意を得た。

また，調査対象地の南西側の水田は，駐車場整備予定地であり，この部分を廃土置き場として利用することで合意をしていたが，農地転用が許可されておらず，使用不可能な状態であった。７月末に転用の許可が得られる予定であったことから，調査地を東西に分け，東半から調査を行い，西半に廃土を仮置きし，許可が得られしだい西半を拡張することとした。また，転用許可が調査期間中に得られない場合は，東半を埋め戻し，西半を調査することで合意した。



第１図　調査地及び周辺発掘調査地位置図（下段S=1/2,500）



第２図　調査地位置図

第２節　調査の経過

設計変更等の協議により，当初計画より２日遅れの平成16年６月23日から調査を開始した。調査地は現有水路によって南北に分かれるため，北側をN区，南側をS区として調査を実施することとした。まず，N区南東端から機械掘削を行い，南側280㎡の包蔵状況の確認を行ったところ，遺構・遺物が検出されたことから，発掘調査対象地とすることを香川県済生会と合意した。東半の調査は７月22日にはほぼ完了したことから，発掘作業を一時休止して農地転用の許可を待った。７月25日に許可が得られたことにより，７月29日から西半部分を拡張し，調査を再開した。調査期間中は台風10・11号をはじめ，大雨により６度にわたって現場は水没し，壁面の崩壊など多大な被害を受けたが，８月27日に全調査を終了した。なお，詳しい工程については，以下に調査日誌を掲載する。

調査日誌（抄）

６月23日　晴　本日より調査開始。機材搬入。仮囲い。客土層の機械掘削開始。
６月24日　曇　南東部より機械掘削。南側280㎡を調査対象地とすることを合意。
６月28日　曇　前日の大雨で水没。終日排水作業。
６月29日　晴　遺構検出作業。溝，掘立柱建物等検出。
７月１日　晴　基準杭打設。平板測量。

7月5日　曇　SD7・8・9掘削。須恵器等出土。
7月8日　晴　SB1・2・3柱穴半裁。
7月12日　曇　SK5・6・7掘削。弥生土器高杯等出土。
7月15日　晴　SK5・6・7遺物出土状況図作成及び写真撮影。
7月21日　晴　SK5・6・7遺物取り上げ。
7月22日　晴　各遺構土層断面図作成。東半の調査ほぼ終了したため，しばらく作業休止。
7月29日　晴　発掘作業再開。現場水没のため，排水作業。
7月30日　雨　台風10号接近のため，台風対策。
8月2日　雨　台風10号により水没。終日排水作業。
8月3日　曇　排水作業。調査区西半機械掘削開始。
8月4日　曇　排水作業。台風11号接近のため台風対策。
8月5日　晴　台風11号により水没。終日排水作業。機械掘削。
8月9日　晴　SD1・2掘削。土器・木器多量に出土。
8月11日　晴　SD1北半中層掘削。木樋をはじめ木器多量に出土。
8月16日　晴　SD1下層掘削。弥生土器，石器出土。
8月17日　曇　ほぼ全遺構完掘。写真測量準備。
8月18日　雨　ベルトコンベアー移動。写真測量準備を行うものの，午後より大雨。
8月19日　雨　現場水没。終日排水作業。
8月23日　雨　現場水没。終日排水作業。
8月26日　晴　クレーンによる空中写真撮影。
8月27日　晴　全調査終了。

第3節　整理作業の経過

整理作業は平成16年9月1日より開始し，17年5月31日に終了した。その後，8月31日まで報告書の編集作業を行った。詳しい工程表は以下のとおりである。

第1表　整理作業工程表

	平成16年度							平成17年度				
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
洗浄												
接合・復元												
実測												
トレース												
写真撮影												
レイアウト												
執筆・編集												

第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

高松市は香川県の中央やや東寄りに位置し，市域の大部分は讃岐平野の一部を形成する高松平野が広がっている。南部に讃岐山脈の北縁がかかり，東部に屋島，立石山塊，南西部に石清尾山，浄願寺山，東部に青峰，堂山の山系が連なる。いずれも讃岐山脈の基盤である洪積台地と同じ地層からなるメサ，あるいはビュート型の溶岩台地で，20～300ｍの低い山地である。北方はひらけ，瀬戸内海に面し，男木島，女木島，大槌島，小槌島などの島をも市域に含み，備讃瀬戸を挟んで岡山県と対峙する。

高松平野は，讃岐山脈より流れ出た諸河川が運んだ土砂によって形成された沖積平野である。高松平野には，西から本津川，香東川，御坊川，詰田川，春日川，新川といった河川が北流しているが，なかでも香東川が平野の形成に最も大きな影響を及ぼしており，現存の春日川以西が香東川による沖積平野といわれている。現在，石清尾山塊の西側を直線状に北流する香東川は17世紀初めの河川改修によるもので，それ以前には現在の香川町大野付近から東へ分岐した後，石清尾山塊の南側から回り込んで，平野中央部を東北流するもう一本の主流路が存在していた。この旧流路は，現在では水田地帯及び市街地の地下に埋没してしまっているが，空中写真等から，林から木太地区にかけての分ヶ池，下池，長池，大池，旧ガラ池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており，発掘調査でもその痕跡が確認されている。なお，17世紀の廃川直前の流路は，御坊川として今でもその名残りをとどめている。

高松平野を流れる諸河川は，南の讃岐山脈から平野での流入口で穏やかな傾斜を持つ扇状地形の沖積平野を形成し，農耕に適した地味豊かな土壌をもたらしたが，諸河川の中流域は伏流し，表層は涸れ川になることが多く，早くからため池を造築して水不足を解消してきた。山間の洪積台地と洪積層の境目に多くのため池が分布する。これらのため池は，年間1,000㎜前後と降水量の乏しい讃岐平野において農業用水確保のために不可欠なものである。また，今回の調査地である多肥地区周辺は，ため池に加えて出水（ですい）と呼ばれる自噴地下水脈の利用が盛んで，両者を併用した特徴的な配水網と厳格な水利慣行を伝えてきた。調査地周辺では，栗木出水，平井出水，鈴木出水等が見られる。しかし，昭和50年の香川用水の通水によって，一帯は三郎池の受益範囲に取り込まれ，農業用水の確保の不安が払拭された反面，地元水源を核とした水利慣行が急速に消滅するとともに，ため池や出水の水源自体もその役割を失いつつある。

第２節　歴史的環境

高松平野では，ここ10数年間の大規模な開発事業（高松東道路建設事業，空港跡地開発事業等）の事前調査により，遺跡数が飛躍的に増大しつつある。特に，今回の調査地の多肥上町松林周辺においては，香川県立桜井高等学校や都市計画道路の建設等に伴う発掘調査が行われ，面的に遺跡の広がりや内容が判明している地域である。高松平野の歴史的環境は他の報告書に譲ることとし，ここでは周辺の調査について述べる。

旧石器・縄文時代の遺跡は，今回の調査地周辺では知られていない。松林遺跡や多肥松林遺跡の旧河道中からわずかに縄文時代晩期の遺物が出土している程度である。当該期の遺跡は高松平野全体でもほとんど知られておらず，不明な点が多い。

弥生時代前期になると，多肥松林遺跡で溝が検出されているほか，松林遺跡では集石遺構が見られる。

中期中葉になると，香川県立桜井高等学校の中心部を南から北へ流れる自然河道が埋没を始めている。この流路から土器とともに，鳥形木製品，木製農具等が出土している。流路の両岸には掘立柱建物や竪穴住居が営まれており，特に流路東側の集落域は日暮・松林遺跡まで広がっている。この時期には多肥松林遺跡の北西部において洪水砂層，松林遺跡において地震の液状化現象である噴礫が認められ，自然災害があったことを物語っている。中期後半～後期前半には遺構・遺物ともほとんど見られない。後期後半には日暮・松林遺跡において竪穴住居が多数検出されている。

弥生後期中葉以降には，幅５m程度の灌漑水路が多数掘削されており，古墳時代前期で埋没するものもあるが，古墳時代後期までの遺物を含む溝も存在する。また，日暮・松林遺跡や多肥宮尻遺跡においては古墳時代中期末～後期前半の土器や木製品を包含する自然河道が検出されている。一方，古墳時代の集落域や古墳については不明である。

平安時代には周辺の自然河道の埋没がほぼ完了しており，多肥松林遺跡において掘立柱建物や溝が掘削されており，溝からは斎串が多量に出土している。

中・近世においては条里地割の溝や掘立柱建物が検出されている。特に松林遺跡では香川郡の一条と二条の条界溝が検出されている。また，日暮・松林遺跡においては多量の瓦器埦が出土している。

第２表　周辺の調査履歴（～2005.３.31）

遺跡名	調査期間	面積	調査機関	文献
松林遺跡（通学路）	1995.5.19～1995.11.8	1,000㎡	高松市教育委員会	1
松林遺跡（宅地造成）	2004.4.1～2004.4.12	800㎡	高松市教育委員会	2
多肥松林遺跡（高校）	1993.4.26～1994.9.6	17,600㎡	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	3
多肥松林遺跡（高松土木）	1994.10.1～1995.3.31	5,900㎡	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	4
多肥松林遺跡（都市計画道路）	1997.4.1～1997.12.31	7,000㎡	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	5
多肥松林遺跡（高松南署）	2003.12.1～2004.3.31	2,000㎡	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	6
日暮・松林遺跡（都市計画道路）	1993.11.15～1995.9.29	11,600㎡	高松市教育委員会	7
日暮・松林遺跡（済生会）	2002.5.12～2002.7.31	2,200㎡	高松市教育委員会	8
日暮・松林遺跡（農道）	2004.5.12	70㎡	高松市教育委員会	9
日暮・松林遺跡（済生会特養ホーム）	2004.6.23～2004.8.27	1,600㎡	高松市教育委員会	本書
日暮・松林遺跡（フィットネスクラブ）	2004.12.1～2005.1.7	800㎡	高松市教育委員会	10
日暮・松林遺跡（共同住宅）	2004.12.11～2004.12.13	124㎡	高松市教育委員会	11
多肥宮尻遺跡（都市計画道路）	1997.4.1～1999.9.30	12,245㎡	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	12～14
多肥宮尻遺跡（宅地造成）	2004.7.5～2004.7.16	205㎡	高松市教育委員会	15

既存報告書（報告書が刊行されているものについては報告書のみを記載した）

松林遺跡

1．大嶋和則1996『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　松林遺跡』高松市教育委員会

2．大嶋和則2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査　松林遺跡(第２次調査)』高松市教育委員会

多肥松林遺跡

3．山下平重1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊　多肥松林遺跡』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

4．北山健一郎1995『高松土木事務所新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　多肥松林遺跡』香川県教育委員会

5．西村尋文1998「多肥松林遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成９年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

6．宮崎哲治2005「高松南警察署移転整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　多肥松林遺跡」『香川県埋蔵文化センター年報　平成15年度』香川県埋蔵文化財センター

日暮・松林遺跡

7．中西克也1997『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書　日暮・松林遺跡』高松市教育委員会

8．大嶋和則2003『香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡(済生会)』高松市教育委員会

9．大嶋和則2005「日暮・松林遺跡(農道)」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成15年度国庫補助事業－』高松市教育委員会

10．小川賢2005『フィットネスクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡(フィットネスクラブ)』高松市教育委員会

11．大嶋和則2005「日暮・松林遺跡(共同住宅)」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成15年度国庫補助事業－』高松市教育委員会

多肥宮尻遺跡

12．松本和彦ほか1998「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成9年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

13．植松邦浩ほか1999「多肥宮尻遺跡」『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成10年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

14．小野秀幸ほか2000「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成11年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

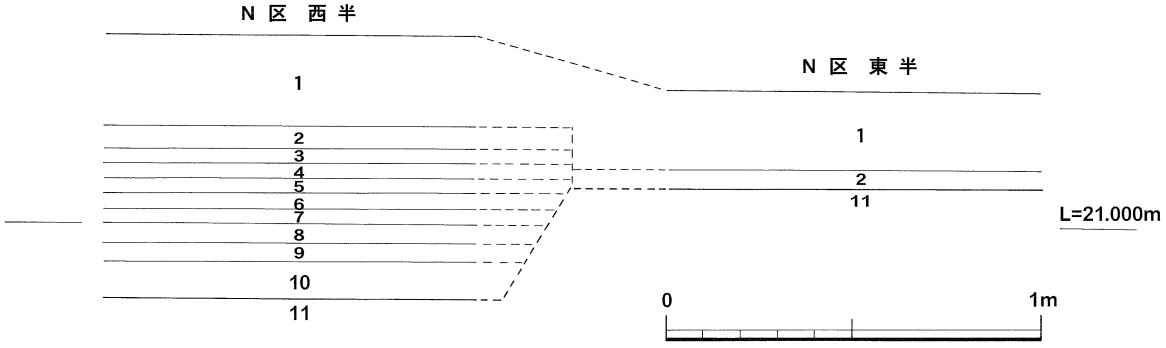
15．小川賢ほか2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　多肥宮尻遺跡』高松市教育委員会

第３章　調査の成果

第１節　調査地の概要と基本層序

調査前の状況は，花崗土を搬入して整地されており，N区とS区は水路で分断されているものの，N区は大きい１枚の敷地となっていた。しかしながら，第２図に見られるように，N区は北西隅のわずかに含まれる土地を除けば２枚の水田に分かれており，調査時にもコンクリート畦畔の基礎が残存しており，その確認ができた。N区については，地形の乱れから旧河道を想定していたが（大嶋2003），今回の調査で溝等の人工的改変により地形が乱れていることが判明した。なお，調査地周辺は平坦面が広がるが，これまでの発掘調査や微地形から香東川の旧河道が存在することが知られている。調査地は，多肥松林遺跡の中央部を北流し日暮・松林遺跡（都市計画道路）の北端へ流れる旧河道と，多肥宮尻遺跡から今回の調査地の東方を通り下池へ流入する旧河道に挟まれた微高地上に立地することになる。

基本層序については，N区の旧地形の変換点において堆積状況が変わっていたが，いずれも水平堆積であり，大雨による壁面の崩落もあったことから，柱状図のみ作成し，第３図に掲載した。N区東側は全体的に後世の耕作による削平が著しく，客土層の下層に見られる薄い床土層直下で黄色粘土層の地山となる。N区北西隅とS区についても同様の層序である。これに対しN区西側は，床土層以下に第３～９層に見られるように旧耕作土層や床土層が認められる。このうち下層のものは近世まで遡る可能性がある。この旧耕作土層や床土層の下層で第10層の灰オリーブ色粘質シルト層が堆積しており，遺物を多く包含していた。第10層出土遺物は第４図に掲載した。１は弥生土器の高杯である。２・３は弥生土器の底部である。４は須恵器の蓋である。５～７は須恵器の坏である。８・９は土師質土器の脚部である。10は白磁である。遺物は弥生時代から中世のものまで混在しており，中世後半の堆積層と考えられる。

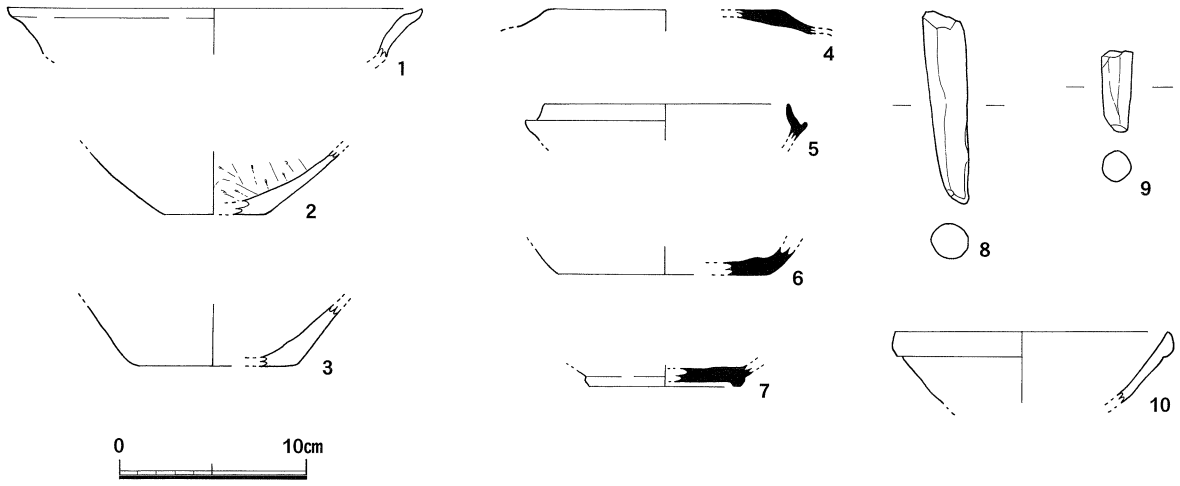


1．客土				7．2.5Y	8/1	灰白	シルト
2．7.5YR	5/6	明褐	砂混粘質土（床土）	8．10YR	6/2	灰黄褐	砂混粘質土（旧耕作土）
3．10YR	7/2	にぶい黄橙	シルト	9．7.5YR	5/2	灰褐	砂混粘質土（旧耕作土）
4．7.5YR	3/1	黒褐	粘土	10．5Y	5/2	灰オリーブ	粘質シルト
5．7.5YR	3/1	黒褐	粘土	11．2.5Y	8/6	黄	粘土（地山）
6．7.5YR	7/1	明褐灰	粘質シルト				

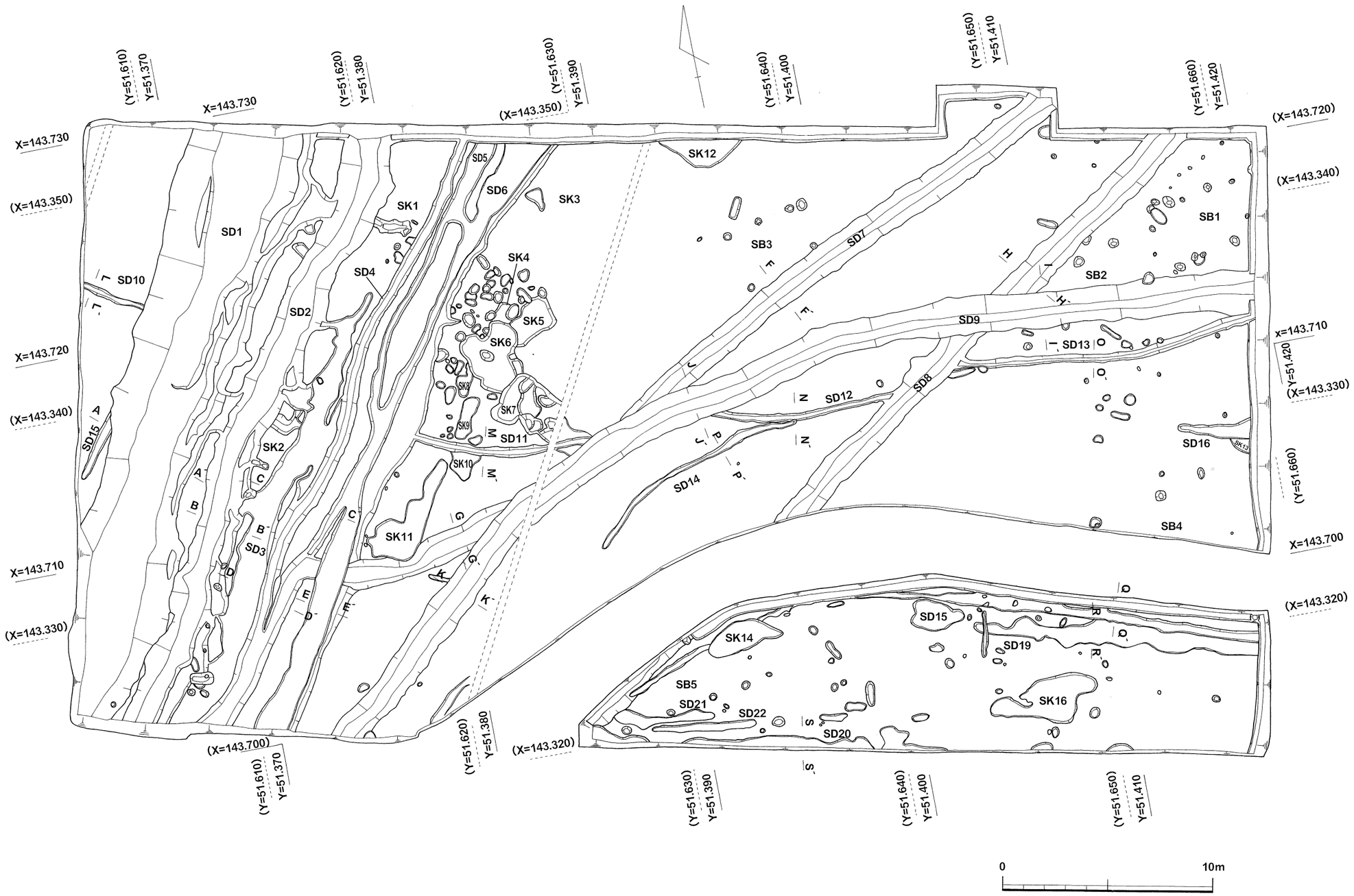
第３図　土層断面柱状図

この包含層の下層において黄色粘土層の地山を検出した。

遺構面は地山の上面の１面のみであり，発掘調査では遺構面直上まで機械掘削を行い，遺構検出を行った。溝22条，土坑16基，ピット164基を検出し，５棟の掘立柱建物が復元できた。遺構平面図は第５図に掲載した。なお，調査にあたっては事前に国土座標（世界測地系）に合わせて基準杭の打設を行った。しかしながら，これまでの周辺の調査においては日本測地系の座標を使用した調査例が多いことから，これらの調査例との整合性を測るために，報告書では併記した。



第４図　包含層出土遺物実測図



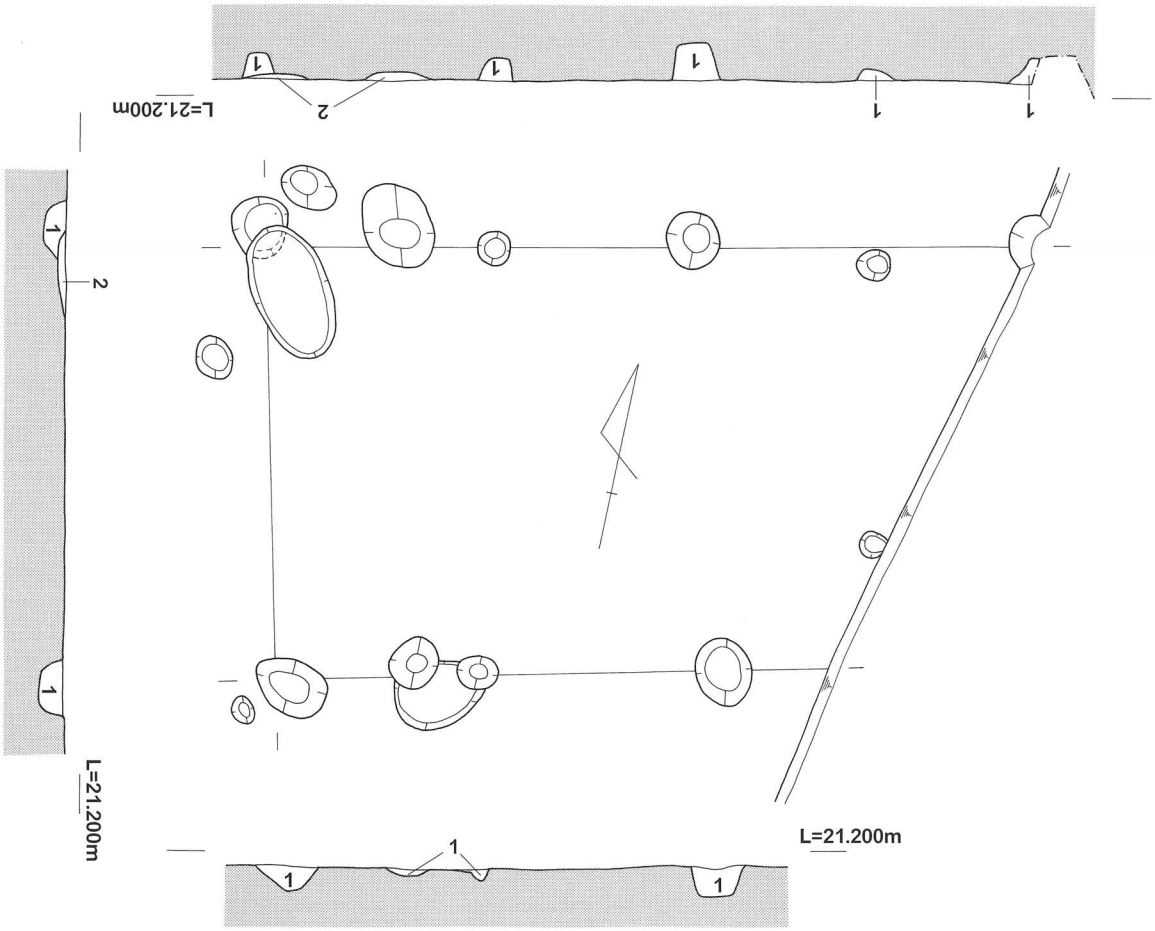
第 5 図　調査地平面図（S=1/200）

第2節　遺構

(1)　掘立柱建物

SB 1 （第 6 図）

N区北東端で検出した掘立柱建物である。東端は調査区外に延びる可能性があるが，東西 4 間（5.2 m）以上，南北 1 間（2.8m），床面積14.56㎡以上を測り，建物方位はN－77°－Eである。掘立柱建物を構成する柱穴は円形または楕円形を呈し，最大のもので径36㎝，深さ20㎝を測る。埋土は明暗褐色の粘土ブロックを含む黒褐色粘土層の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

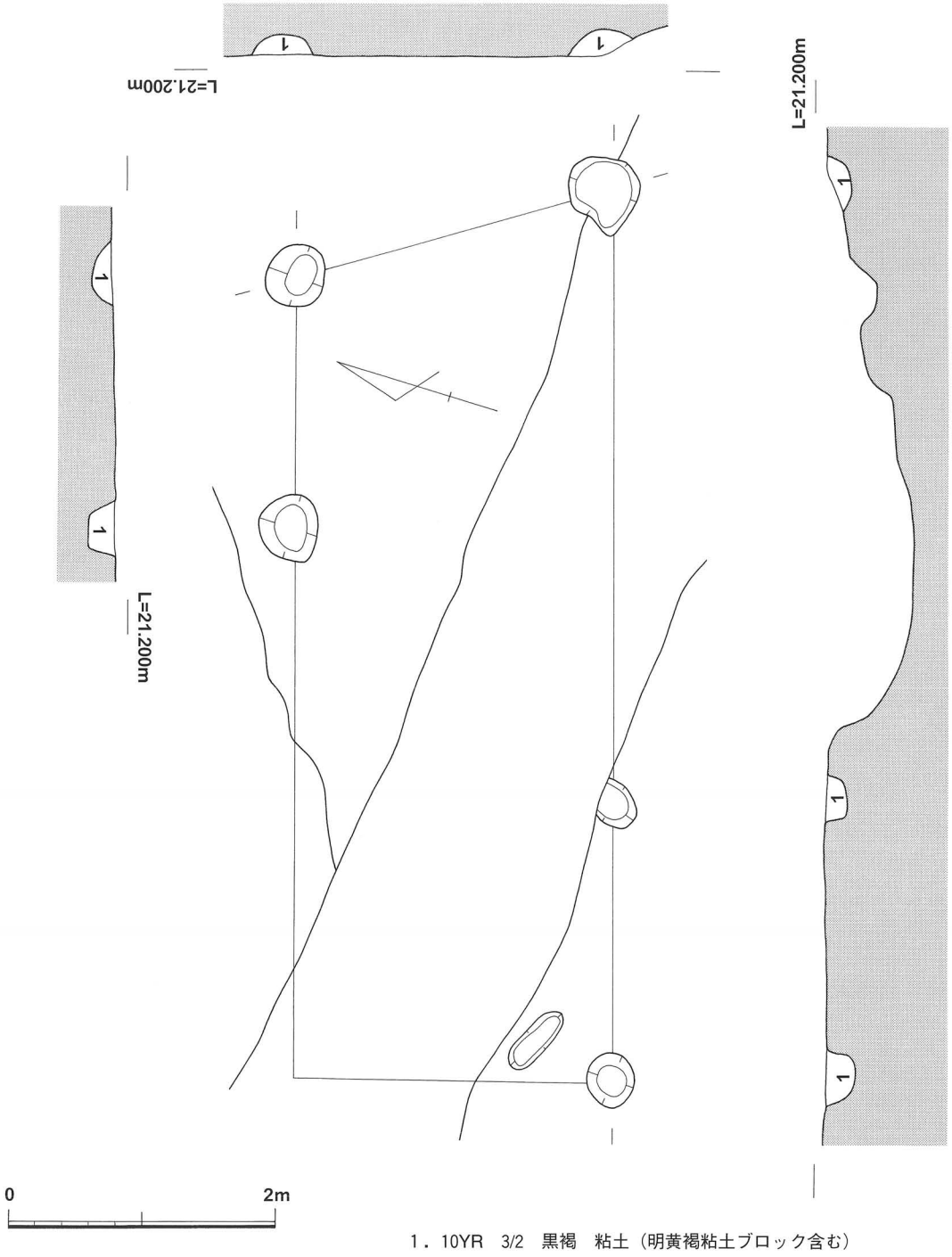


1．10YR　3/2　黒褐　粘土（明黄褐粘土ブロック含む）
2．7.5YR　4/1　褐灰　シルト

第 6 図　SB1平・断面図

SB2（第 7 図）

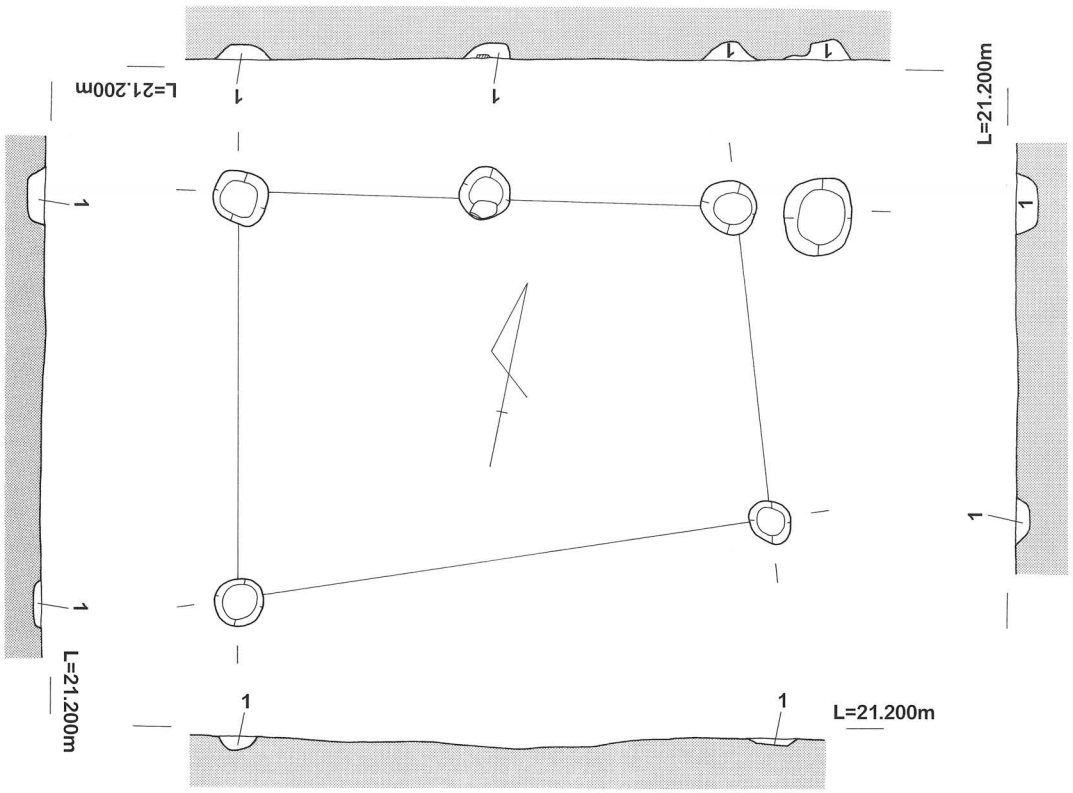
N区北東部で検出した掘立柱建物である。SD9に切られており不明な点が多いが，東西 3 間（6.6m），南北 1 間（2.4m），床面積15.84㎡を測り，建物方位はN－73°－Eである。掘立柱建物を構成する柱穴は円形を呈し，最大のもので径45㎝，深さ15㎝を測る。埋土は明暗褐色の粘土ブロックを含む黒褐色粘土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。



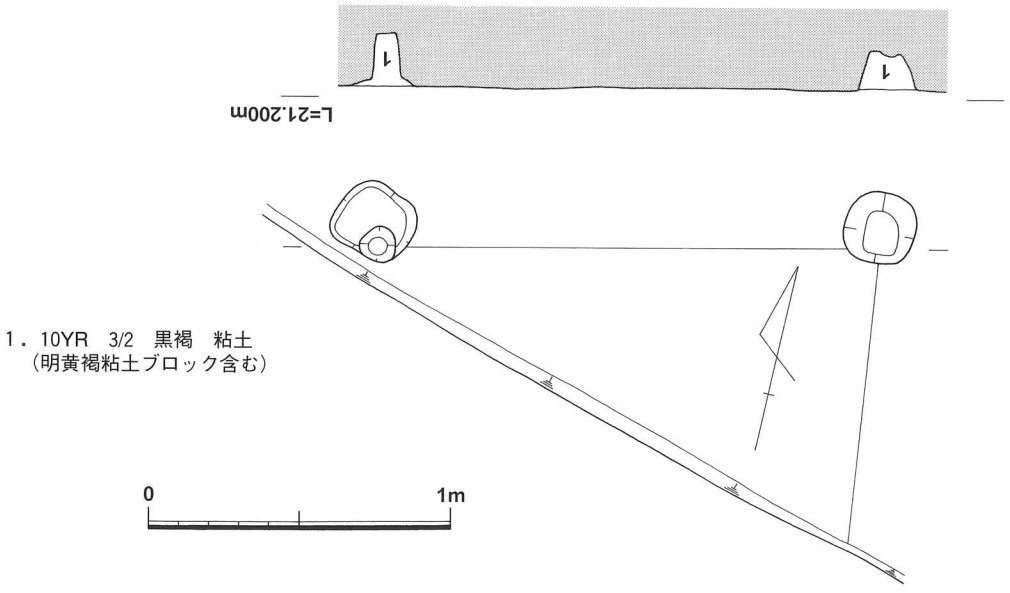
第７図　SB2平・断面図

SB3（第８図）

N区北部中央で検出した掘立柱建物である。削平により南辺中央の柱穴を欠くが，東西２間（3.6m），南北１間（2.7m），床面積8.4m²を測り，建物方位はN－76°－Eである。掘立柱建物を構成する柱穴は円形を呈し，最大のもので径30cm，深さ８cmを測る。埋土は明暗褐色の粘土ブロックを含む黒褐色粘土の単層である。北辺中央の柱穴において長辺15cm，短辺10cm，厚さ３cmの扁平な石材を検出した。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。



第８図　SB3平・断面図



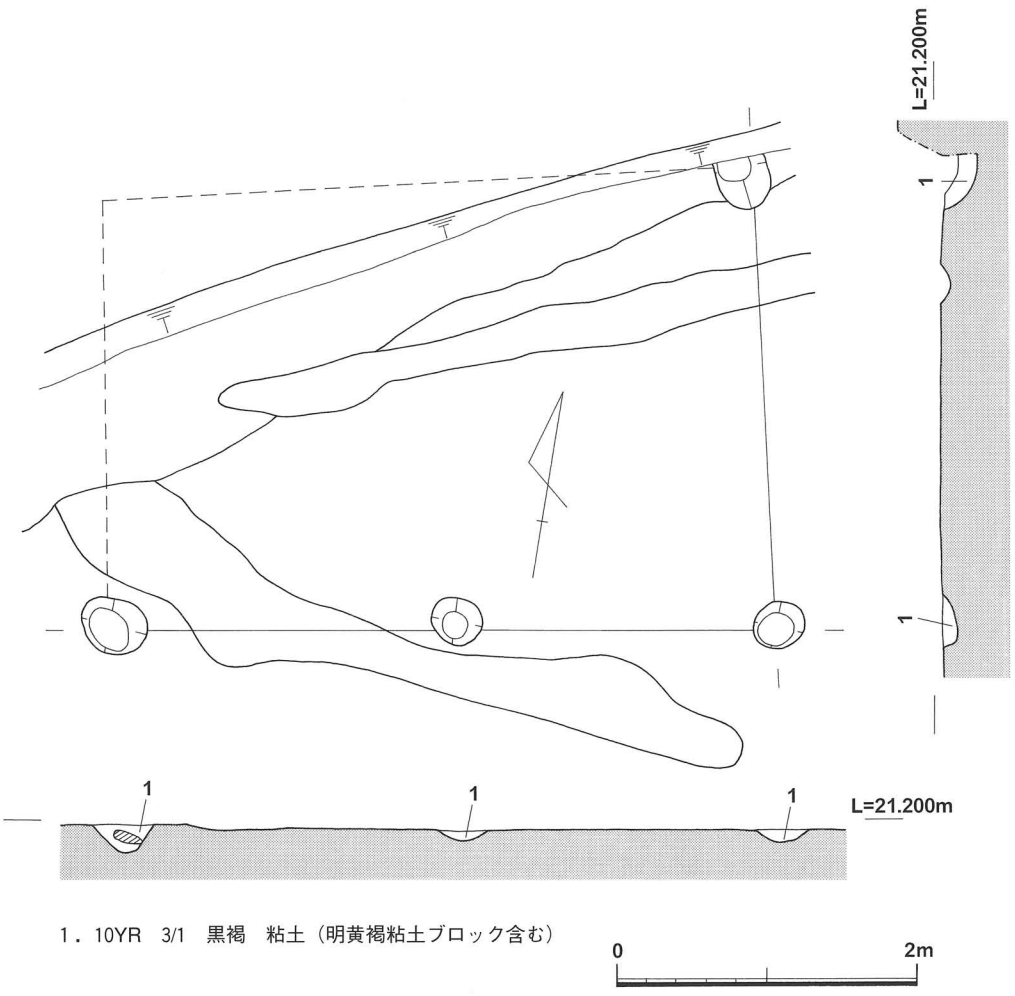
第９図　SB4平・断面図

SB4（第９図）

N区南東端で検出した掘立柱建物である。２基のピットから復元しており，調査区の南側に延びると考えられるが，S区では建物の続きが検出されておらず，東西２間×南北１間程度の規模が推定される。残存柱穴から推定すると建物方位はN－78°－Eであり，他の掘立柱建物とほぼ同じ方位を指向している。柱穴は１辺40cm程度の隅丸方形を呈し，西側の柱穴では南端に柱痕と考えられる直径20cm，深さ28cmの落ち込みが見られる。埋土は明暗褐色の粘土ブロックを含む黒褐色粘土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SB5（第10図）

S区西端で検出した掘立柱建物である。北辺が調査区外に延び，また北東隅の柱穴がSD8に切られているが，東西２間（4.5m），南北１間（3.0m），床面積13.0m²を測り，建物方位はN－79°－Eである。掘立柱建物を構成する柱穴は円形を呈し，最大のもので径34cm，深さ15cmを測る。埋土は明暗褐色の粘土ブロックを含む黒色粘土の単層である。南西隅の柱穴において直径16cm，厚さ５cmの扁平な石材を検出した。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。



第10図　SB5平・断面図

(2) 土坑

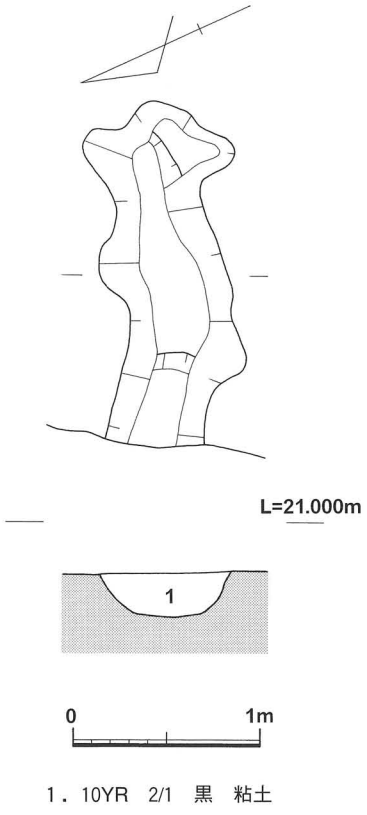
SK1（第11図）

N区北西部でSD2に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し，長辺1.84m以上，短辺70cmを測る。遺構底面は階段状を呈し，西側ほど深くなっており，最深部は40cmを測る。断面形態はU字を呈し，埋土は黒色粘土の単層である。出土遺物は無く，詳細な時期は不明である。

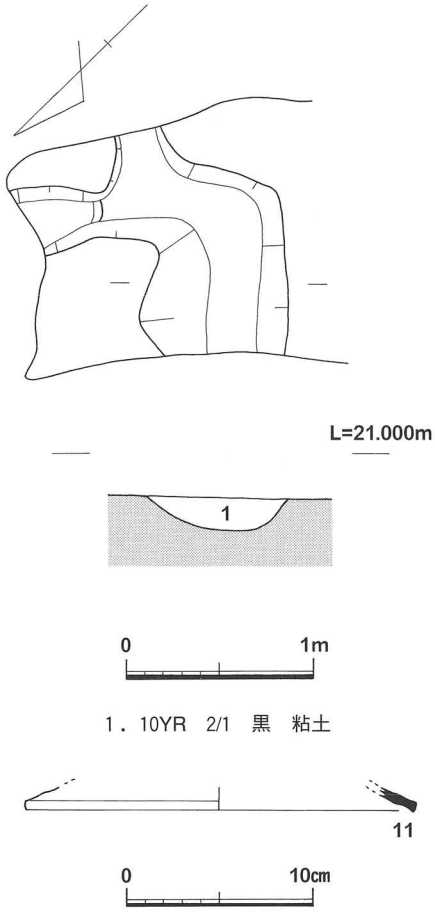
SK2（第12図）

N区西部中央でSD2及びSD3に切られた状態で検出した土坑である。平面形態はT字を呈し，東西1.2m以上，南北1.45m以上，深さ18cmを測る。断面形態はU字を呈し，埋土は黒色粘土の単層である。

出土遺物は第12図11の須恵器の蓋１点のみであり，７世紀頃の遺構と考えられる。



第11図　SK1平・断面図



第12図　SK2平・断面図及び出土遺物実測図

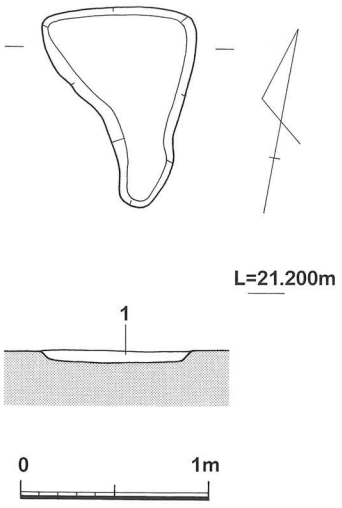
SK3（第13図）

N区北部中央で検出した土坑である。平面形態は三角形を呈し，長辺1.22m，短辺70cm，深さ６cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は黒色粘土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK4（第14図）

N区中央で検出した土坑である。SK5・6及びピットに切られ，平面形態規模は不明である。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は黒色粘土の単層で，深さ12㎝を測る。

出土遺物は第14図S1の削器１点のみである。弥生時代終末期の土器を包含するSK5・6に切られていることから，それ以前の遺構と考えられる。

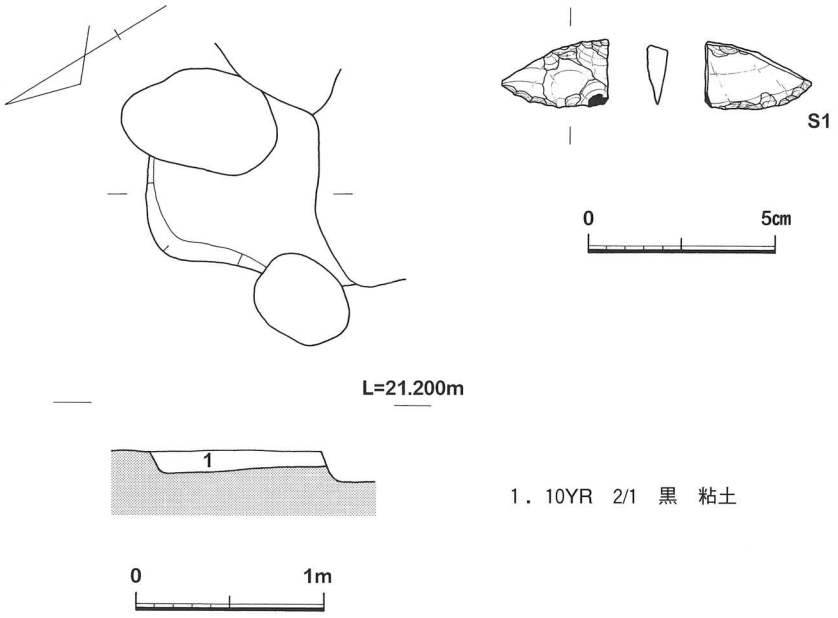


第13図　SK3平・断面図

SK5（第15図）

N区中央でSK6に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈すると考えられ，長辺2.17m以上，短辺1.75m，深さ20㎝を測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は２層に分層できる。上層は明黄褐色粘土ブロックを含む灰黄褐色粘土，下層は褐色粘土ブロックを含む明黄褐色粘土である。

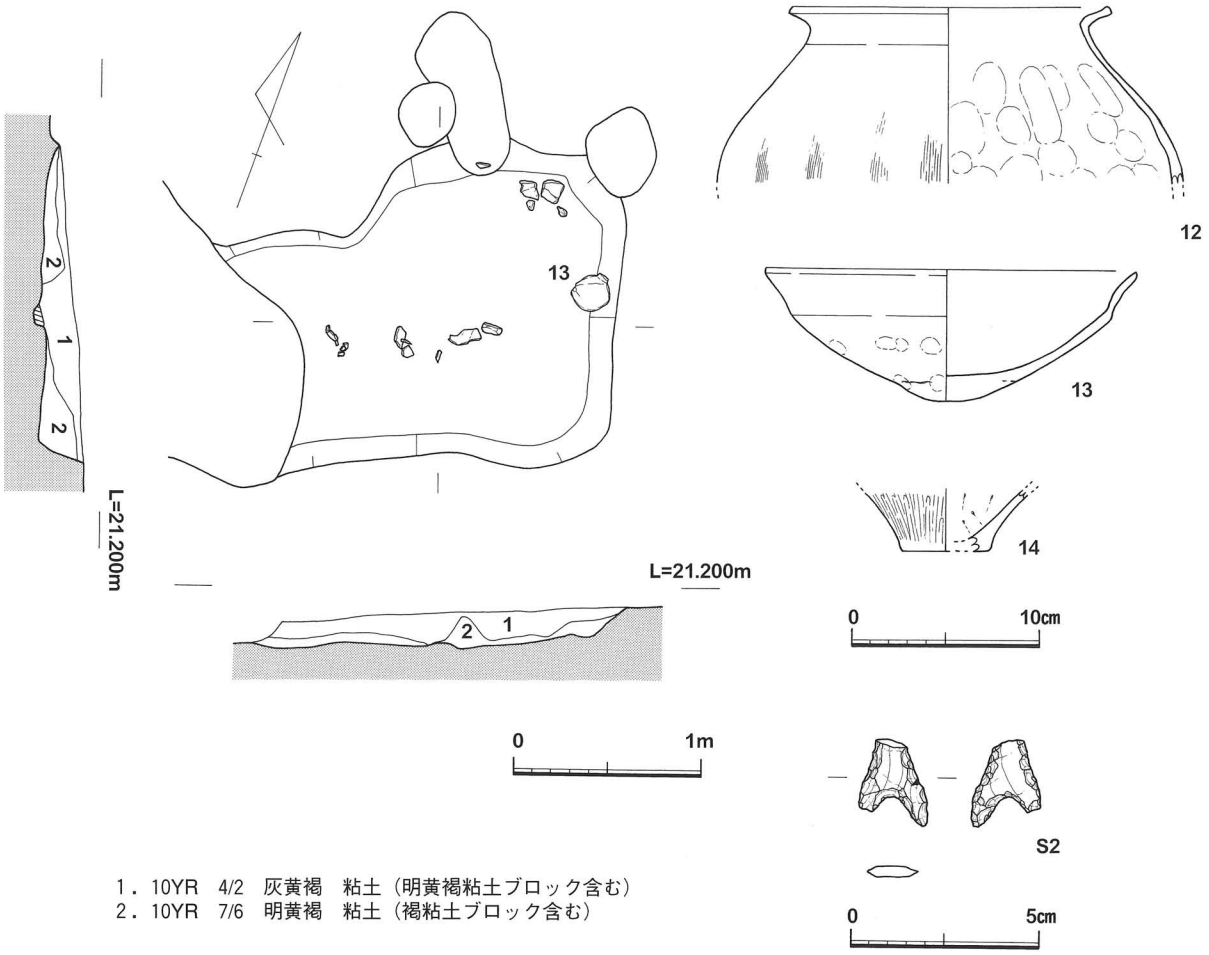
出土遺物は第15図に掲載した。12は弥生土器の甕である。外面タテハケ，内面指頭圧である。13は弥生土器の鉢である。高杯の脚部を除き，丸底にした形態で，外面指頭圧である。14は弥生土器の底部である。外面タテヘラミガキ，内面タテヘラケズリである。S2は凹基式の石鏃である。先端部と基部の一部を欠くが，両面より細かく調整されている。出土遺物から弥生時代終末期の遺構と考えられる。



第14図　SK4平・断面図及び出土遺物実測図

SK6（第16図）

N区中央でSK7に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は不整形で，東西3.18m，南北3.4m，深さ22㎝を測る。断面形態は逆台形を呈するが，底面の凹凸が著しくピット状に窪む部分が見られる。埋土は２層に分層できる。上層は明黄褐色粘土ブロックを含む褐色粘土，下層は明黄褐色粘土ブロックを含むにぶい黄橙色粘土である。



第15図　SK5平・断面図及び出土遺物実測図

出土遺物のうち図示できたものは第16図15の弥生土器の高杯１点のみである。外面ヨコヘラケズリ，内面分割ヘラミガキである。口縁部を下に伏せた状態で検出しており，脚部片は出土していない。出土遺物から弥生時代終末期の遺構と考えられる。

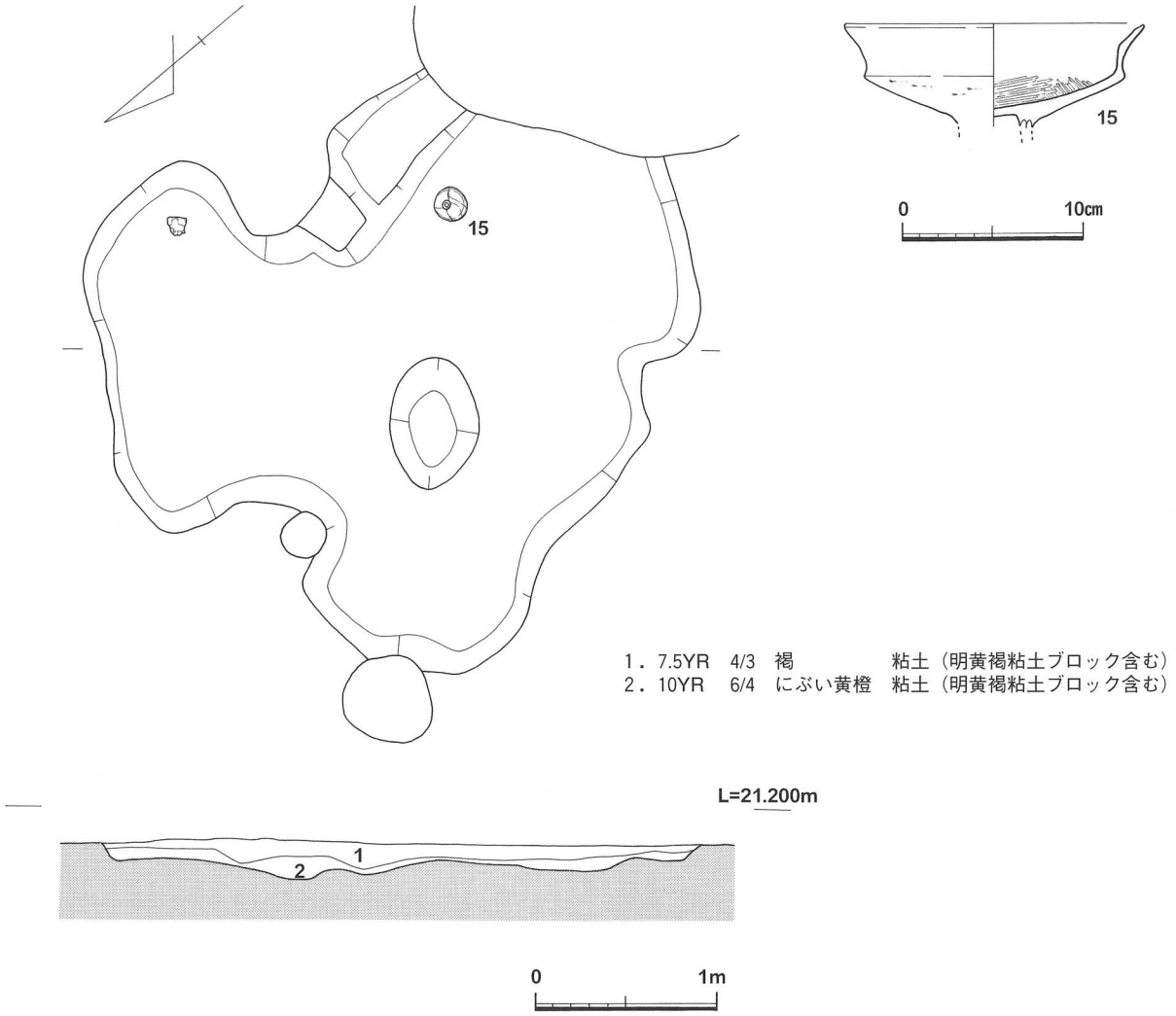
SK7（第17図）

N区中央でSD9・11に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し，長辺4.8m，短辺2.67m，深さ20cmを測る。遺構底面は凹凸が著しく，ピット状に窪む部分が多く見られる。埋土は明黄褐色粘土ブロックを含む黒褐色粘土の単層である。

出土遺物は第17図に掲載した。16・17は弥生土器の甕である。17は外面タテハケ，内面指頭圧である。18～20は弥生土器の底部である。21は土器片転用の紡錘車である。22は粘土塊である。S3は平基式の石鏃である。出土遺物から弥生時代終末期の遺構と考えられる。

SK8（第18図）

N区中央でSK6に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は不整形で，長辺1.66m，短辺74cm，



第16図　SK6平・断面図及び出土遺物実測図

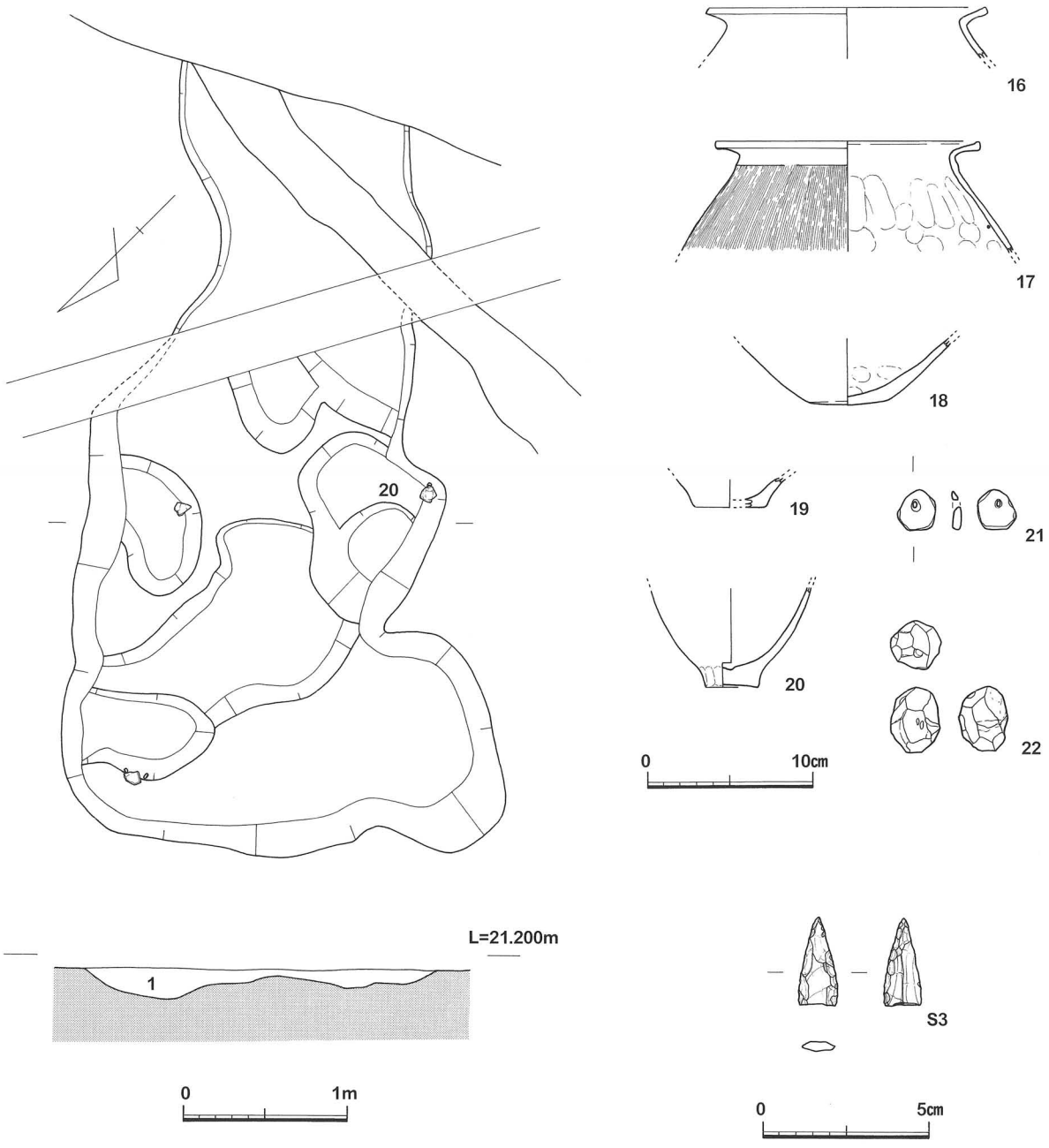
深さ６㎝を測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は黒色粘土の単層である。

出土遺物は第18図に掲載した。S4の削器１点のみである。弥生終末期の土器を包含するSK6に切られていることから，それ以前の遺構と考えられる。

SK9（第19図）

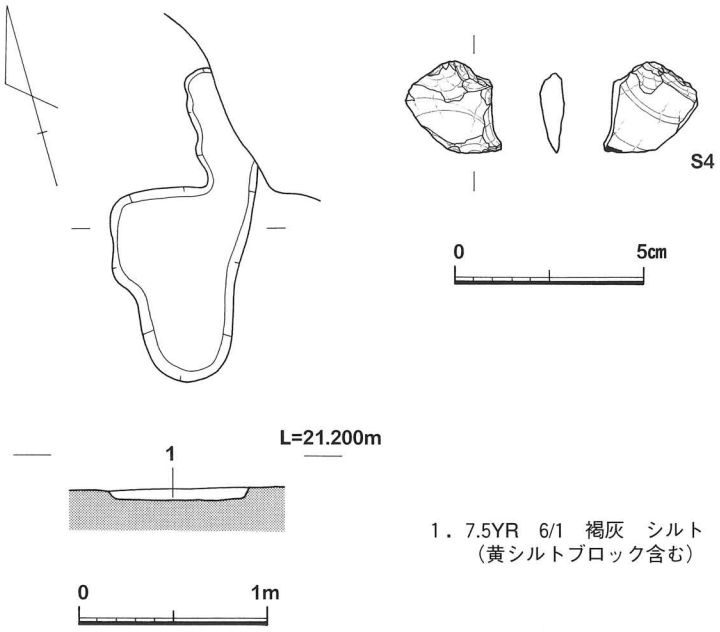
N区中央で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し，長辺2.2m，短辺84㎝，深さ４㎝を測る。埋土は黄色シルトブロックを含む褐灰色シルトの単層で，薄い堆積である。

出土遺物は第19図に掲載した。23は須恵器の坏である。S5は石鏃である。土坑としているが，後述するSK10・11と同じ埋土であり，また非常に薄い堆積であることから，基本層序で示した第10層の包含層のわずかな落ち込みの可能性が高い。弥生時代や古墳時代の遺物を含んでいるが，SK10・11と同時期のものと考えられることから，中世頃の堆積が想定される。

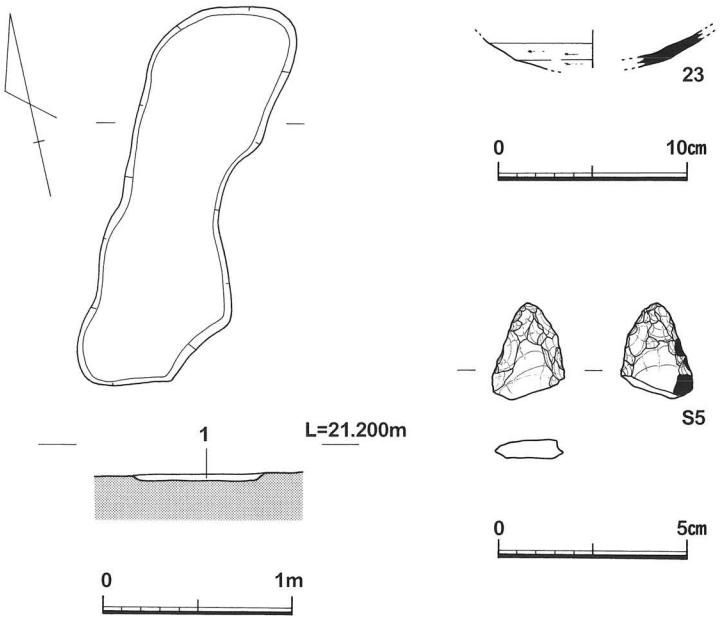


1．7.5YR　3/2　黒褐　粘土（明黄褐粘土ブロック含む）

第17図　SK7平・断面図及び出土遺物実測図



第18図　SK8平・断面図及び出土遺物実測図



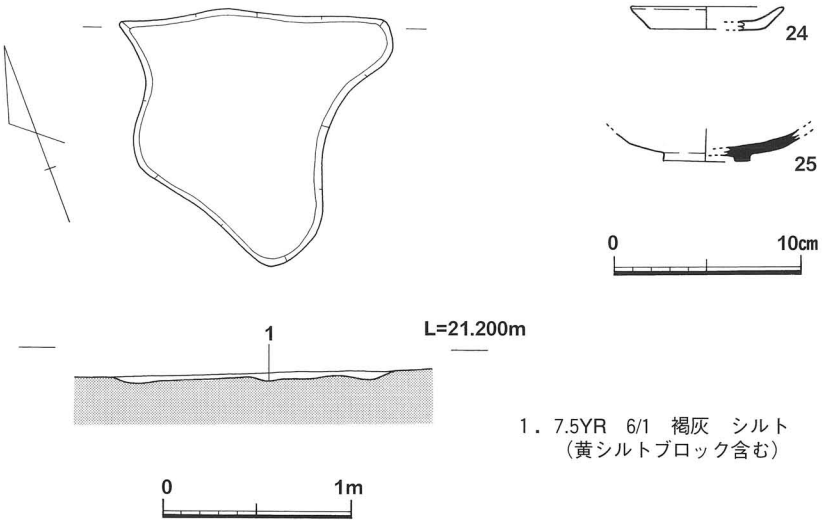
1．7.5YR　6/1　褐灰　シルト（黄シルトブロック含む）

第19図　SK9平・断面図及び出土遺物実測図

SK10（第20図）

N区中央で検出した土坑である。平面形態は不整形で，長辺1.46m，短辺1.36m，深さ3cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを含む褐灰色シルトの単層で，薄い堆積である。

出土遺物は第20図に掲載した。24は土師器の皿である。25は須恵器の埦である。土坑としているが，SK9同様，基本層序で示した第10層の包含層のわずかな落ち込みの可能性が高い。なお，遺物から中世頃の堆積が想定される。



第20図　SK10平・断面図及び出土遺物実測図

SK11（第21図）

N区中央で検出した土坑である。平面形態は不整形で，長辺5.72m，短辺2.22m，深さ5cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを含む褐灰色シルトの単層で，薄い堆積である。

出土遺物は第21図に掲載した。26は龍泉窯系青磁碗である。外面に鎬蓮弁が見られる。27は須恵器の埦である。28は土師器の坏である。土坑としているが，SK9同様，基本層序で示した第10層の包含層のわずかな落ち込みの可能性が高い。なお，出土遺物から中世頃の堆積が想定される。

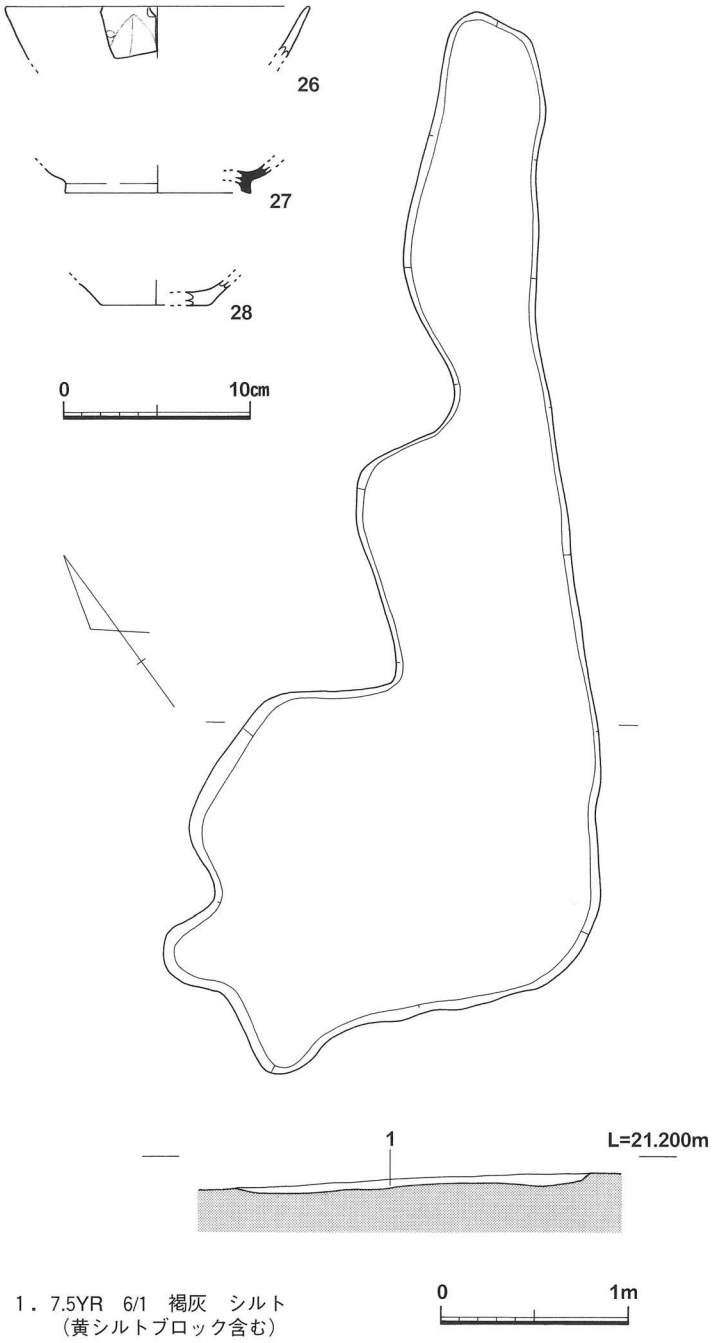
SK12（第22図）

N区中央北端で検出した土坑である。北側が調査区外に延びるため平面形態は不明であるが，長辺4m以上，短辺1.35m以上，深さ10cmを測る。断面形態は浅いレンズ状の堆積で，埋土は灰白色シルトの単層である。

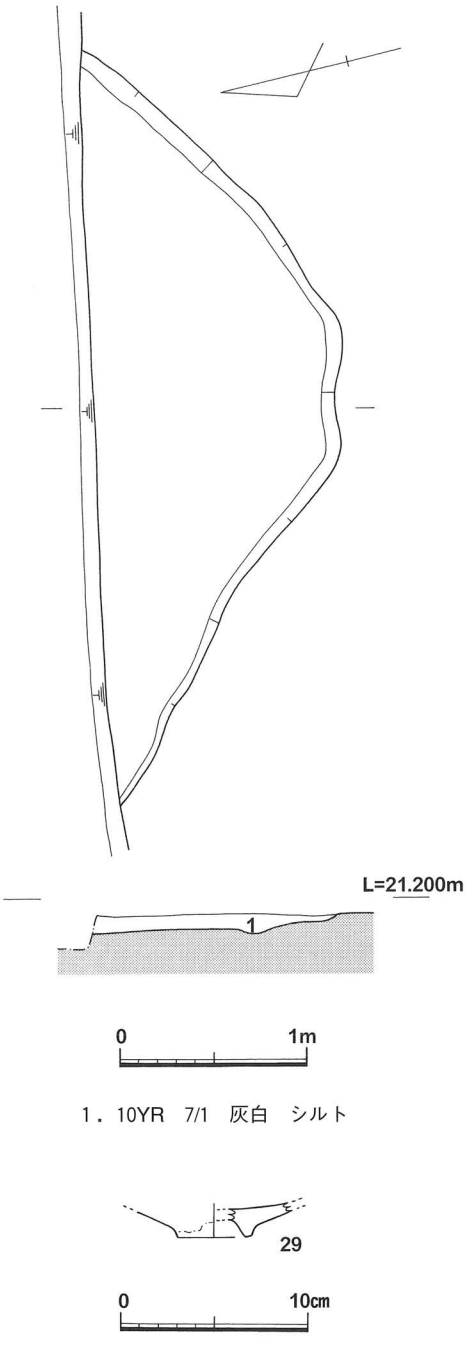
出土遺物は第22図29の肥前系磁器の皿1点のみである。出土遺物から近世の遺構と考えられる。

SK13（第23図）

N区南東部で検出した土坑である。北側がSD16に切られ，東側は調査区外に延びるため平面形態は不明であるが，東西92cm以上，南北70cm以上，深さ5cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は黒褐色粘土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。



第21図　SK11平・断面図及び出土遺物実測図



第22図　SK12平・断面図及び出土遺物実測図

SK14（第24図）

S区で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径3.67m，短径1.44m，深さ５㎝を測る。埋土は黒色粘土ブロックを含む褐灰色シルトの単層で，薄い堆積である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，SK12等の近世の遺構の埋土に近似していることから近世の遺構と考えられる。

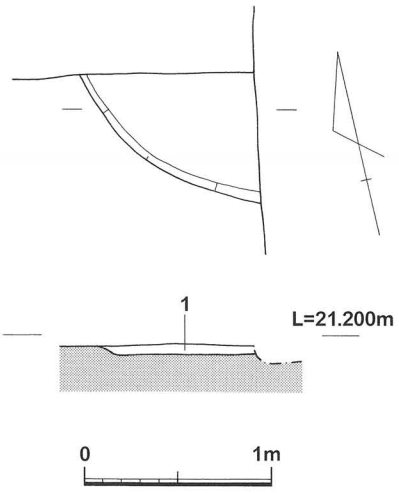
SK15（第25図）

S区で検出した土坑である。平面形態は不整形で，長辺2.6m，短辺1.36m，深さ５㎝を測る。埋土は褐灰色粘質シルトの単層で，薄い堆積である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，SK14同様に，埋土から近世の遺構と考えられる。

SK16（第26図）

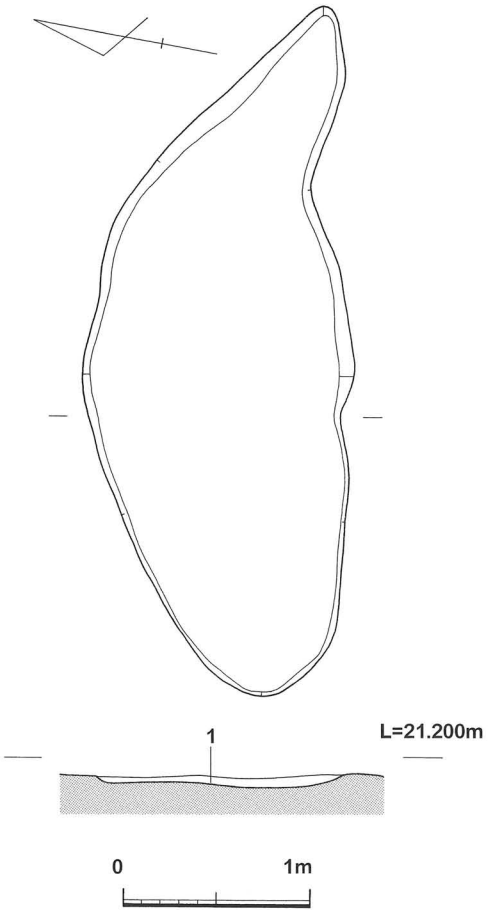
S区で検出した土坑である。平面形態は不整形で，長辺5.22m，短辺2.36m，深さ５㎝を測る。埋土は灰色粘質シルトの単層で，薄い堆積である。

出土遺物は第26図に掲載した。30は弥生土器の甕である。口縁部外面に刻目，頸部外面に押圧突帯を巡らせている。31は弥生土器の高杯である。出土遺物は，いずれも弥生時代中期のものであるが，SK14・15同様，埋土から近世の遺構と考えられる。



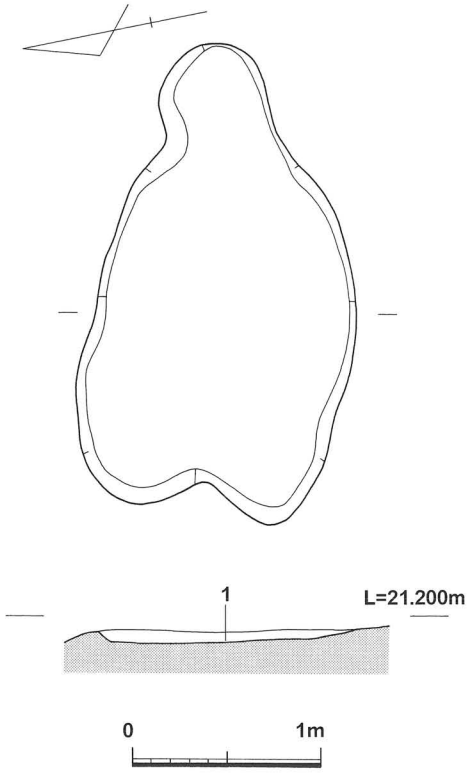
1．10YR　3/1　黒褐　粘土

第23図　SK13平・断面図



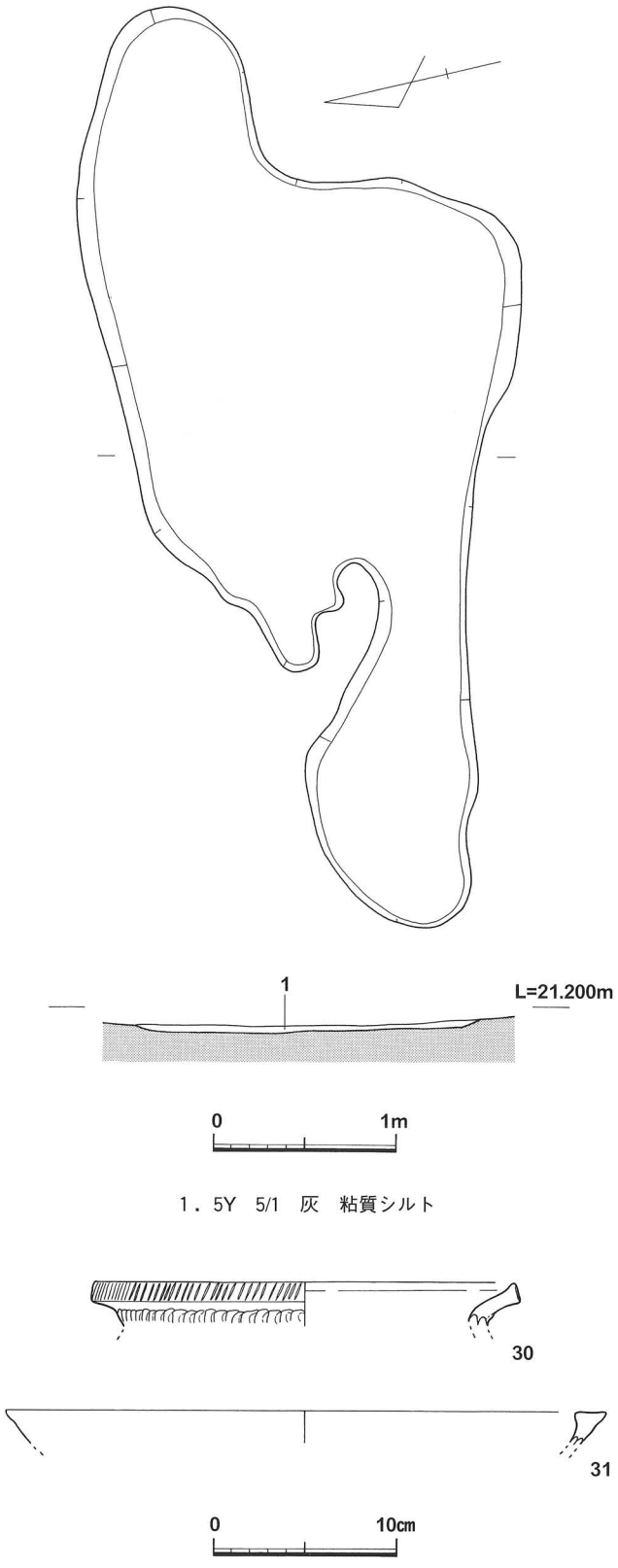
1．10YR　5/1　褐灰　シルト（黒粘土ブロック含む）

第24図　SK14平・断面図



1．10YR　5/1　褐灰　粘質シルト

第25図　SK15平・断面図



第26図　SK16平・断面図及び出土遺物実測図

(3) 溝

SD 1 （第27～50図）

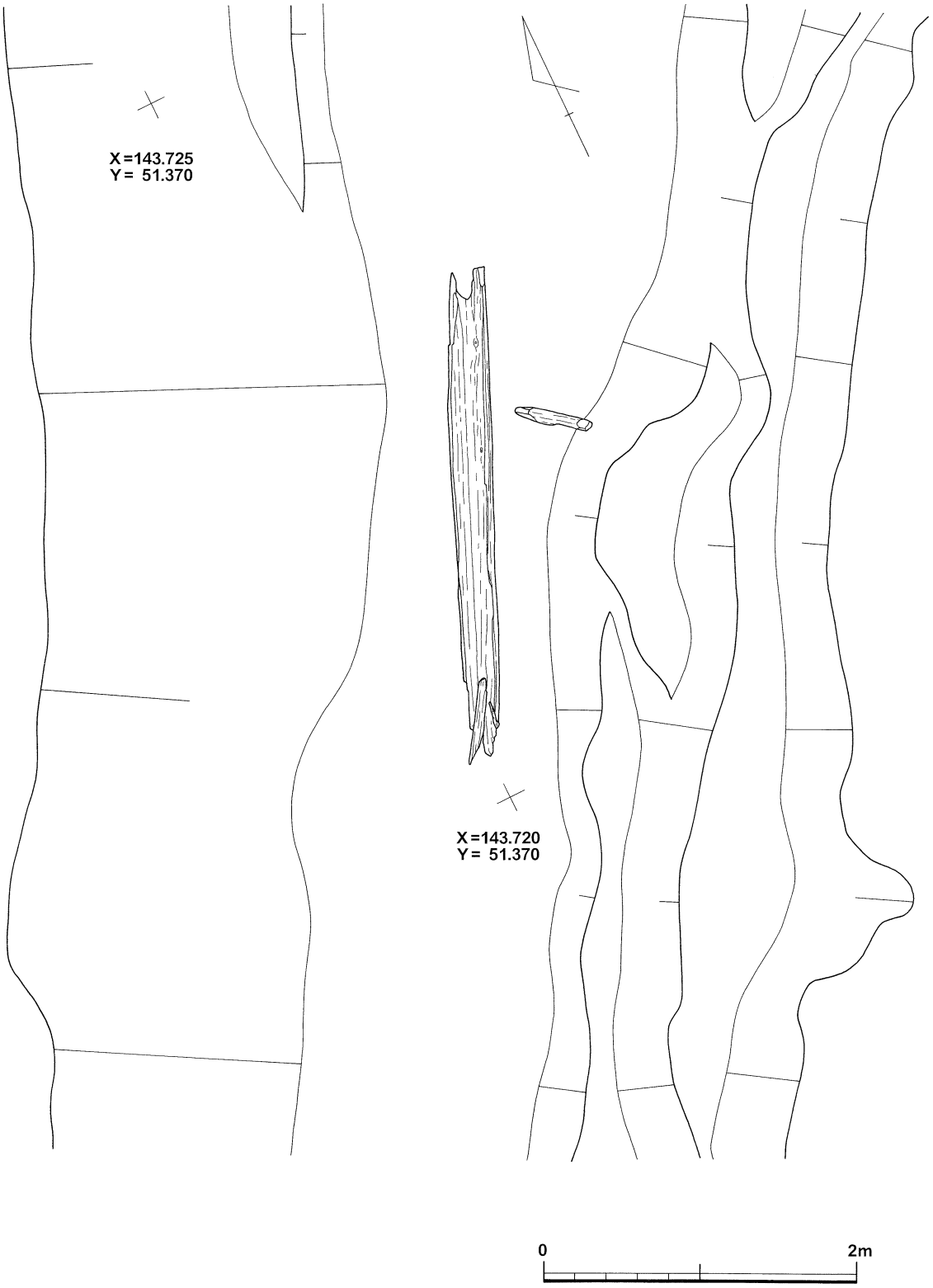
N区西端で検出した溝である。最大幅5.7m，深さ1.5m，検出長30mを測る。ほぼ直線的な溝で，断面形状は逆台形を呈し，埋土は10層に分層できる。第１～３層は褐～黒褐色の粘土層で，上層とした。第４～９層は黒～灰色の植物遺存体を含む粘土層で，中層とした。第10層は暗緑灰色の礫混粘土層で，下層とした。遺物は中層及び下層に多く見られた。出土遺物は第29～50図に掲載した。

第29図は上層出土土器である。32～36は弥生土器である。32～34は底部である。35は高杯の裾部で，２個１対の円孔が見られる。36は甕の口縁部である。37は土師器の直口壺である。外面は体部下半のヨコヘラケズリ後，やや粗雑なヨコヘラミガキを施している。内面の体部上半は指頭ナデであるが，接合痕が明瞭に残っている。体部下半は板ナデ，口縁部はタテヘラミガキである。

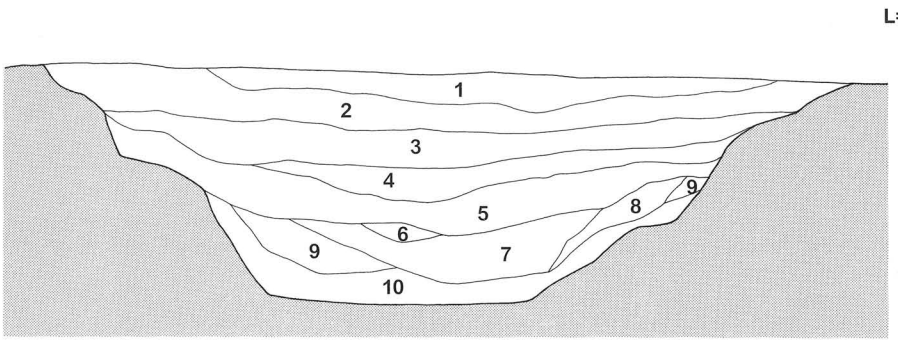
第30図は上層出土木器である。W1は建築部材である。W2・W3は板材である。W4は柄である。

第31図は上層出土石器である。S6は緑泥片岩製の柱状片刃石斧である。装着時の擦痕が残る。

第32～35図は中層出土土器である。38・39は弥生時代前期の壺体部である。いずれも３条のヘラ描沈線を施している。40～65は弥生時代中期の土器である。40～44は甕である。40は口縁端部をやや拡張させ，刻目を施している。41は口縁端部を上下に拡張させ，凹線３条を巡らせ，頸部に押圧突帯１条を巡らせている。42は口縁端部に凹線２

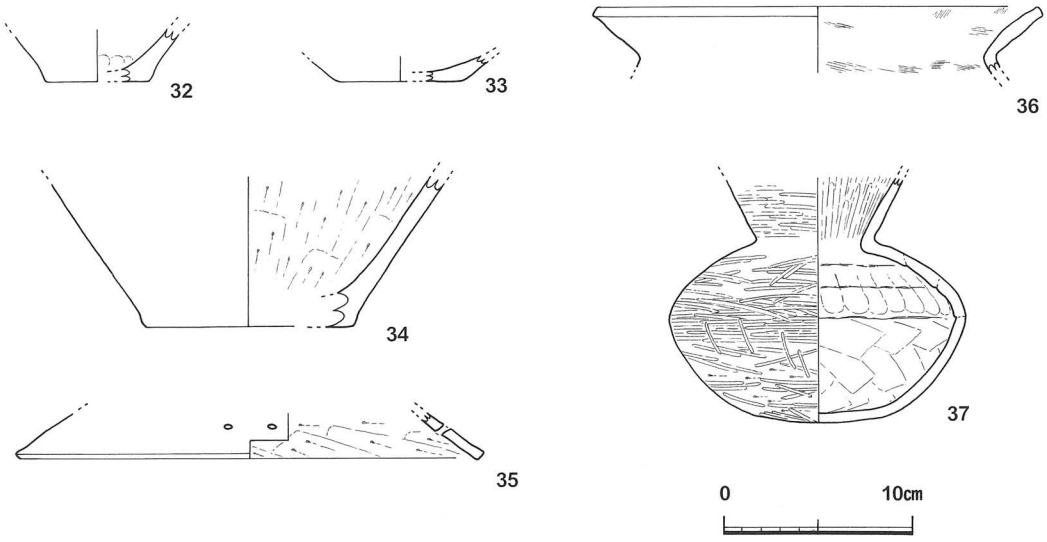


第27図　SD1木樋出土状況図



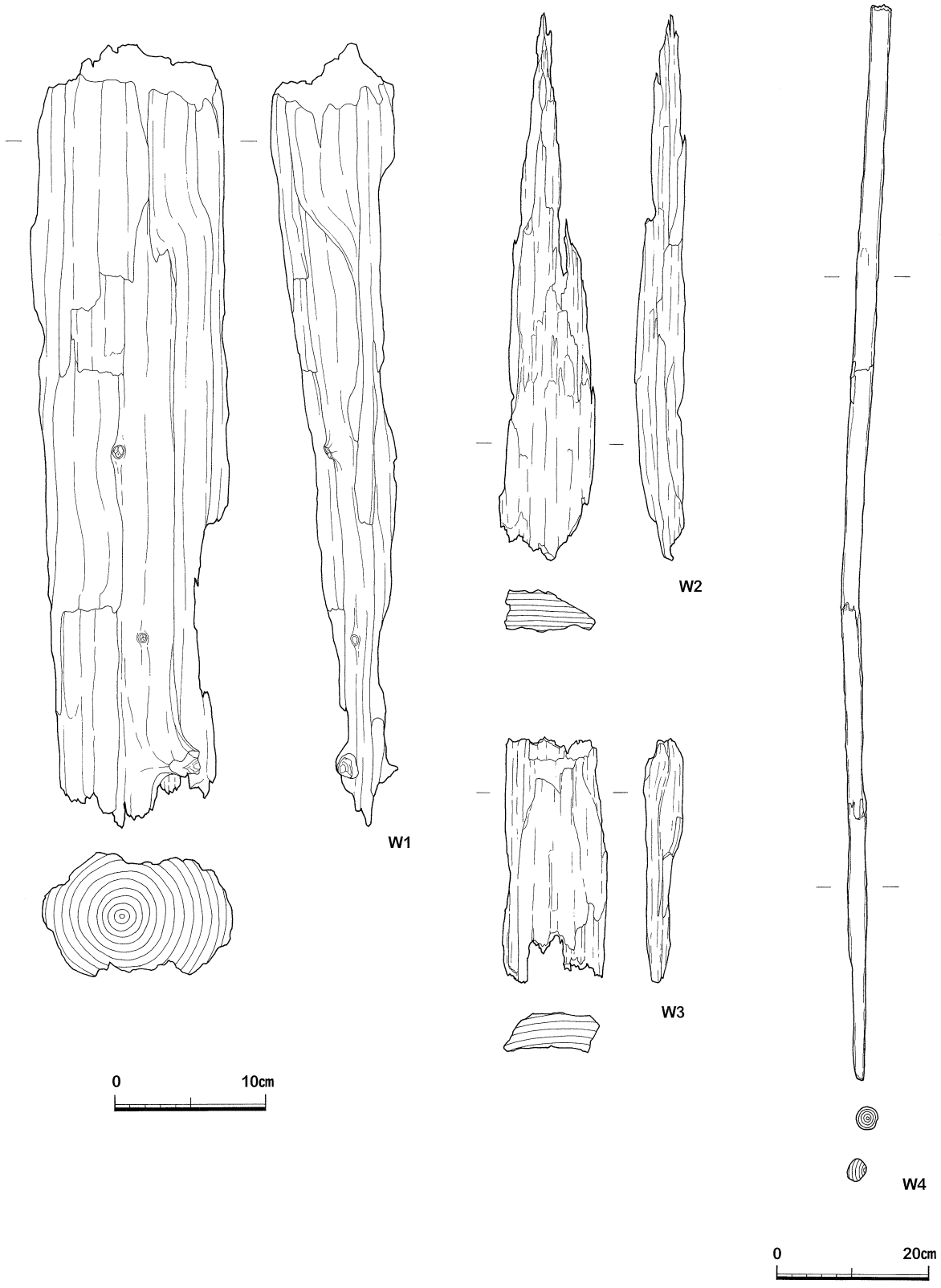
1．7.5YR	4/3	褐	粘土	6．10Y	5/1	灰	粘土
2．7.5YR	3/1	黒褐	粘土	7．5Y	2/1	黒	粘土
3．10YR	3/1	黒褐	粘土	8．5Y	4/1	灰	粘土
4．10YR	1.7/1	黒	粘土	9．2.5Y	4/1	黄灰	粘土
（植物遺存体多く含む）				10．10GY	4/1	暗緑灰	礫混粘土
5．2.5Y	2/1	黒	粘土				

第28図　SD1断面図

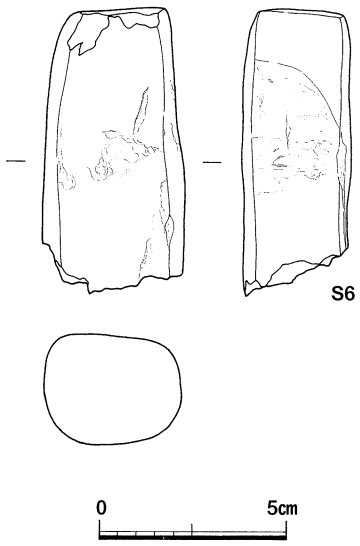


第29図　SD1上層出土土器実測図

条を巡らせている。45～49は細頸壺である。45～47は１条，48・49は口縁部外面に２条の突帯を巡らせており，47～49は刻目を施している。49の外面はタテハケ，内面は板ナデと指頭圧である。50はミニチュアの壺である。外面は摩滅しているが，内面上半は指頭ナデ，下半は粗いヨコハケである。51～55は広口壺である。51は口縁端部に２段の刻目を施している。52は口縁端部及び口縁部内面に斜格子文を施し，小円孔が見られる。53は口縁端部に凹線３条を巡らせた後刻目を施している。内面は斜格子文と櫛原体による刺突文が見られる。54は口縁端部に刻目を施している。内面には突帯を２条貼り付けており，その外側に波状文を巡らせている。55は口縁端部及び口縁部内面に斜格子文を施しており，３個の小円孔が見られる。頸部には突帯を１条貼り付けている。56～60は高杯である。56～58は大型のものである。



第30図　SD1上層出土木器実測図



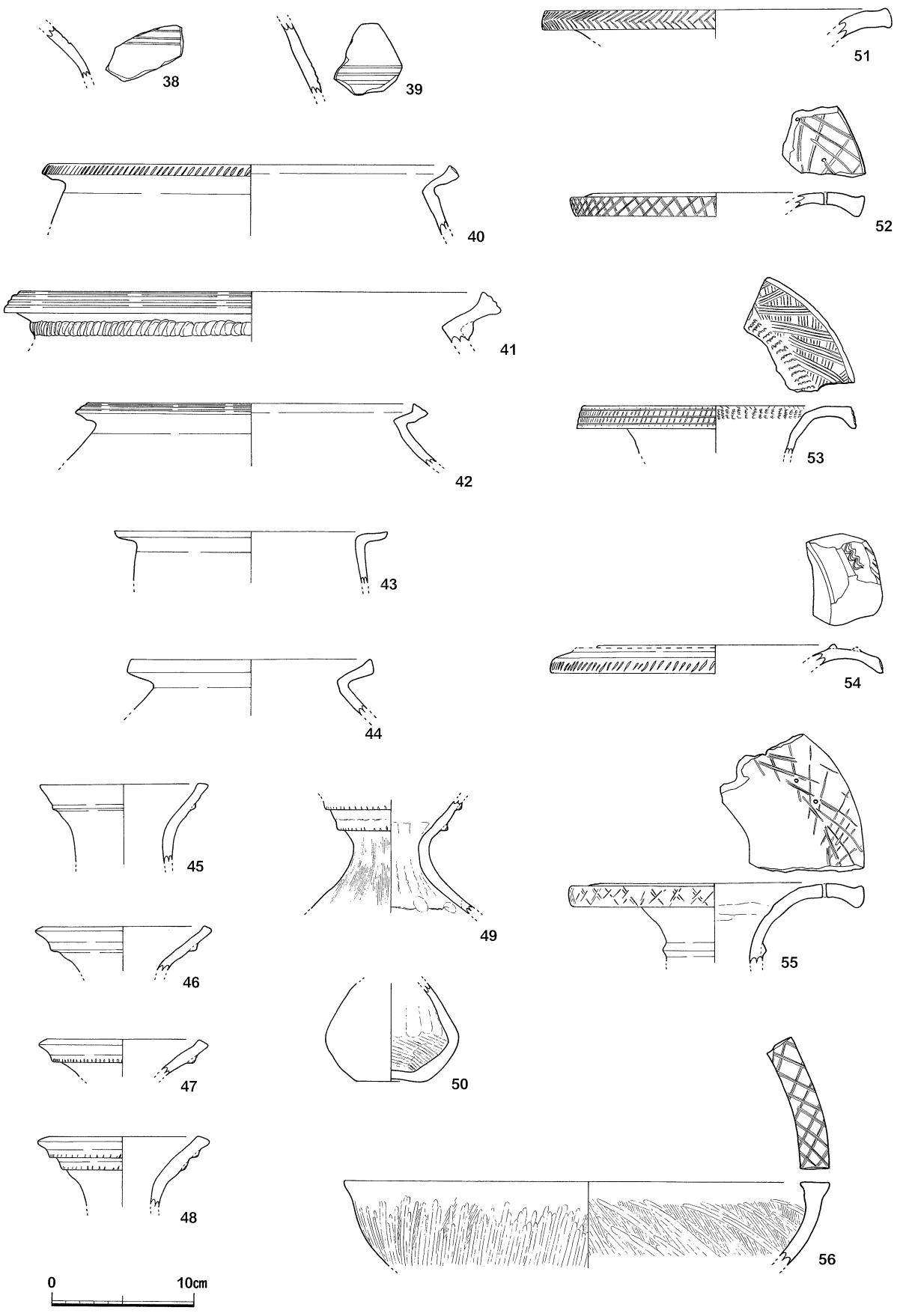
第31図　SD1上層出土石器実測図

56は内外面ともタテハケ後やや粗雑なヘラミガキである。口縁部上面には斜格子文を施している。57は口縁部外面に3条の刻目突帯を巡らし，棒状浮文を縦に貼り付けている。口縁部上面には斜格子文と3個1対の円形浮文を施している。58は口縁部外面に凹線1条を巡らせている。59・60は小型のものである。60は口縁部外面に凹線2条を巡らせている。61は高杯の脚柱部である。突帯を2条貼り付けて坏部と脚部を区画している。外面は坏部タテハケ，脚部タテヘラミガキである。62～64は脚部である。65はジョッキ形土器の把手である。66～73は弥生後期後半の土器である。66・67は甕である。66は口縁端部をやや垂下させており，外面ヨコヘラミガキ，内面ハケ状のヨコヘラケズリである。67は球形の体部を呈し，外面タテハケ，内面指頭圧である。68・69は広口壺である。68は口縁端部を拡張させ，凹線2条を巡らせている。外面はタタキ後タテハケ，内面はヨコヘラケズリ後指頭圧である。69は外面板ナデ，内面指頭圧である。70は製塩土器の脚部である。外面指頭圧，内面ヨコヘラケズリ後指頭圧である。71は大型の鉢である。72・73は高杯である。73は外面ヨコヘラケズリ後ヨコヘラミガキ，内面ヨコハケ後ヨコヘラミガキである。74～106は弥生土器の底部である。107・108は土師器で，W50の木樋周辺から出土したものである。107は鉢である。口縁端部でわずかに外方へ開いており，外面ナデ後分割ヘラミガキ，内面は放射状に暗文を施している。108は甕で，外面にススの付着が認められる。球形の体部を呈し，外面上半は粗いタテハケ後ヨコハケ，下半は細かいタテハケ，内面はタテヘラケズリ後底面のみ指頭圧である。109～111は須恵器である。109は蓋である。110は坏である。111は壺である。112は粘土塊である。

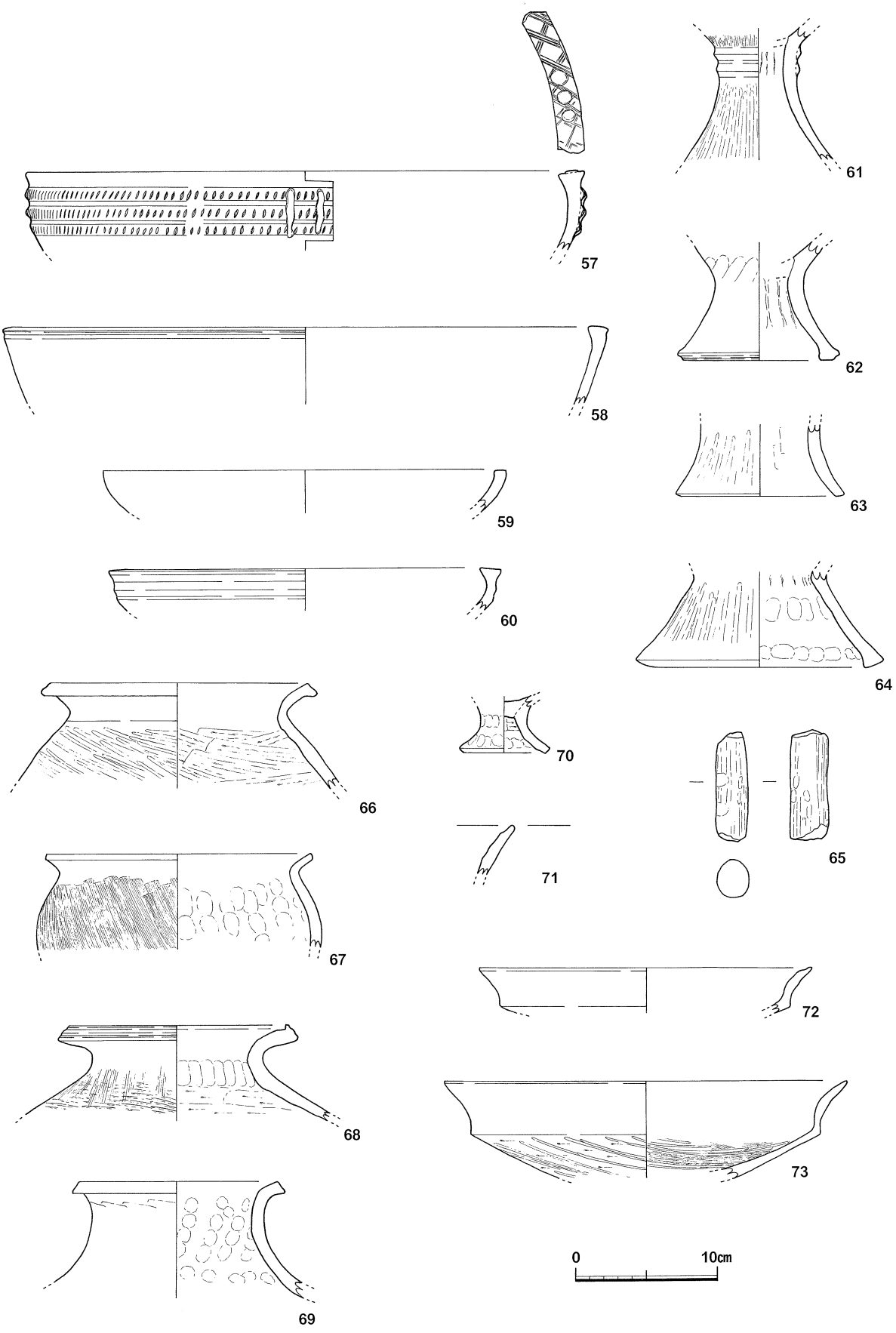
第36～41図は中層出土木器である。W5～W30は加工木の小片である。W13・W16・W20・W21・W22は炭化している。W31は板材である。W32・W33はミカン割材である。W34は断面を長方形に仕上げている加工木である。W35～38先端に切断面を残す加工木である。W38は断面を長方形に仕上げている。W39は板材である。W40は先端に切断面を残し，上部は炭化している。W41～W46は柄の一部と考えられる。W47は杭である。樹皮が残り，先端部を粗く削っている。W48も杭と考えられるが，上下両方とも削っている。W49は広鍬の未製品である。W50は木樋である。1本の木を刳り抜いて造られたもので，長さ3.2mを測る。刳り抜いた部分は平滑に仕上げているが，裏面は炭化しており，細かく削られた状態をよく残している。

第42図は中層出土石器である。S7は削器である。背部に自然面を残す剥片の一部を細かく調整し，刃部をつくっている。S8も側縁部に自然面を残す剥片を利用した削器である。S9～S11は石庖丁である。S10は抉りを持つもので，刃部は片面から調整している。S11は完形品であるが，小型で抉りも浅い。S12～S14は石鏃である。S15は太型蛤刃石斧である。S16は砥石である。

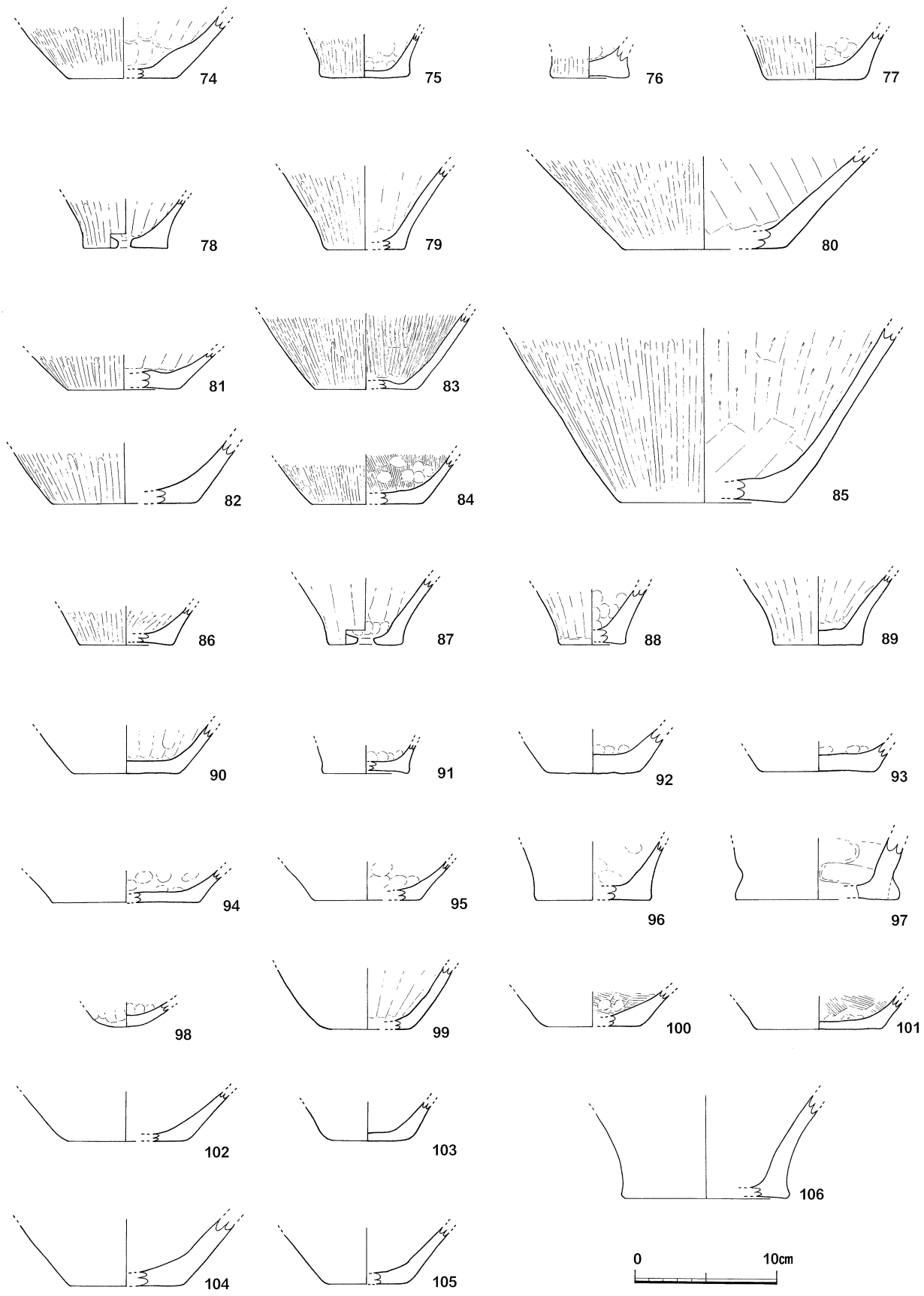
第43～48図は下層出土土器である。113は弥生時代前期の壺体部である。3条のヘラ描沈線を施している。114～169は弥生中期の土器である。114～124は甕である。114は口縁端部に凹線2条を施した後，棒状浮文を貼り付けている。115は口縁端部に刻目を施している。116は口縁端部に刻目施すとともに，頸部に押圧突帯を1条貼り付けている。117は大型のもので，頸部に押圧突帯を1条貼り付けている。118は口縁端部に刻目を施すもので，外面タテハケ，内面板ナデ後タテハケである。119～124は施文し



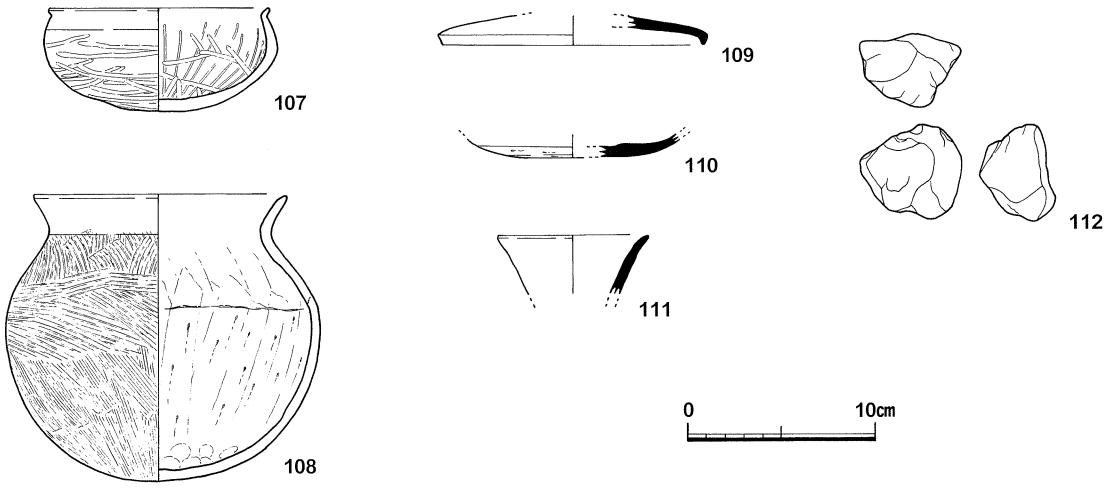
第32図　SD1中層出土土器実測図①



第33図　SD1中層出土土器実測図②

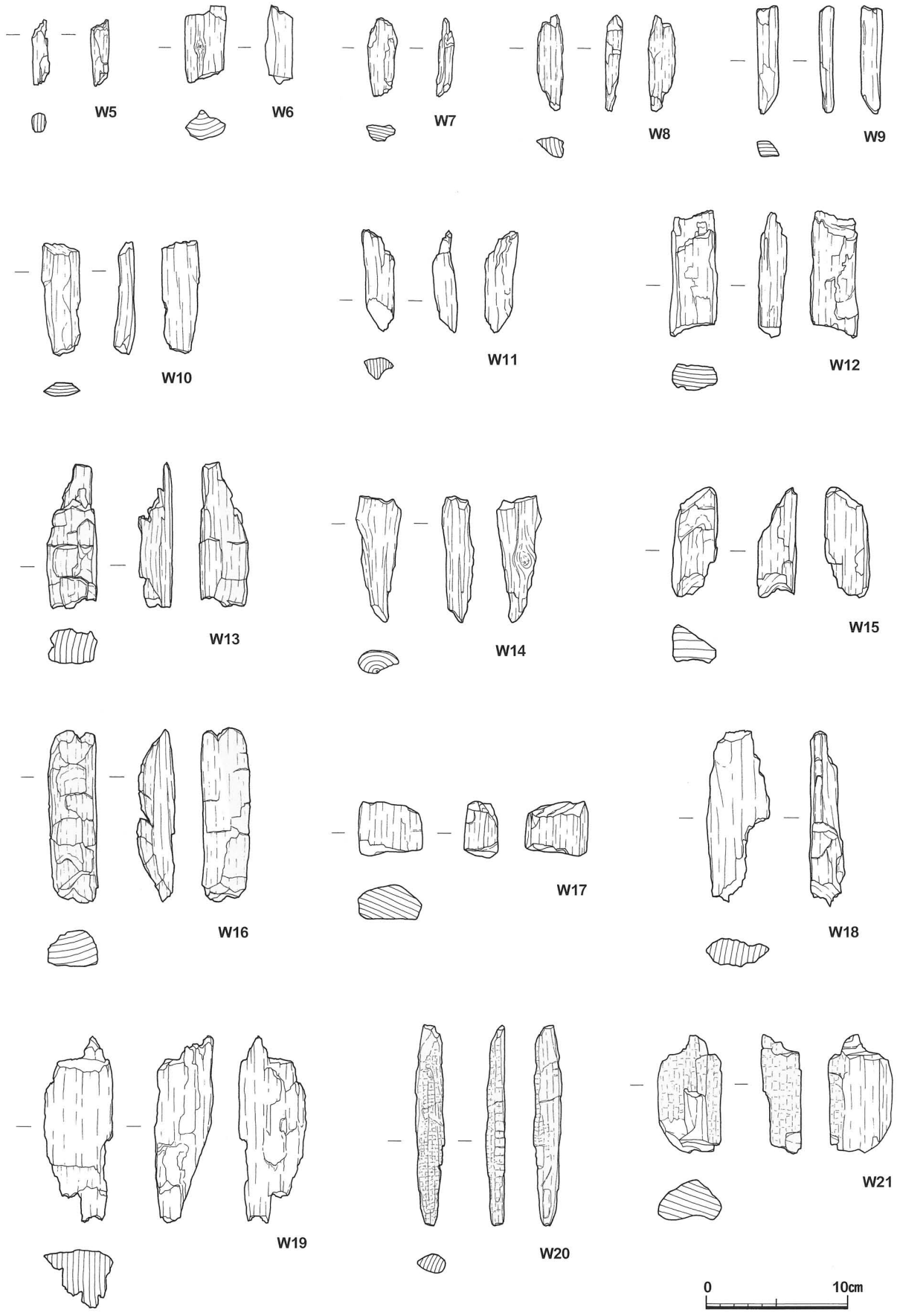


第34図　SD1中層出土土器実測図③

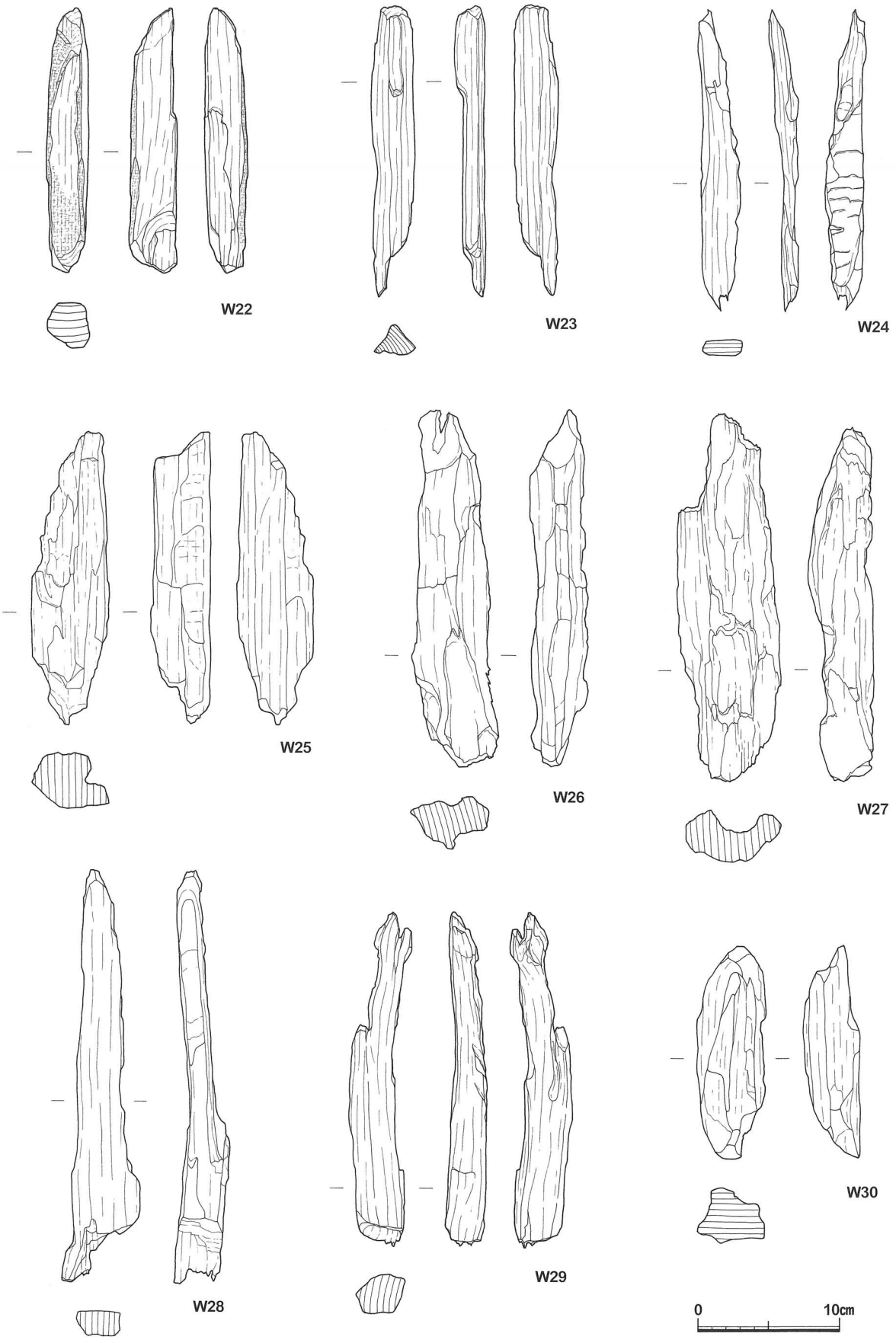


第35図　SD1中層出土土器実測図④

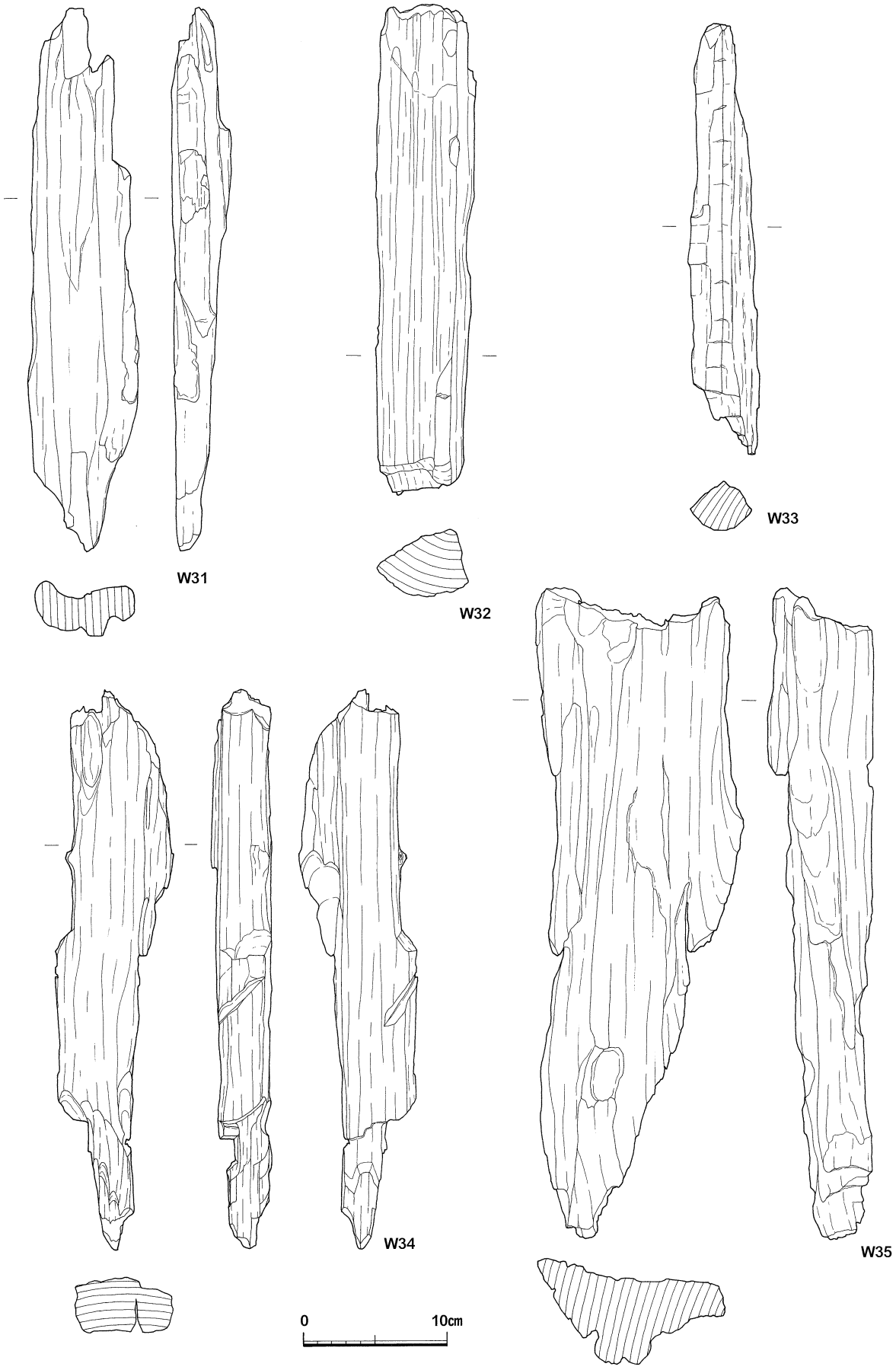
ないものである。125～136は広口壺である。125は大型のもので，口縁端部に沈線を1条巡らし，その上下に刻目を施している。内面にも沈線を1条巡らせ，小円孔を穿孔している。126・127はやや垂直な頸部から斜め外方へ開く口縁部を持つものである。126は施文が見られない。127は外面に斜格子文が見られる。128～136は口縁部が大きく外反し，端部を拡張し，加飾するものである。128は口縁端部に凹線2条と内面に斜格子文を施している。129は口縁端部に刻目と内面に斜格子文が施され，小円孔2個が見られる。130は口縁端部に凹線2条を巡らせた後，刻目を施している。内面は斜格子文を施している。131は口縁端部及び内面に斜格子文を施している。132も口縁端部及び内面に斜格子文を施しており，内面には円形浮文を貼り付けている。133は口縁端部に刻目を施している。134は口縁端部に凹線3条を施した後，棒状浮文を貼り付けている。内面には斜格子文が施され，小円孔が3個穿孔されている。135は口縁端部に刻目を施している。内面には2条の突帯を貼り付けて，波状文も見られる。136は口縁端部に刻目が施され，3個1対の円形浮文を貼り付けている。内面には3条の突帯を貼り付け，刺突文と波状文が見られる。137～144は細頸壺である。137・138は突帯1条，139～142は突帯2条を巡らせている。138～142は刻目を施している。143は外面に突帯2条を巡らせた後，棒状浮文を施している。口縁端部にも斜格子文と円形浮文が見られる。144は突帯2条と口縁端部に刻目を施し，斜格子文と円形浮文が見られる。145～150は直口壺である。147～150の口縁端部には刻目を施している。151は広口壺である。口縁端部を上方に拡張し凹線3条を巡らせ，頸部に刺突文を施している。152は広口壺の頸部で，頸部に突帯2条を貼り付けている。153～162は高杯の杯部である。153は口縁端部に刻目，口縁部上面に斜格子文を施している。154は口縁端部に刻目を施している。156は口縁部上面に円形浮文を施している。157は外面に3条の突帯を貼り付け，突帯と口縁端部に刻目を施しており，口縁部上面にも斜格子文と円形浮文が見られる。158～161は口縁部外面に凹線を施している。163～168は高杯の脚部である。167は6方向に方形スカシが見られる。168は脚柱部に2条の突帯及び4条の沈線を巡らせ，2個の円孔を穿孔している。169はジョッキ形土器の把手である。170～241は弥生土器の底部である。178・190・238・239は焼成前の穿孔が見られる。190は底部中央に内面からの未貫通の穿孔が見られ，外面から再度穿孔している。242・243は弥生後期前半の土器である。242は甕である。243は高杯の脚部である。裾部



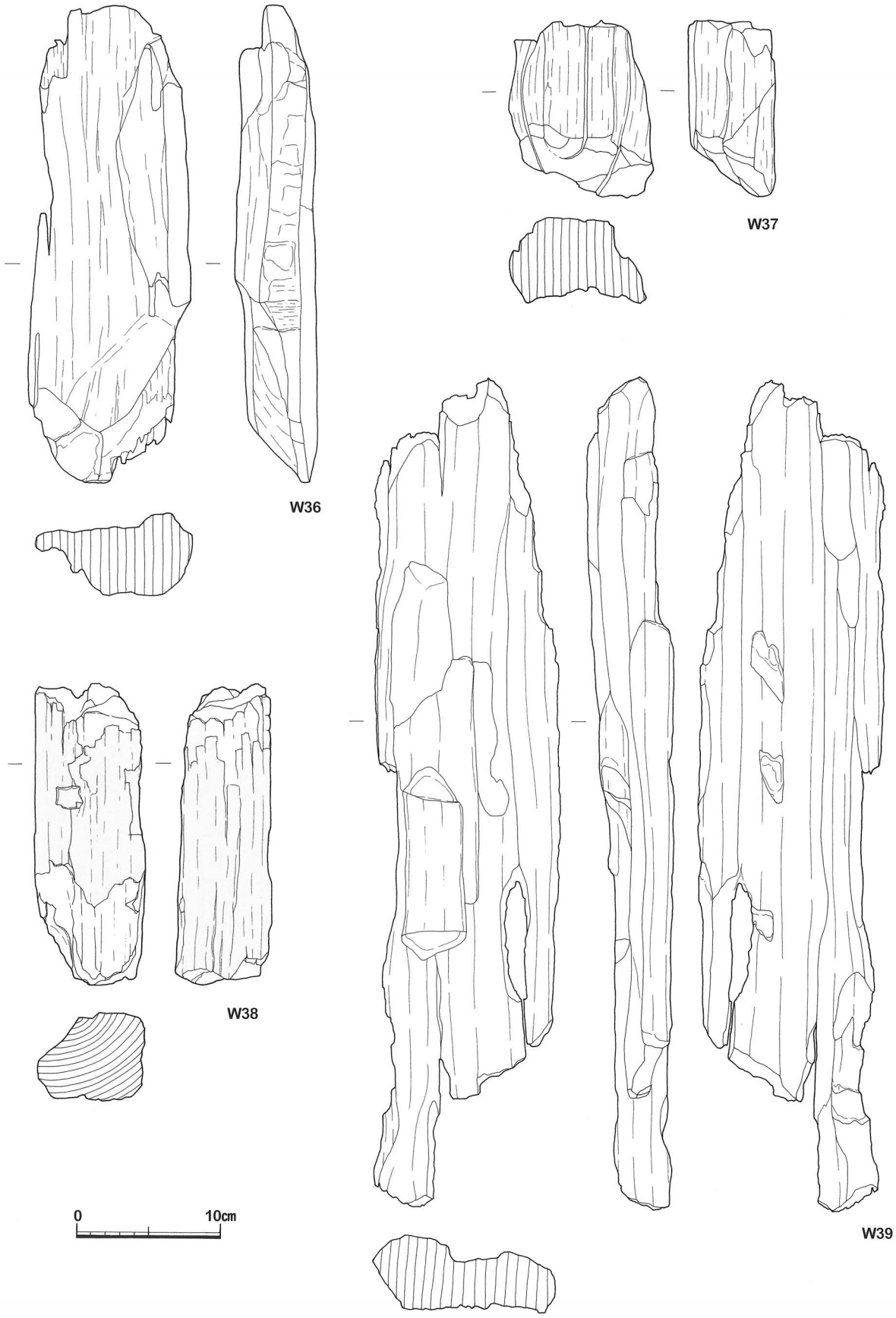
第36図　SD1中層出土木器実測図①



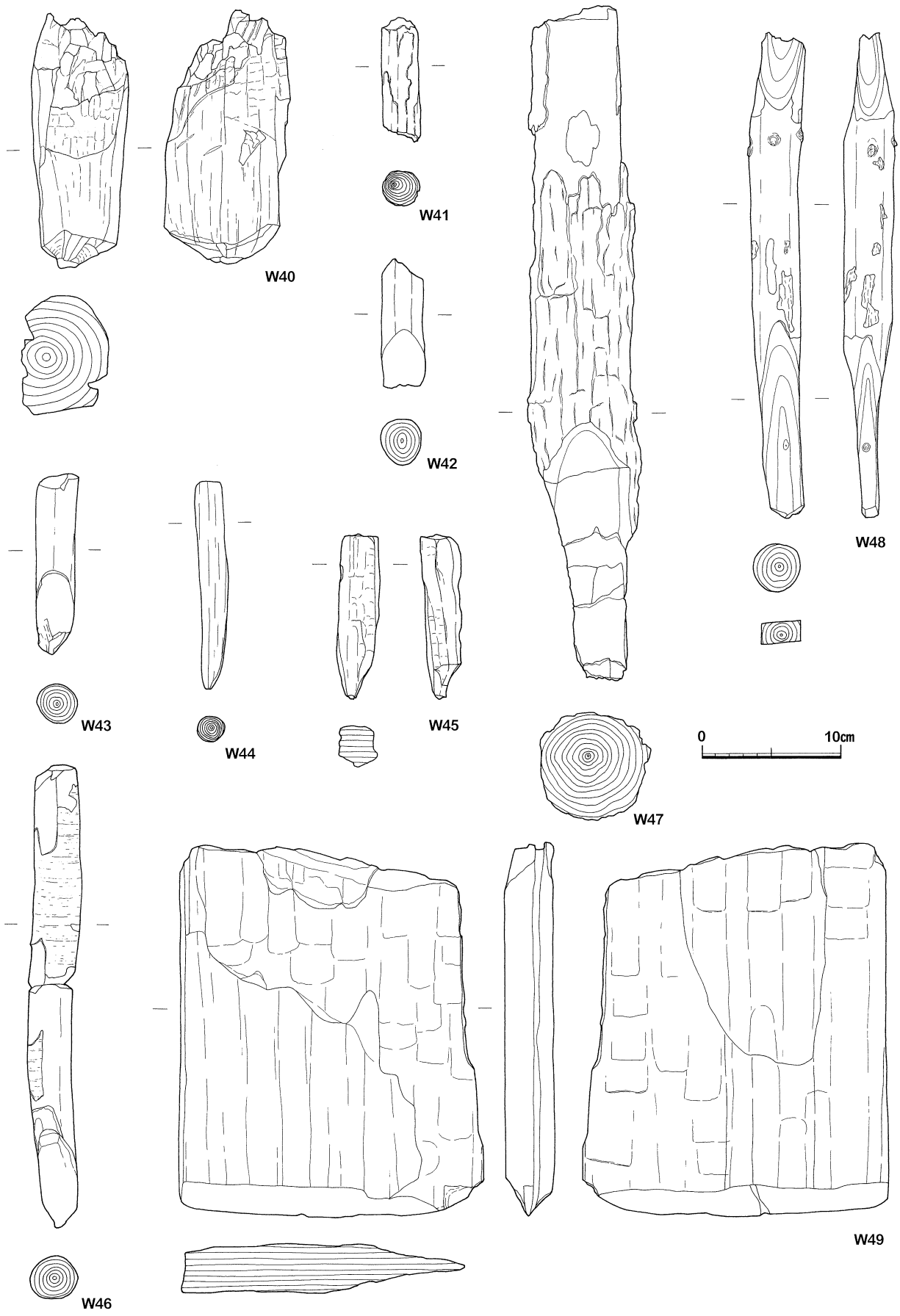
第37図　SD1中層出土木器実測図②



第38図　SD1中層出土木器実測図③



第39図　SD1中層出土木器実測図④



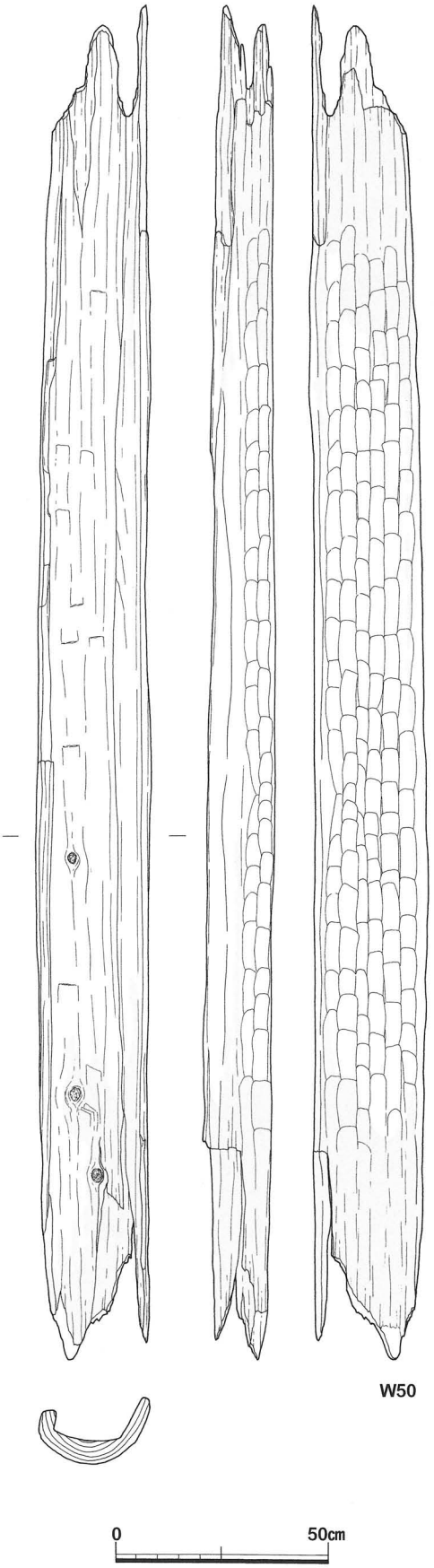
第40図　SD1中層出土木器実測図⑤

に刺突文と鋸歯文を施している。244～262は弥生終末期の土器である。244～252は甕である。外面タテハケで，内面はケズリで，上半に指頭圧が見られるものが多い。253はミニチュア土器の甕である。外面には板状工具の圧痕が見られ，内面はヨコヘラケズリで，上半のみ指頭圧である。254は細頸壺の頸部である。内面に指頭圧が見られる。255～256は広口壺である。255は口縁部外面に指頭圧が見られる。256は頸部外面タテハケ，内面ヨコヘラケズリである。257は複合口縁壺である。口縁部外面に沈線3条と鋸歯文を施している。258～262は高杯である。258・259は口縁部である。260は杯部下半である。杯部と脚部の接合は円盤充填による。外面ヨコヘラケズリ後分割ヘラミガキ，内面ヨコハケ後分割ヘラミガキである。261は脚柱部で外面タテハケ，内面ヨコハケである。262も脚柱部で，円形スカシが4方向に見られる。263は土師器の甕である。264～266は粘土塊である。

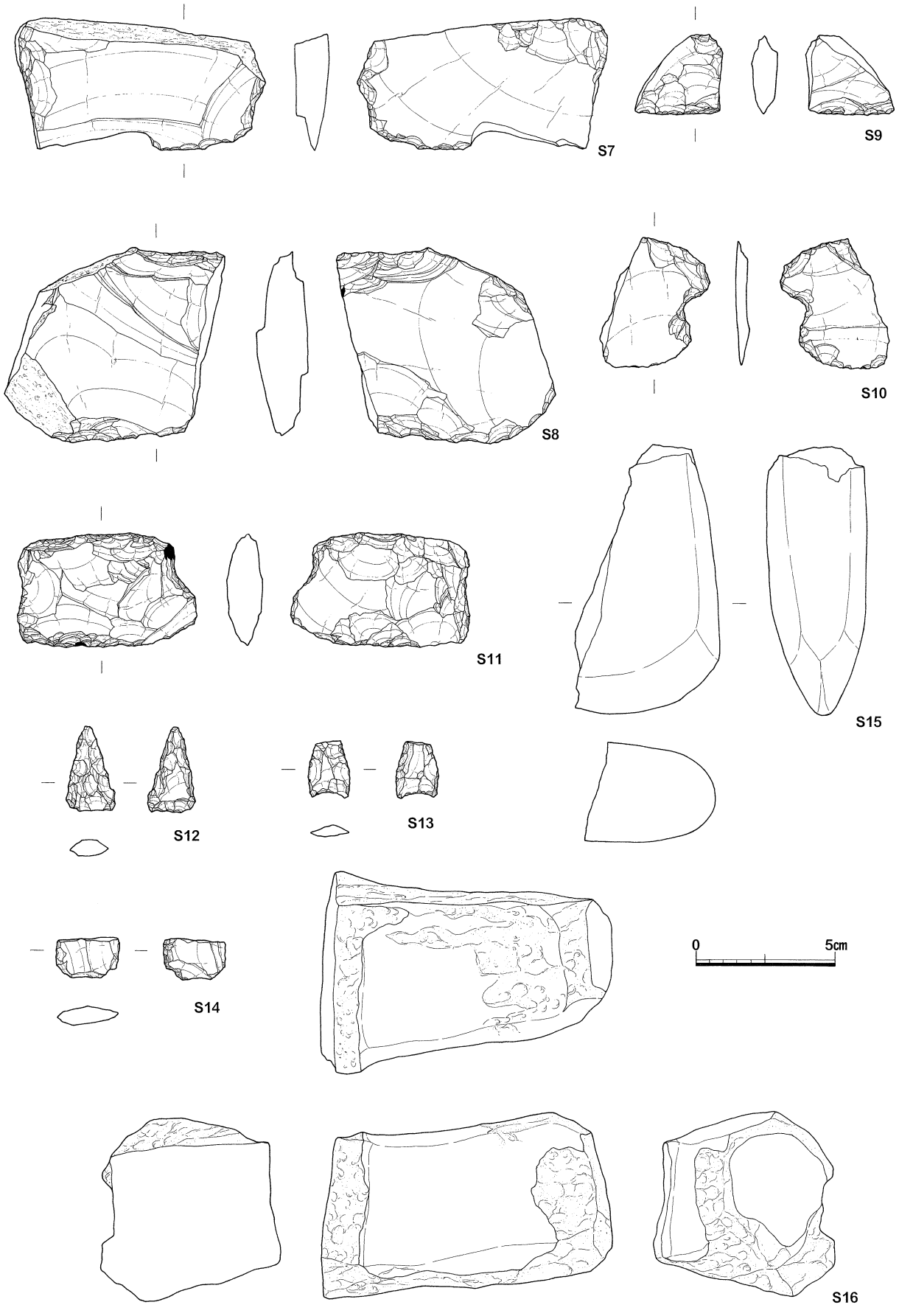
第49図は下層出土木製品である。W51～W54は柄の一部である。W55～W62は加工木の小片である。W63・W64は広鍬の未製品である。W64は3分割されており，切断面が残る。

第50図は下層出土の石器である。S17～S21は石庖丁である。S17は抉りを持つものである。S22は削器である。S23は周囲を打ち欠いて円盤状に仕上げた製品である。

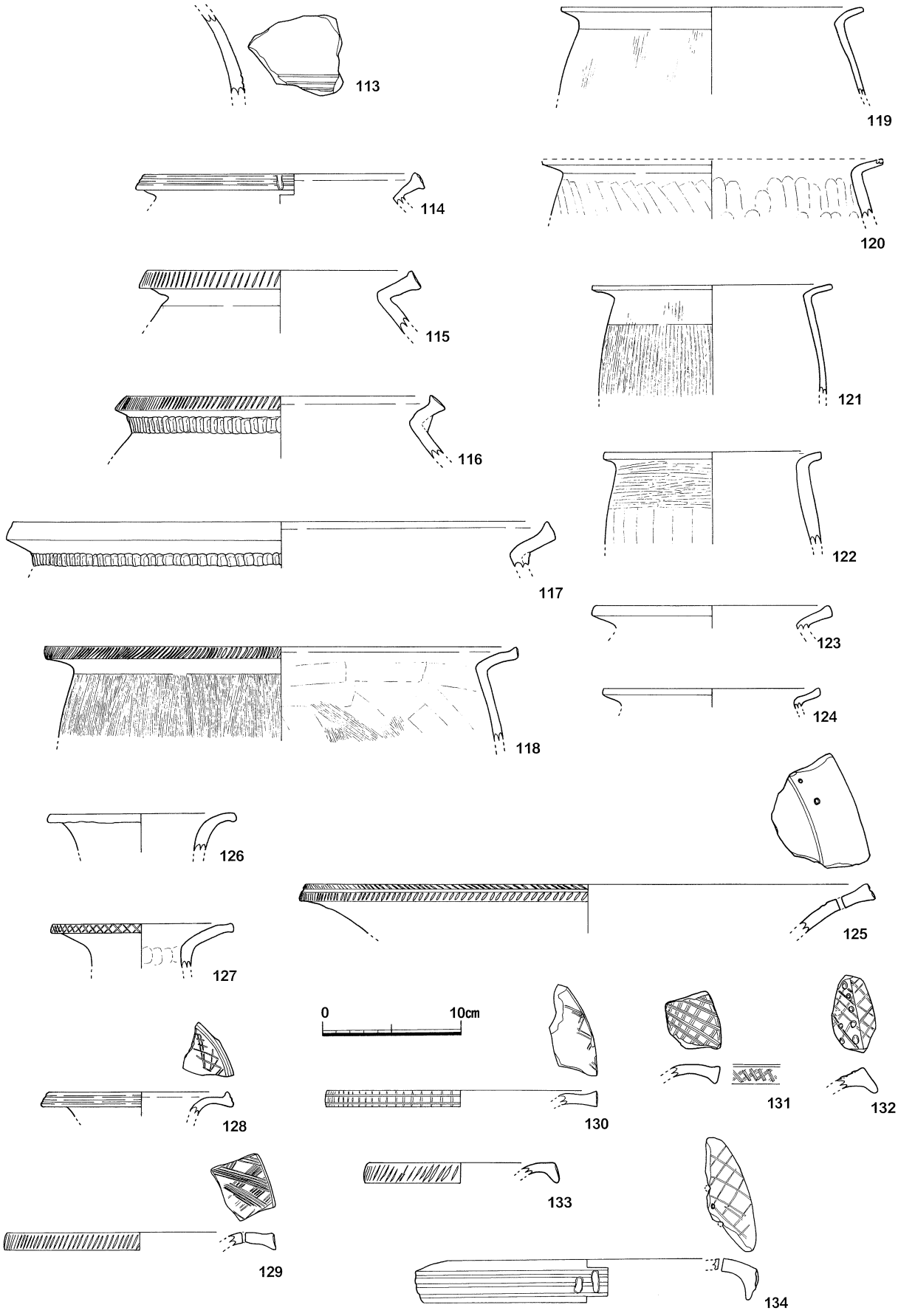
出土遺物は弥生時代前期から7世紀のものまで含んでおり，上層から下層まで遺物が混在した状況である。これまでの周辺の調査からSD1は多肥宮尻遺跡SR02，都市計画道路調査地SR02から続き，今回の調査区を通り，済生会調査地SD1，共同住宅調査地SD1，フィットネスクラブ調査地SD1へと向かう方向性が見えてきた。出土遺物は北方の調査地ほど混入品であるはずの弥生時代の遺物が多く，これまで弥生時代終末期の開削と誤認（大嶋2003）していた。しかしながら，多肥宮尻遺跡SR02，都市計画道路調査地SR02では，下層からの出土遺物は古墳時代中期末～後期前葉のものが主体を占めることから，同時期の開削と考えられる。溝内での出土遺物の相違については，北方は古墳時代の集落域から遠



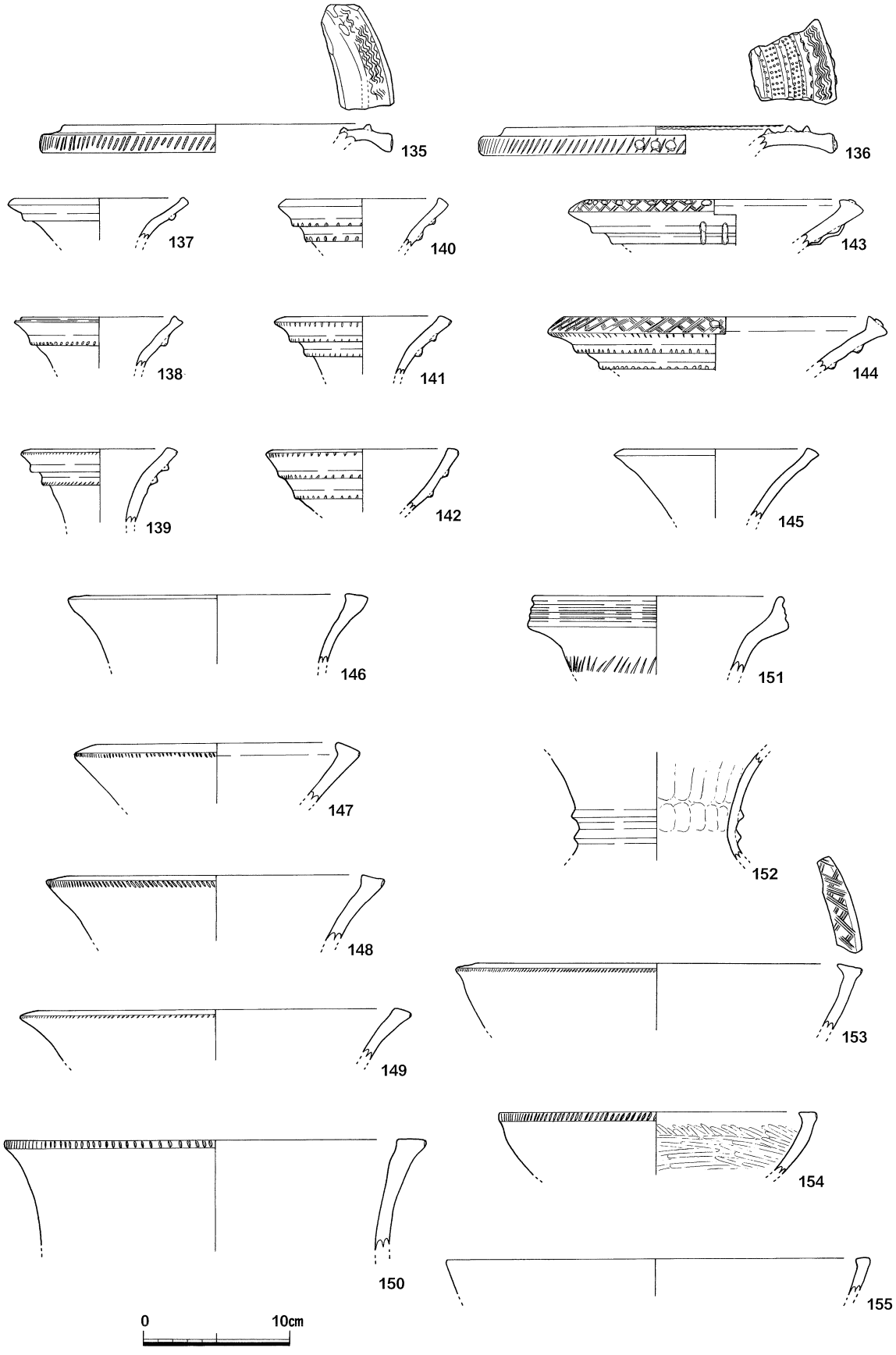
第41図　SD1中層出土木器実測図⑥



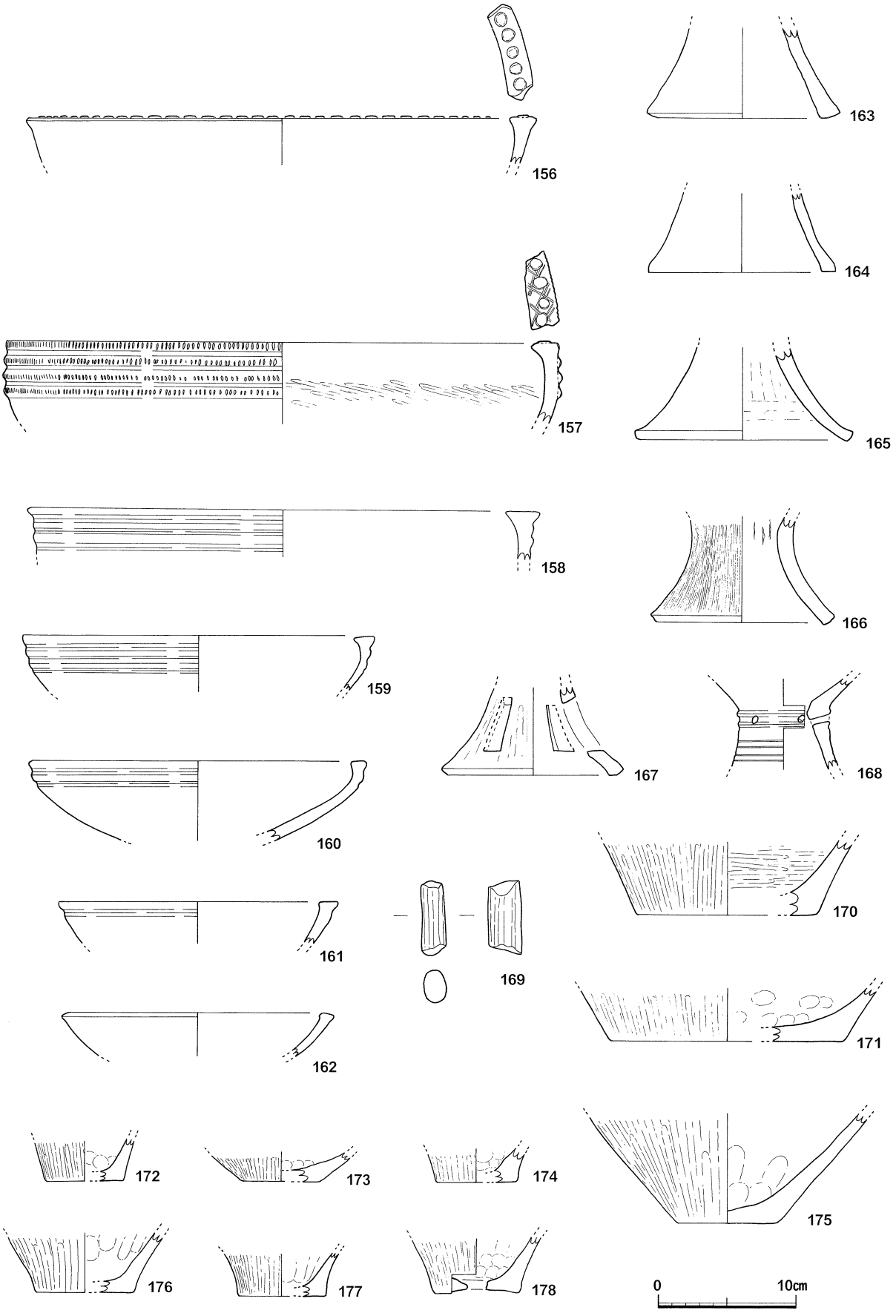
第42図　SD1中層出土石器実測図



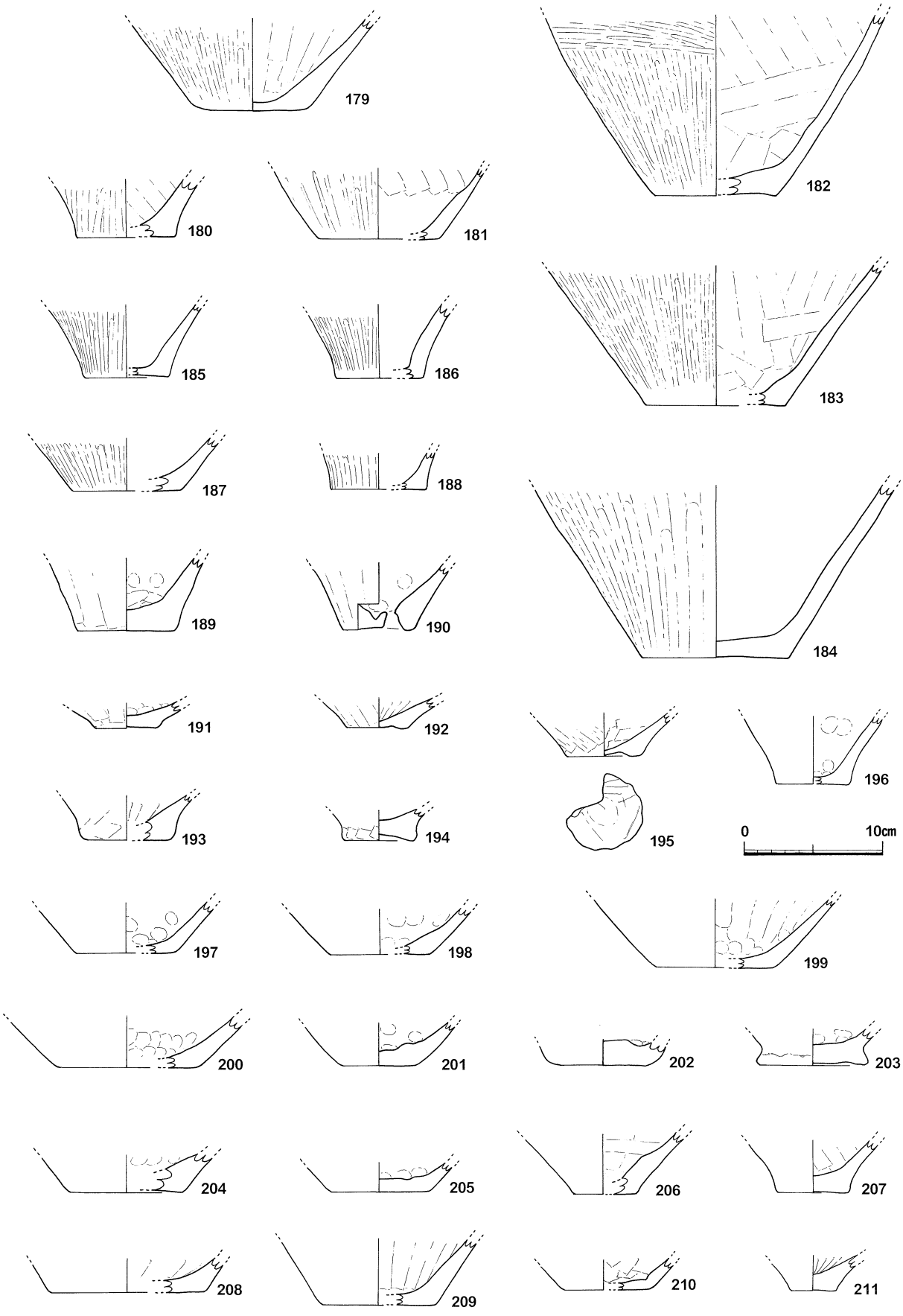
第43図　SD1下層出土土器実測図①



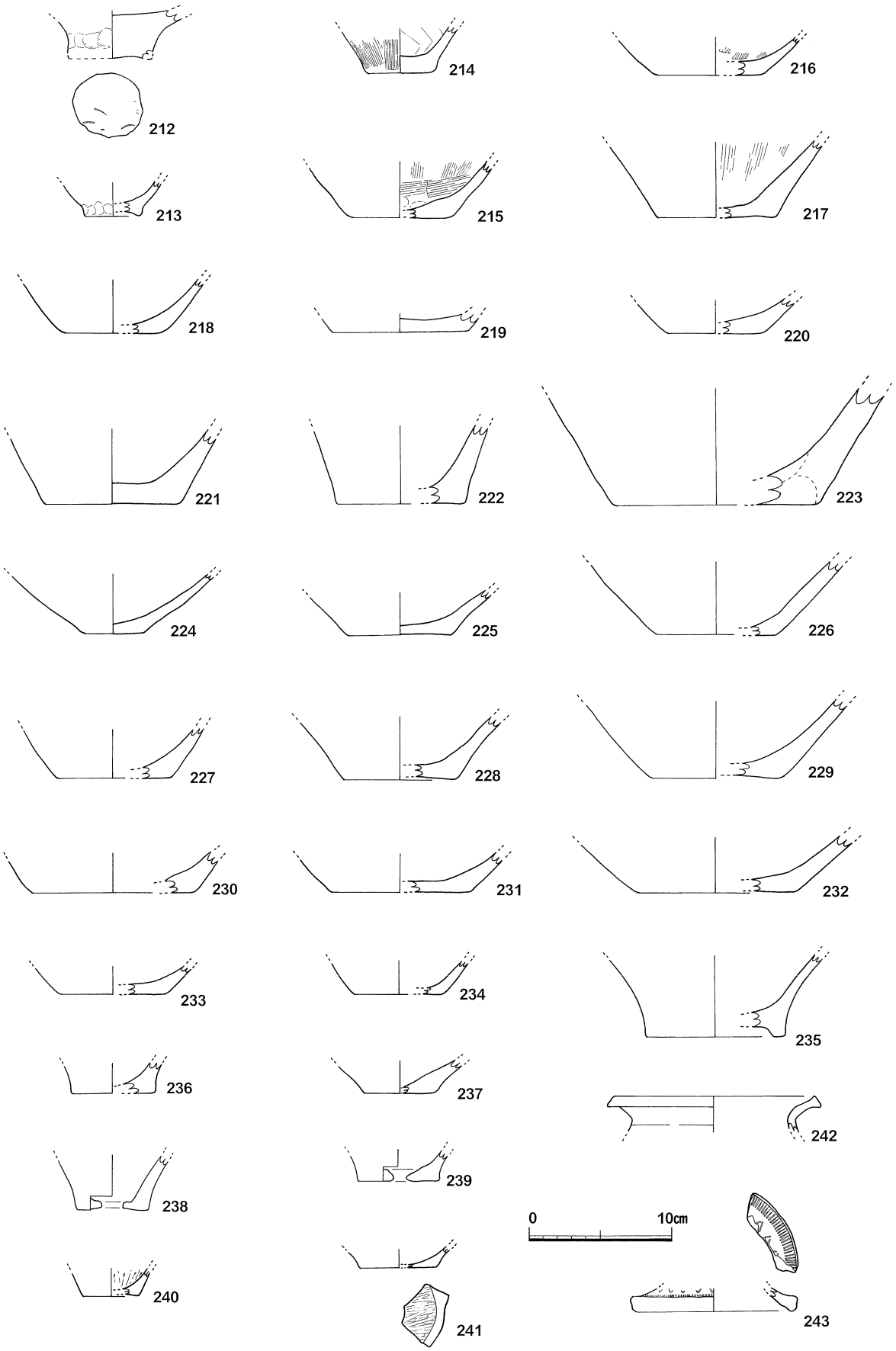
第44図　SD1下層出土土器実測図②



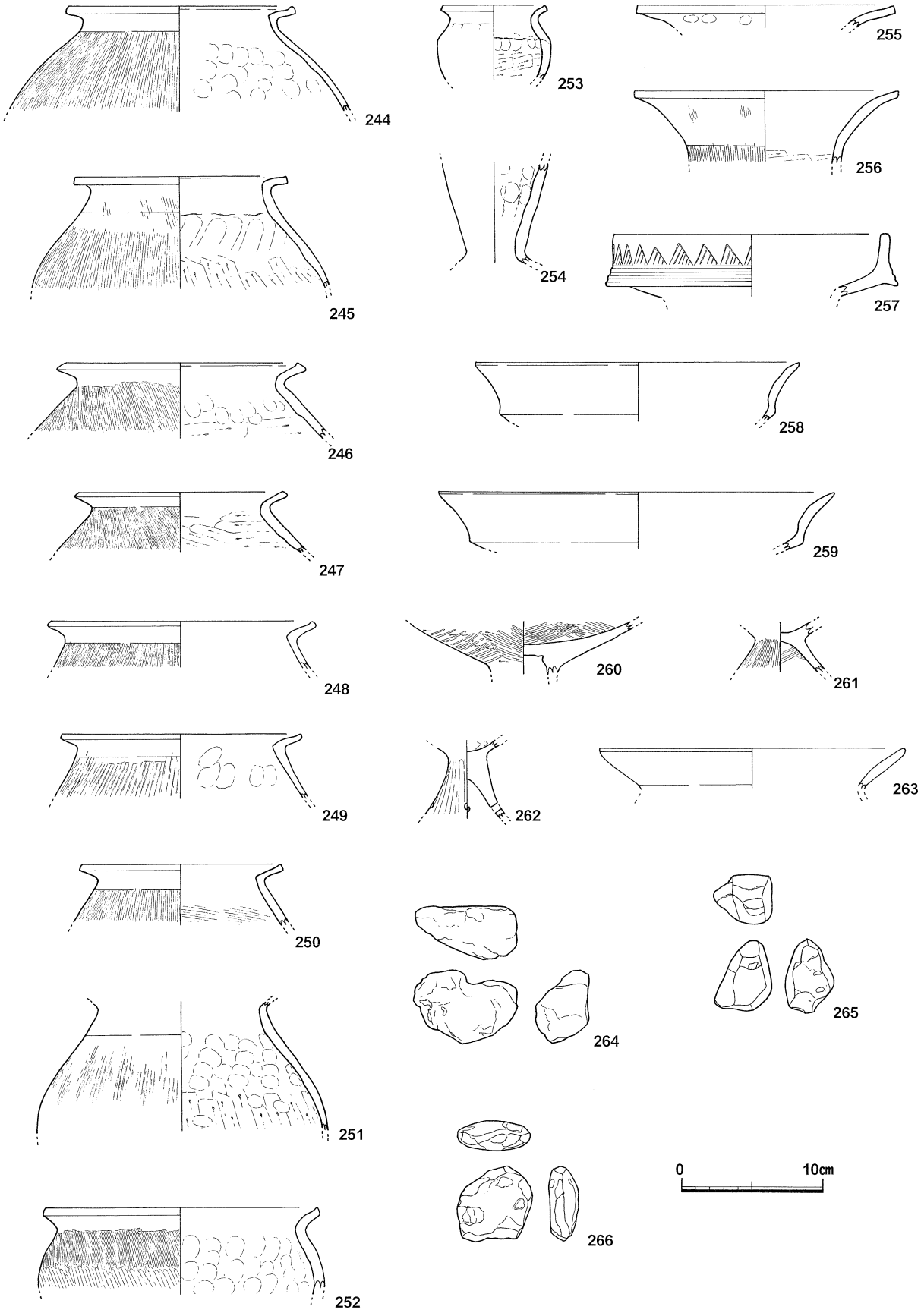
第45図　SD1下層出土土器実測図③



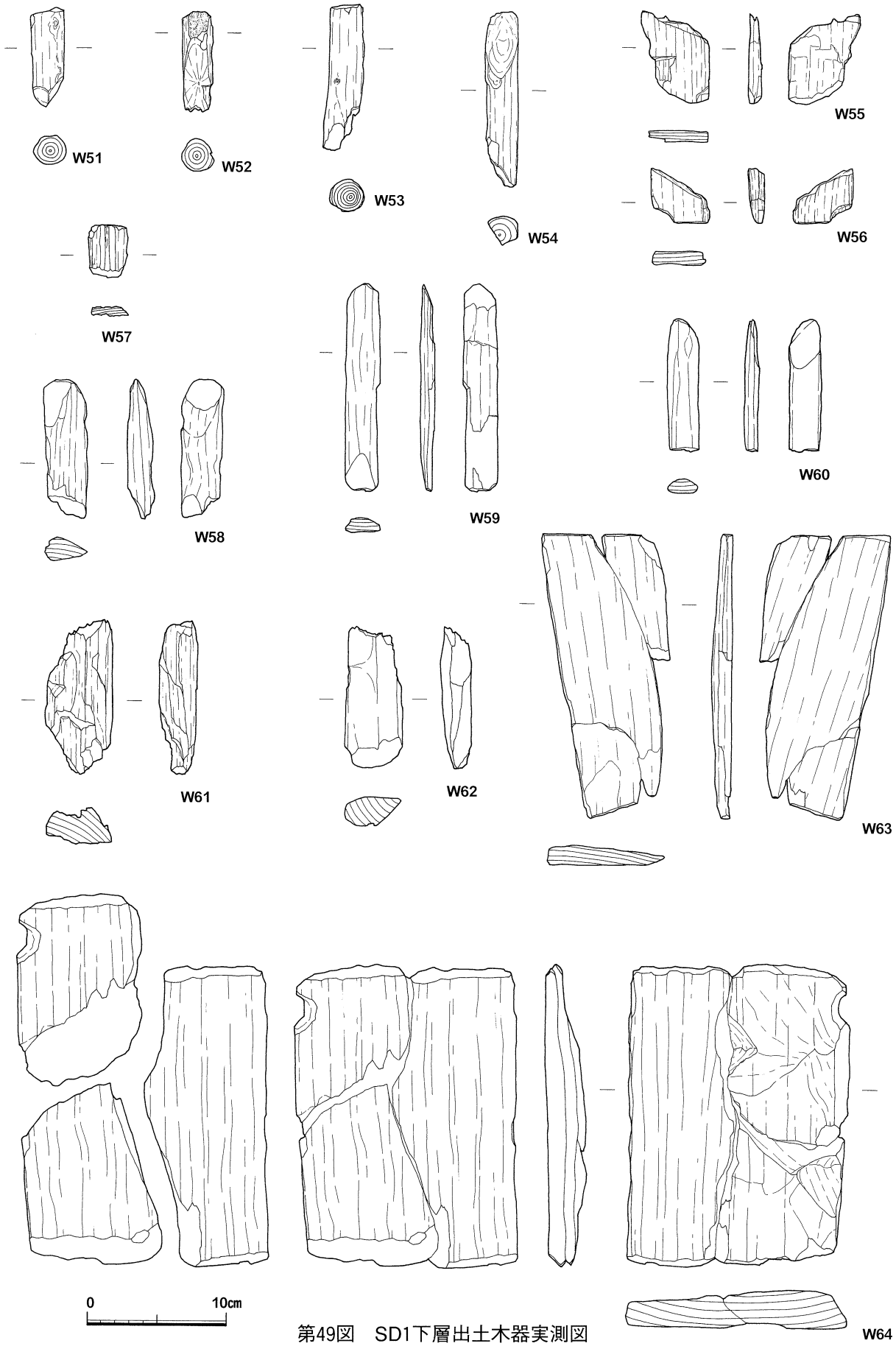
第46図　SD1下層出土土器実測図④



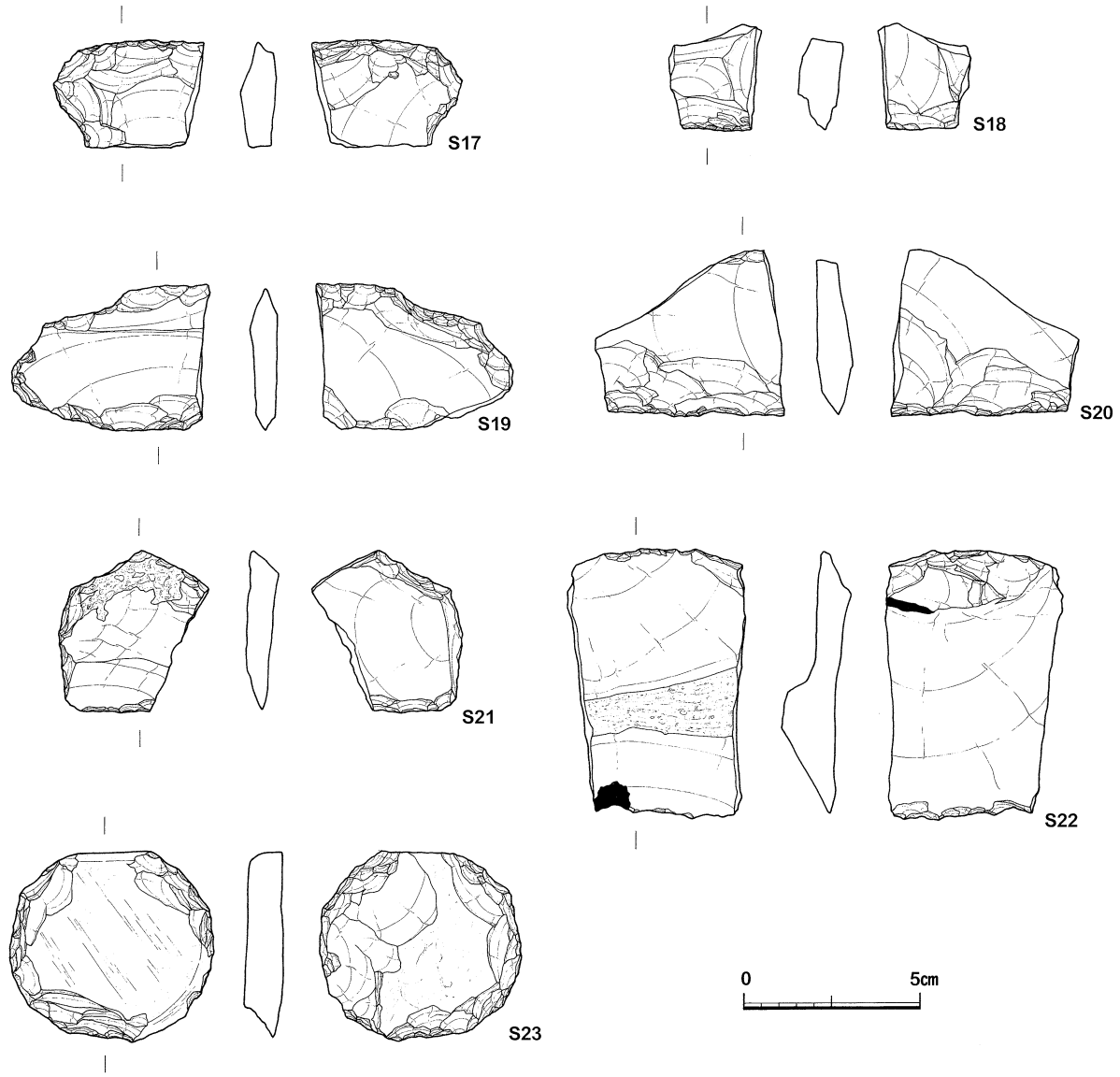
第47図　SD1下層出土土器実測図⑤



第48図　SD1下層出土土器実測図⑥



第49図　SD1下層出土木器実測図



第50図　SD1下層出土石器実測図

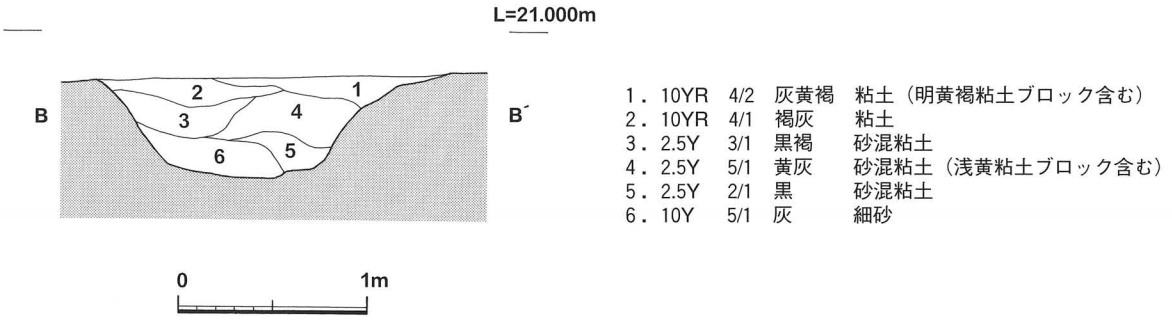
く，弥生時代中期及び終末期の集落域の中を溝が存在することに起因すると考えられる。なお，多肥宮尻遺跡SR02，都市計画道路調査地SR02では上層部分において中世の遺物を含むとしている。今回の調査地においては，７世紀頃までの遺物しか出土しておらず，またSD1埋没後に後述するSD2～SD6が掘削されており，これら溝群の埋没後に灰オリーブ色粘質シルト層の堆積が認められた。この灰オリーブ色粘質シルト層は基本層序の第10層にあたり，第４図に掲載したとおり中世の遺物を含んでおり，この第10層を多肥宮尻遺跡SR02，都市計画道路調査地SR02においては上層と認識していたと考えられる。

一方，都市計画道路調査地SR02では，古墳時代後期の埋没後，再度流路となり，中世初期に埋没したとしているが，今回の調査ではSD1から中世の遺物は出土していない。SD1の埋没過程については，今後の検討課題である。

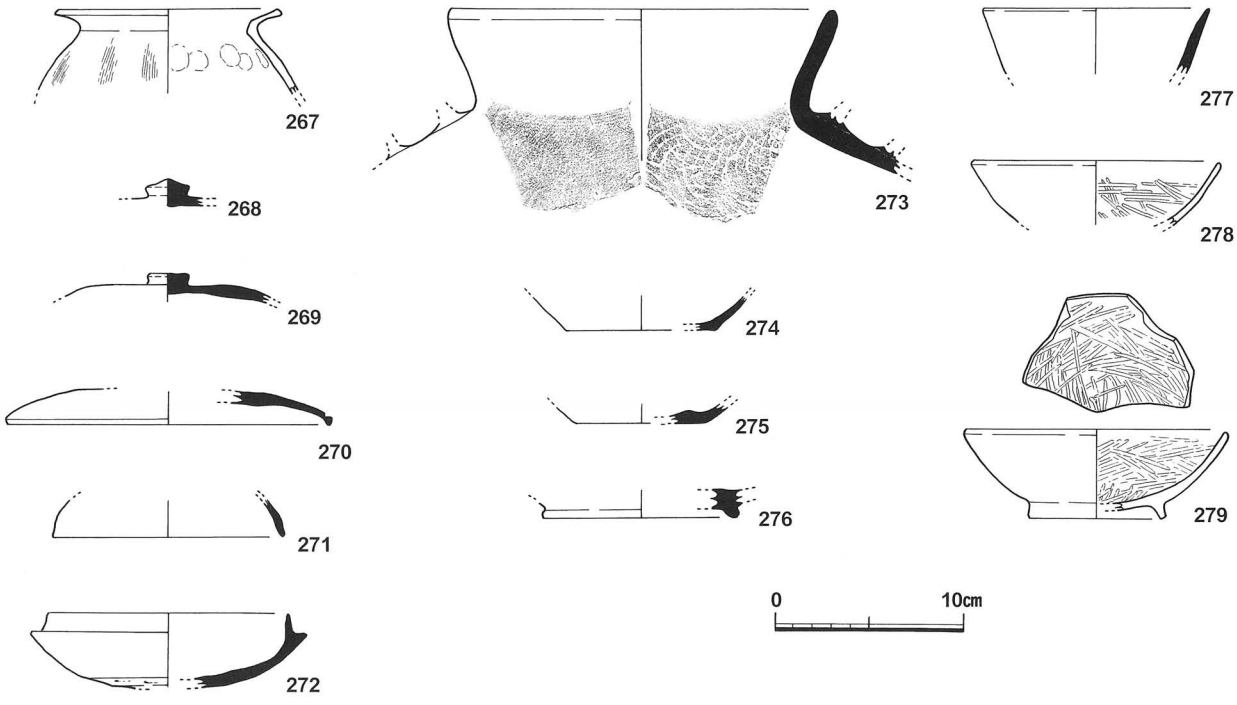
SD2（第51～58図）

SD1の東側で並行して検出した溝である。北側ほど幅が広く，深さも深くなっており，最大幅2.8m，最大深さ70cm，検出長30mを測る。断面形状は逆台形で，埋土は６層に分層できる。第１層は灰黄褐色粘土層で，明黄褐色の粘土ブロックを含む。第２層は褐灰色粘土層である。第３層は黒褐色砂混粘土層である。第４層は黄灰色砂混粘土層で，浅黄色粘土ブロックを含む。第５層は黒色砂混粘土層である。第６層は灰色細砂層である。大別して第１～５層の粘土層を上層，第６層の細砂層を下層として遺物を取り上げた。

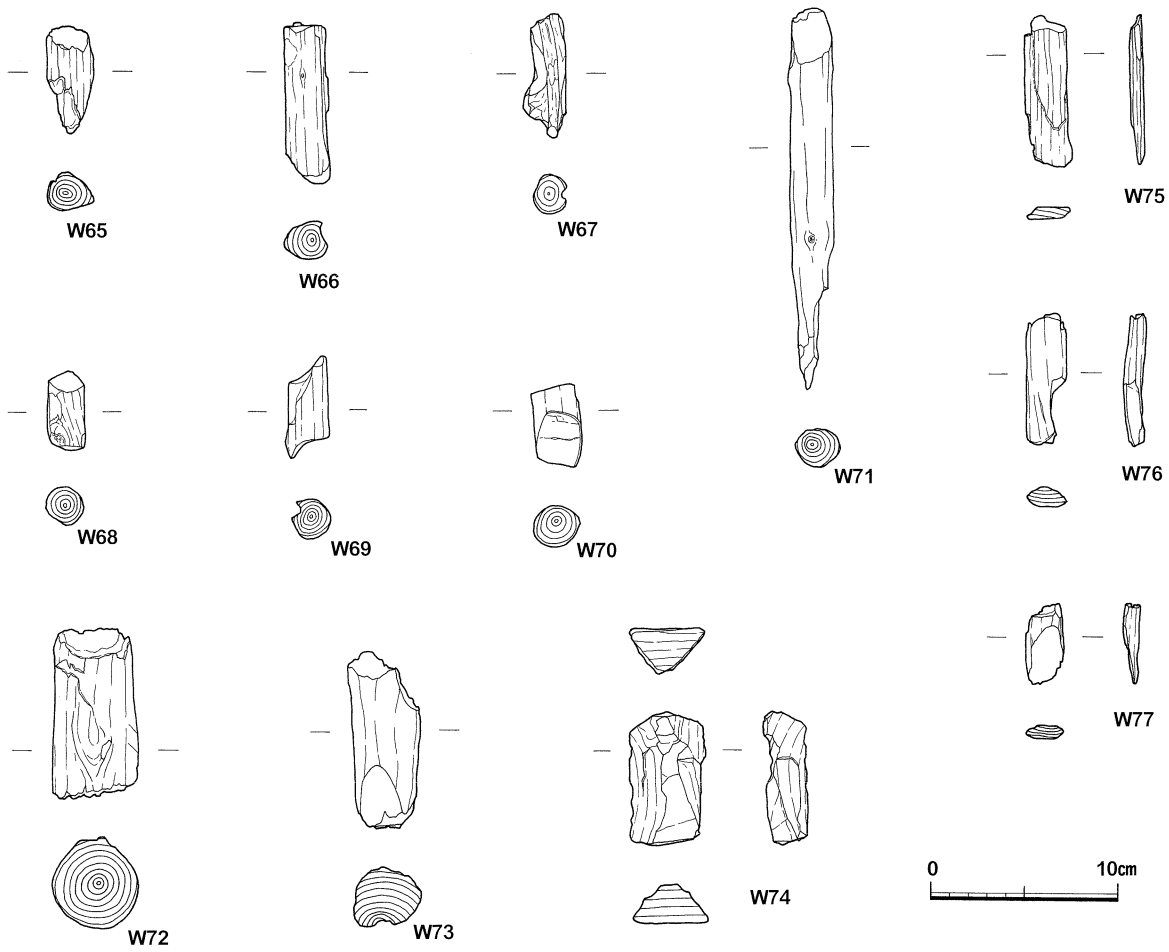
出土遺物は第52～58図に掲載した。第52図は上層出土土器である。267は弥生土器の甕である。外面タテハケ，内面指頭圧である。268～277は須恵器である。268～270は蓋である。ツマミは扁平で，器高も低い。271も蓋である。272は坏である。273は甕である。肩部に把手の痕跡が見られる。外面は並行タタキ後カキ目で，自然釉が付着している。内面には同心円のあて具痕が残る。274・275は坏である。



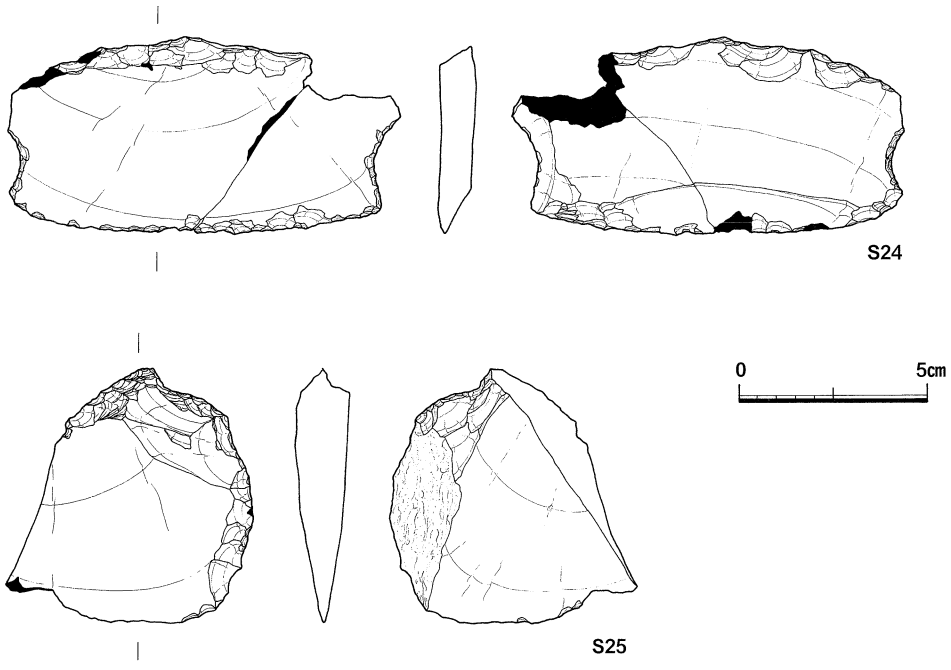
第51図　SD2断面図



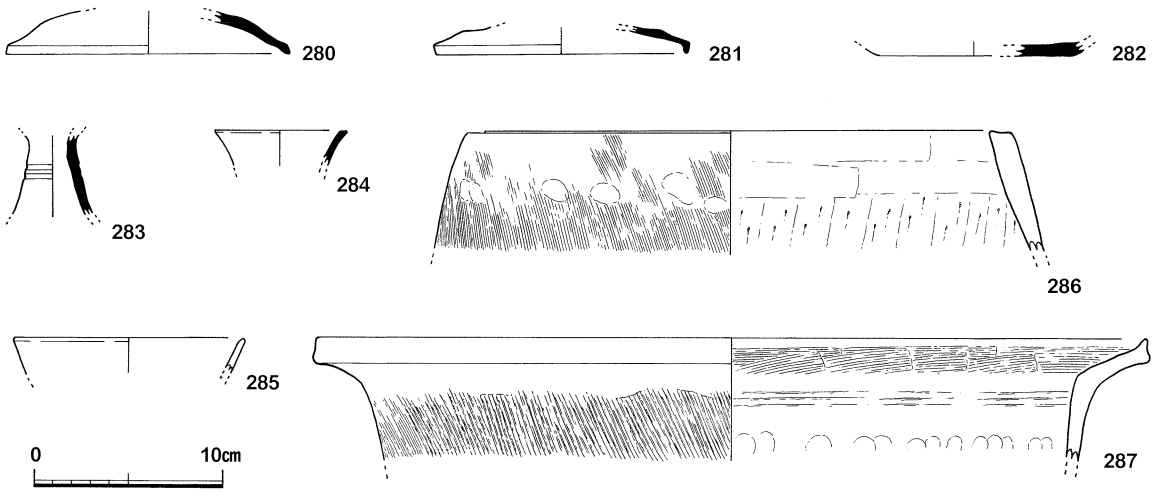
第52図　SD2上層出土土器実測図



第53図　SD2上層出土木器実測図



第54図　SD2上層出土石器実測図



第55図　SD2下層出土土器実測図

276・277は埦である。278・279は土師器の埦である。内面にヨコヘラミガキが見られる。

第53図は上層出土木器である。W65～W71は柄の一部の可能性が考えられる加工木である。W72・W73は円柱状の加工木で，切断面が残る。W74は三角柱状の加工木である。W75～W77は板状の加工木である。

第54図は上層出土の石器である。S24は抉りを持つ石庖丁である。S25は削器である。側縁部に自然面を残す。

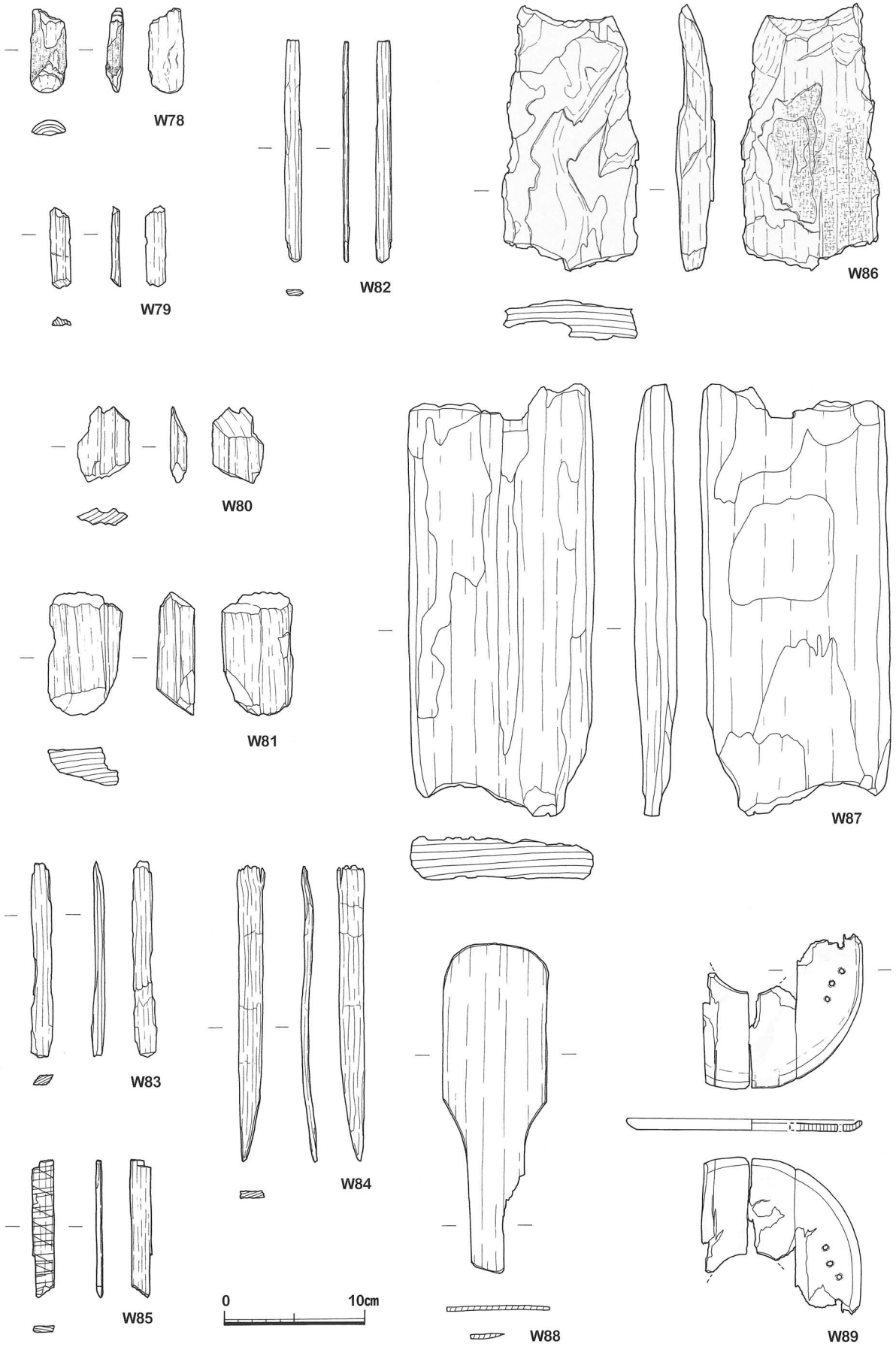
第55図は下層出土土器である。280～284は須恵器である。280・281は蓋である。282は坏である。283は高杯の脚部である。沈線２条を巡らせている。284は壺の口縁部である。285は瓦器埦の口縁部である。286は土師質土器の釜である。外面タテハケ後指頭圧，内面タテヘラケズリ後板ナデ，287は土師質土器の鍋である。外面粗いタテハケで，内面は口縁部粗いヨコハケ，体部指頭圧である。外面にススが付着している。

第56図は下層出土土器である。W78～W81は加工木の小片である。W82～W85は板状の加工木である。W84は篦状に先端を尖らせている。W85は線刻が見られる。W86・W87は板材である。W86は全面炭化している。W88は杓文字状の木製品である。W89は漆器である。盆状の形態であるが，中心部に大きな円孔と小円孔４個が見られる。全面に朱漆の痕跡が見られる。

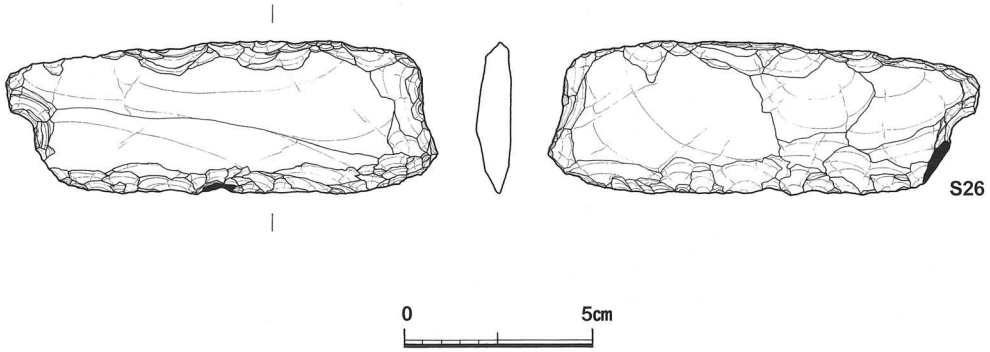
第57図は下層出土の石器である。S26は石庖丁である。抉りを持ち，背部・刃部とも両面より細かく調整されている。

第58図は下層出土の骨である。

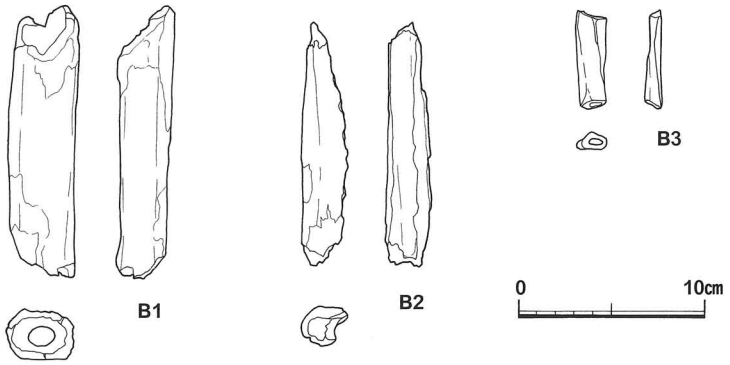
遺物は弥生後期や古墳後期のものを一部含むが，概ね古代～12世紀の遺物を含んでいる。SD1と並行しており，SD1は７世紀頃の遺物までしか含まないことから，SD1廃絶後に掘削された溝と考えられる。都市計画道路調査地では，SR02が古墳時代後期に埋没した後，中世前半に再度流路となっており，この流路と関連する可能性が考えられる。なお，済生会調査地試掘第10トレンチ検出の落ち込み状遺構及び農道調査地検出の溝がSD2の延長としての可能性が考えられる。



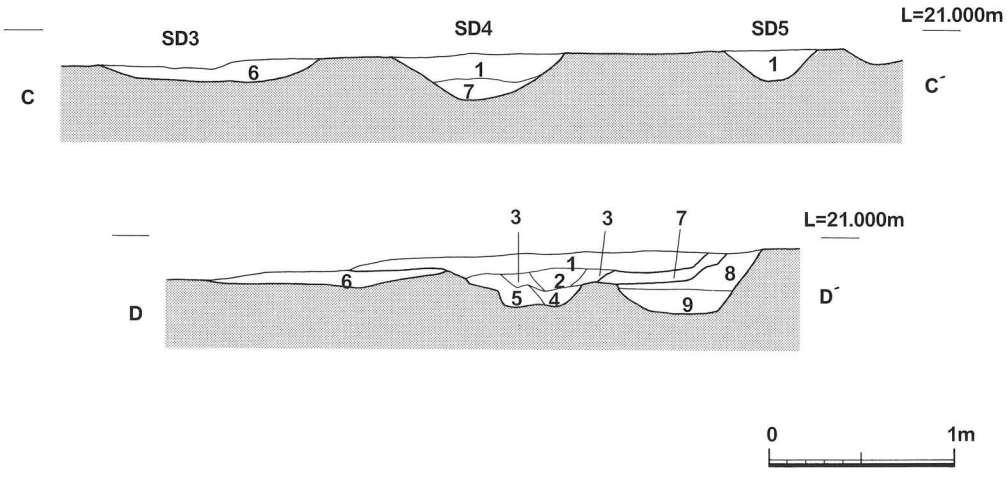
第56図　SD2下層出土木器実測図



第57図　SD2下層出土石器実測図



第58図　SD2下層出土骨実測図



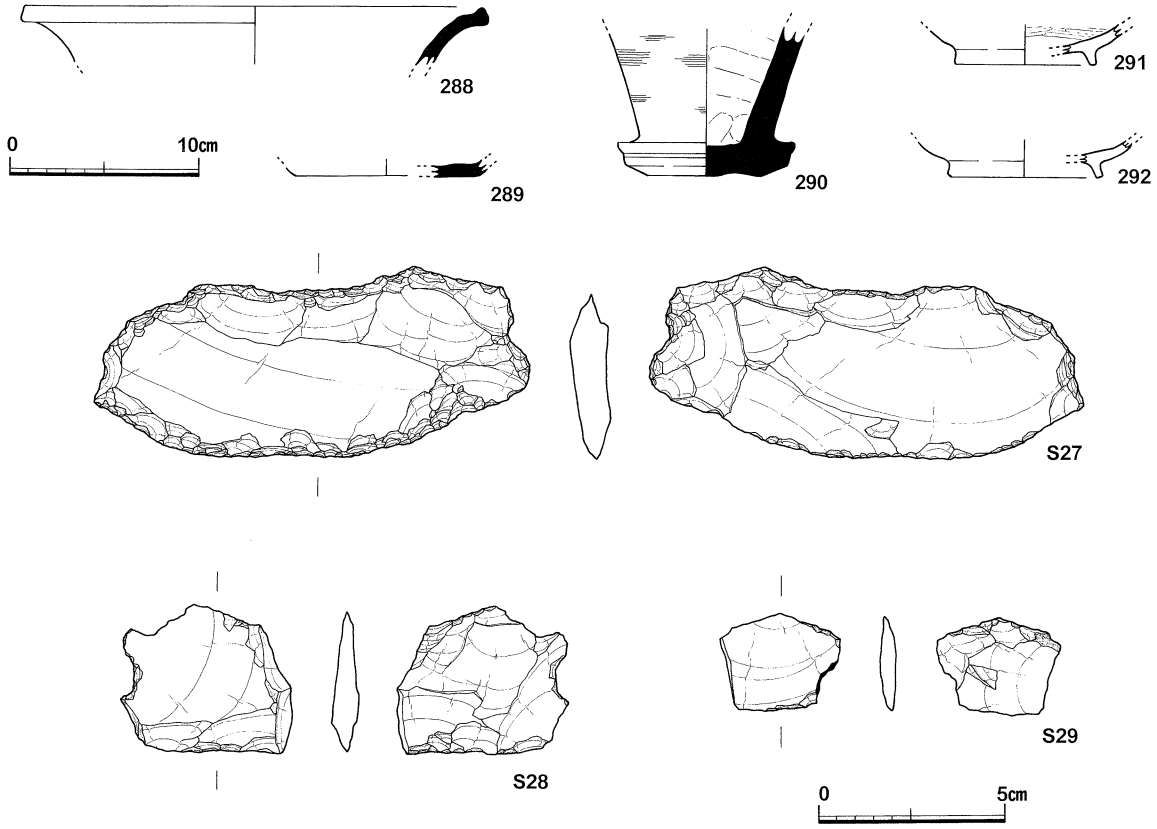
1．	10YR	4/2	灰黄褐	粘土（明黄褐粘土ブロック含む）	SD5		
2．	10YR	4/1	褐灰	砂混粘土			
3．	10YR	5/1	褐灰	砂混粘土			
4．	2.5Y	4/1	黄灰	粘土			
5．	2.5Y	4/2	明灰黄	粘土			
6．	2.5Y	3/1	黒褐	粘土……SD3			
7．	10YR	3/1	黒褐	粘土……SD4			
8．	10YR	4/2	灰黄褐	粘土（にぶい黄粘土ブロック含む）	SD7		
9．	2.5Y	3/1	黒褐	粘土（にぶい黄粘土ブロック含む）			

第59図　SD3・4・5断面図

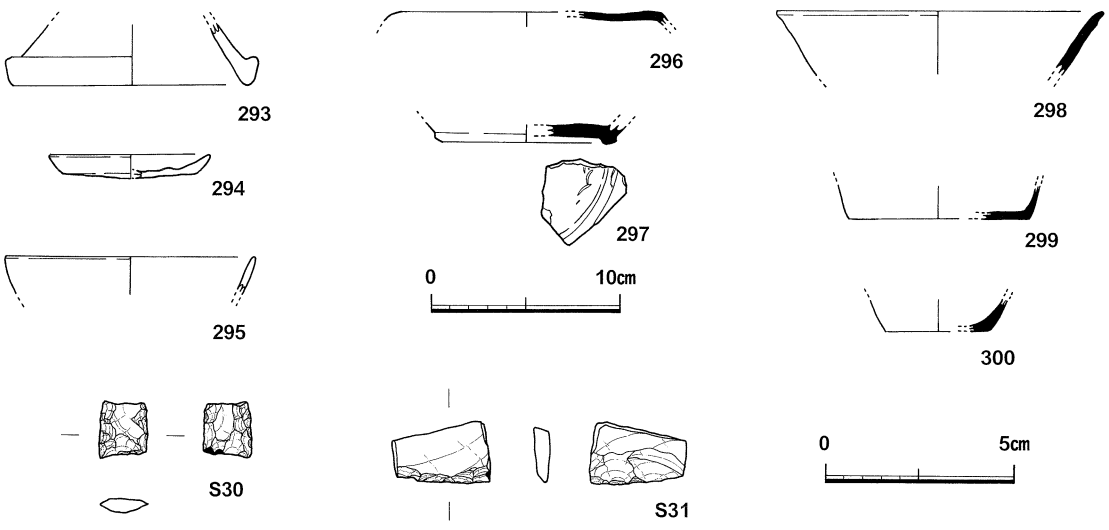
SD3（第５・59・60図）

SD2の東側で並行して検出した溝である。北側ほど幅が狭く，調査区内で途切れている。最大幅1.5ｍ，最大深さ15㎝，検出長23ｍを測る。断面形状は浅いU字を呈し，埋土は黒褐色粘土の単層である。

出土遺物は第60図に掲載した。288～290は須恵器である。288は甕の口縁部である。289は坏である。290は鉢である。291・292は土師器の椀である。291の内面にはヨコヘラミガキが見られる。S27は石庖



第60図　SD3出土遺物実測図



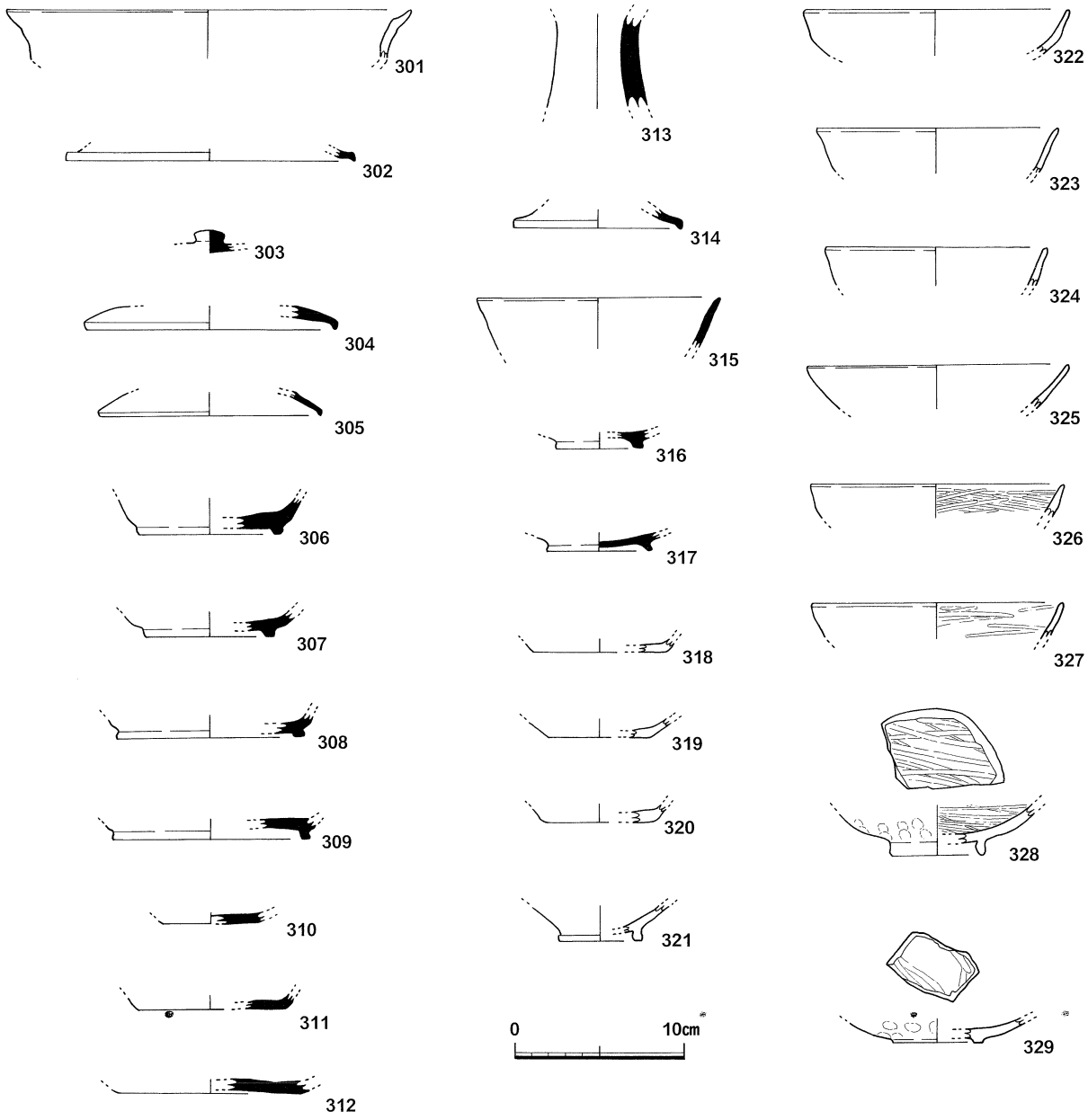
第61図　SD4出土遺物実測図

丁である。S28・S29は削器である。弥生時代や古代の遺物を含むが，291・292の土師器埦が出土していることから，12世紀の遺構と考えられる。

SD4（第５・59・61図）

SD3の東側で並行して検出した溝で，SD3を切っている。最大幅90cm，最大深さ25cm，検出長30mを測る。断面形状はU字を呈し，埋土は２層に分層できる。上層は明黄褐色粘土ブロックを含む灰黄褐色粘土層である。下層は黒褐色粘土層である。

出土遺物は第61図に掲載した。293は弥生土器の高杯脚部である。294は土師器の皿である。295は土師器の埦である。296～300は須恵器である。296は蓋である。297は坏である。底面に爪の圧痕が残る。

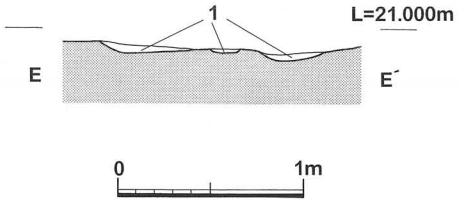


第62図　SD5出土遺物実測図

298は埦である。299・300は底部である。S30は平基式の石鏃である。S31は削器である。弥生時代や古代の遺物も含まれるが，SD3を切っており，294の皿が出土していることから，13世紀前半の遺構と考えられる。

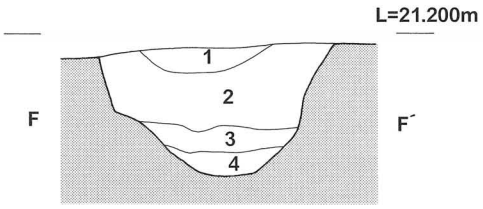
SD5（第５・59・62図）

SD4の東側で並行して検出した溝で，南端はSD4と重複している。最大幅1.9m，最大深さ30cm，検出長30mを測る。断面形状はU字を呈し，埋土は５層に分層できる。第１層は明黄褐色粘土ブロックを含む灰黄褐色粘土層で，SD4の上層埋土と同じである。第２・３層は褐灰色砂混粘土層，第４層は黄灰色粘土層，第５層は明灰色粘土層である。

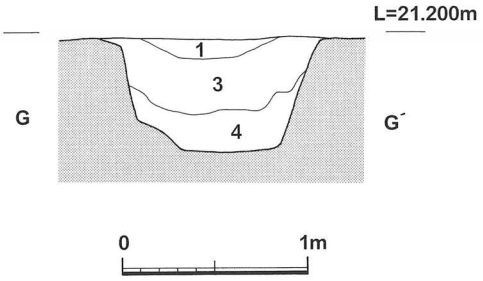


1．10YR　6/2　灰黄褐　粗砂

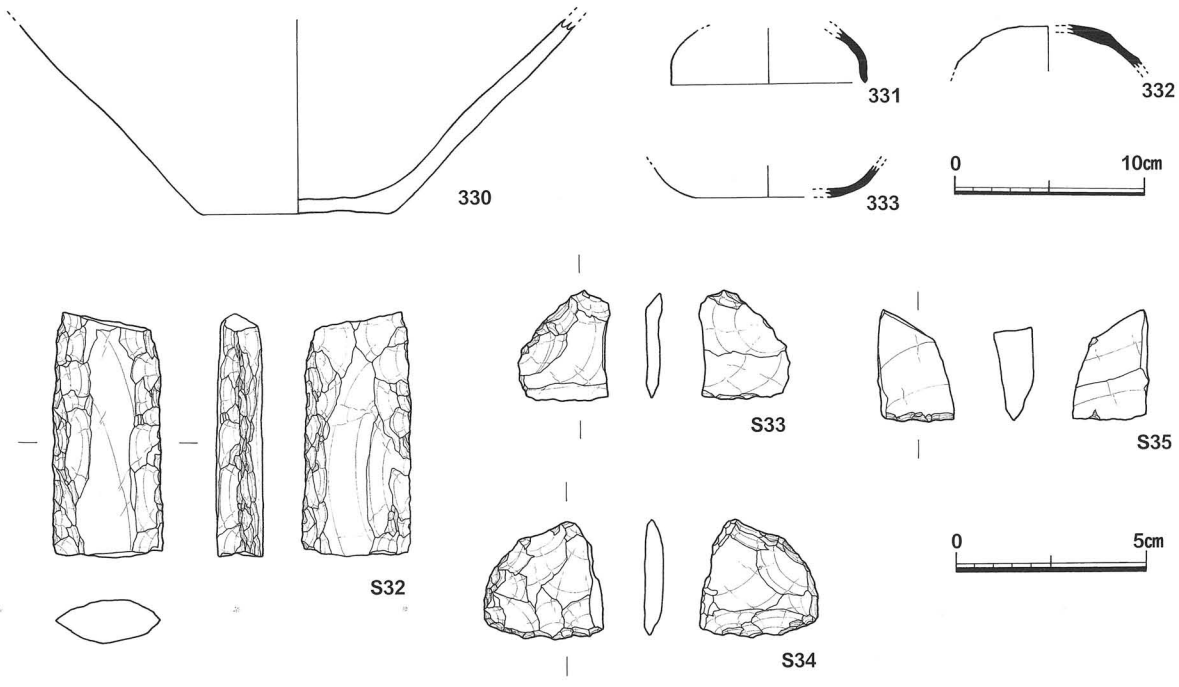
第63図　SD6断面図



1．2.5Y　8/4　淡黄　粘土
2．10YR　4/1　褐灰　粘土（明黄褐粘土ブロック含む）
3．10YR　4/1　褐灰　粘土＋10YR　7/6　明黄褐粘土混在

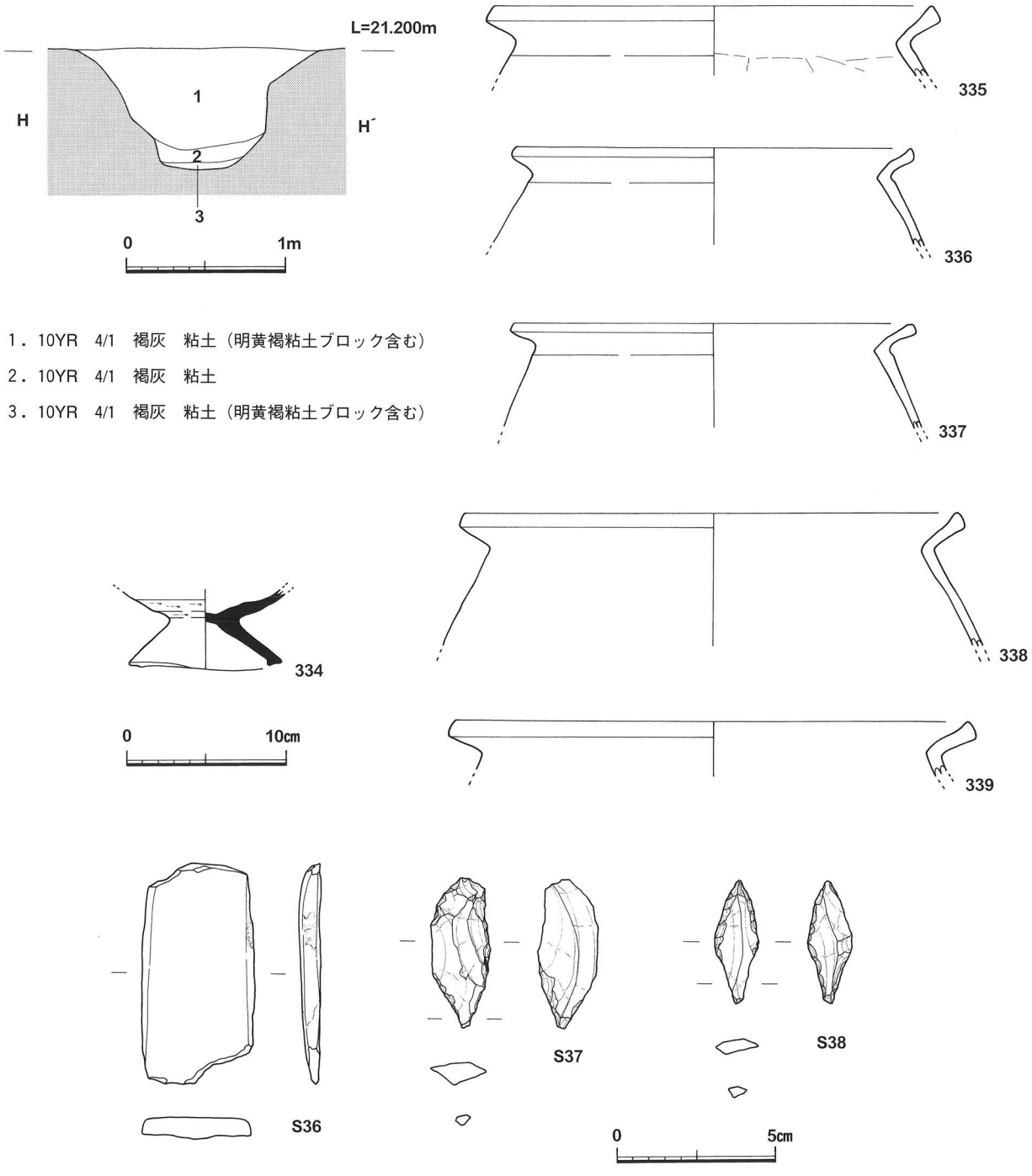


4．10YR　4/1　褐灰　粘土



第64図　SD7断面図及び出土遺物実測図

出土遺物は第62図に掲載した。301は弥生土器の高杯である。302～317は須恵器である。302～305は蓋である。306～312は坏である。313・314は高杯の脚部である。315～317は埦である。318～325は土師器である。318～320は坏である。321～325は埦である。326・327は黒色土器の埦で，内面ヨコヘラミガキである。328・329は瓦器埦である。外面指頭圧，内面ヨコヘラミガキである。弥生土器や古代の遺物も多く含まれるが，中世前半の土器も多く出土している。最終埋没層がSD4と同じであり，同時期の埋没が考えられることから，13世紀前半の遺構と考えられる。



第65図　SD8断面図及び出土遺物実測図

SD6（第５・63図）

SD5の東側で並行して検出した溝で，中央でSD5と重複している。最大幅1.5m，最大深さ５㎝，検出長30mを測る。わずかな窪みだけが残っており，灰黄褐色粗砂層が溝底の埋土である。なお，SD5との重複部分では，その埋土は，SD5の最終埋没層と同様である。遺物は出土していないが，埋土から13世紀前半の遺構と考えられる。

SD7（第５・59・64図）

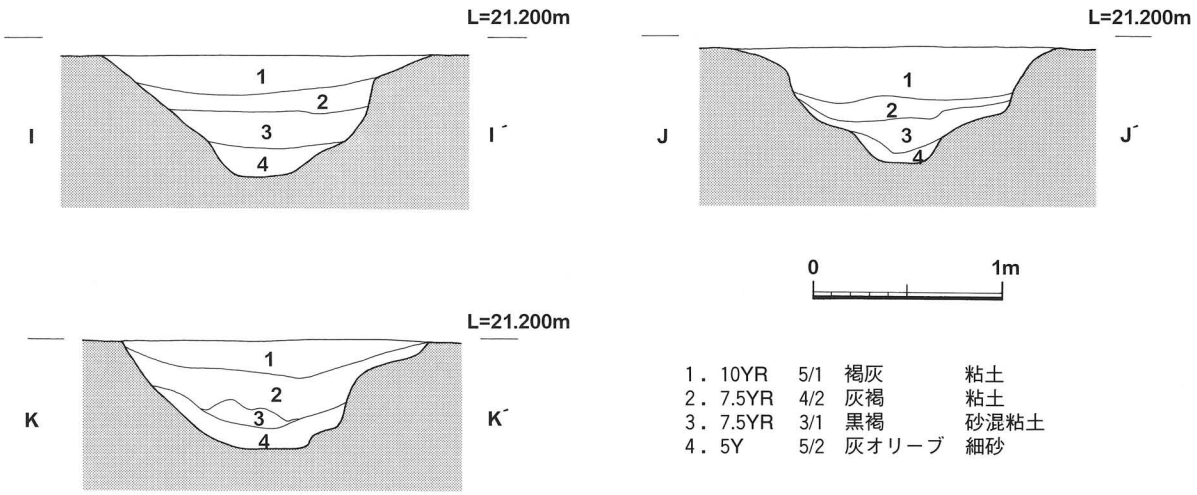
N区の中央を南西から北東に流れる溝である。南西部分はSD4・5の下部で検出しており，北流するが，SD4・5分岐点部分において屈曲し，北東方向へ流れを変えている。最大幅1.4m，最大深さ80㎝，検出長52mを測る。断面形状はU字を呈し，埋土は４層に分層できる。第１層は淡黄色粘土層である。第２層は明黄褐色粘土ブロックを含む褐灰色粘土層で，第３層についても同様であるが，明黄褐粘土の包含量が極めて多い。第４層は褐灰色粘土層である。埋土の状況から，第４層が堆積した後，第２・３層によって人為的に埋め戻された状況がうかがえる。

出土遺物は第64図に掲載した。330は弥生土器の底部である。331・332は須恵器の蓋である。333は須恵器の坏である。S32は石槍である。S33～S35は剥片を利用した削器である。いずれも第２・３層から出土した遺物である。弥生時代の遺物を多く含むが，331～333の須恵器が含まれていることから，７世紀の遺構と考えられる。

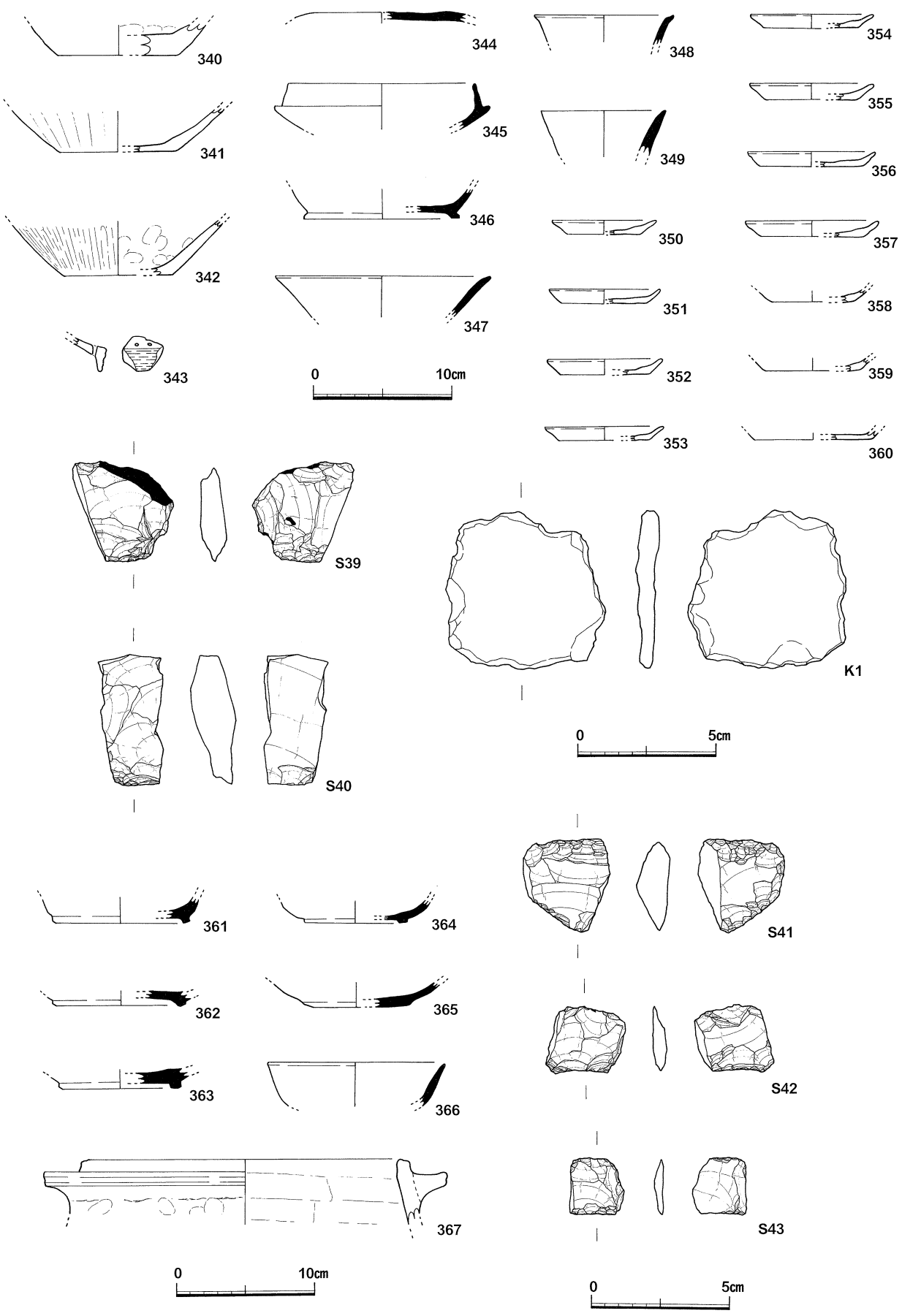
SD8（第5・65図）

N区東半を南西から北東に流れる溝である。一部S区の西端でも検出している。SD7と並行しており，直線的な溝である。最大幅1.4m，最大深さ80㎝，検出長40mを測る。断面形状はU字を呈し，埋土は３層に分層できる。第１層は明黄褐色粘土ブロックを含む褐灰色粘土層である。第２層は褐灰色粘土層で，第３層も同様に褐灰色粘土層であるが，一部明黄褐色粘土ブロックを含む。埋土の状況から，第２・３層が堆積した後，第１層によって人為的に埋め戻された状況がうかがえる。

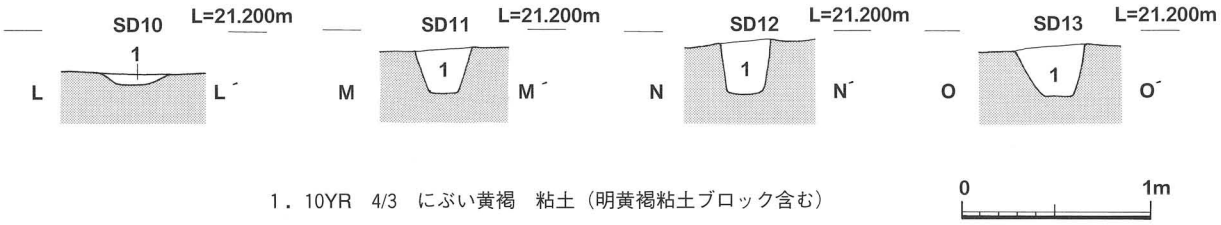
出土遺物は第65図に掲載した。334は須恵器の台付壺である。335～339は弥生土器の甕である。



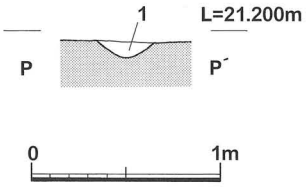
第66図　SD9断面図



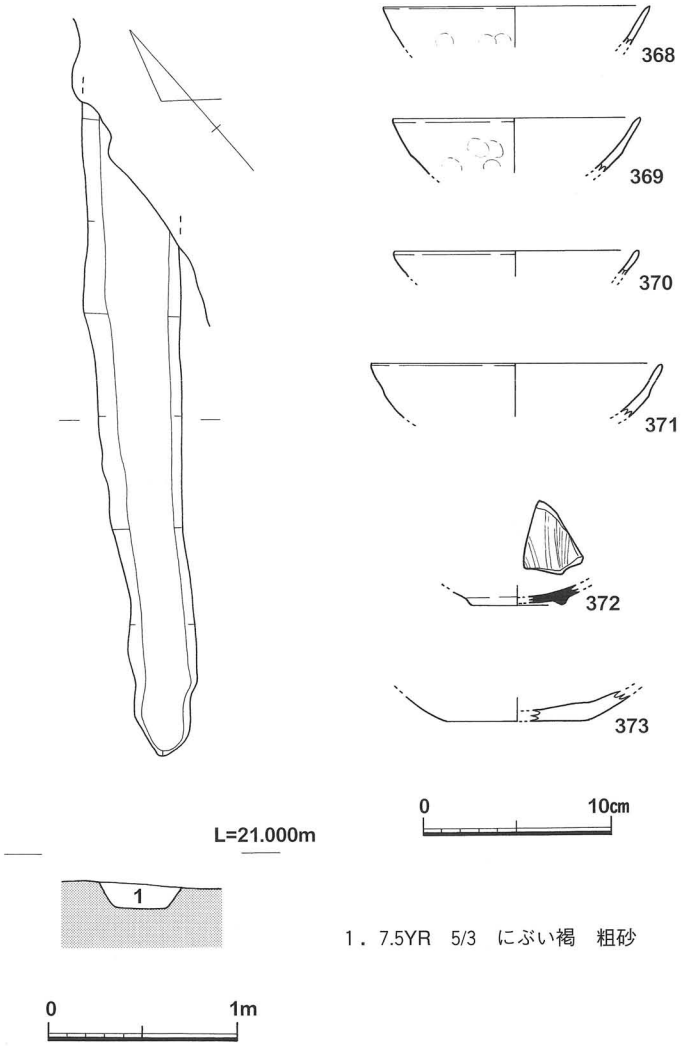
第67図　SD9出土遺物実測図



第68図　SD10～13断面図



第69図　SD14断面図



第70図　SD15平・断面図及び出土遺物実測図

S36は扁平片刃石斧である。S37は石錐である。S38は凸基式の石鏃である。いずれも第２・３層から出土した遺物である。弥生時代の遺物を多く含むが，規模，断面形状，埋土がSD7と近似しており，ほぼ同時期の溝で，同時に埋没した可能性が高い。なお，後述するSD10～13により，SD7と連結していることからも，同時期の可能性が考えられる。

SD9（第５・66・67図）

N区の南西部からやや湾曲しながら東へ流れる溝である。最大幅1.8m，最大深さ70cm，検出長52mを測る。断面形状はU字を呈し，埋土は４層に分層できる。第１層は褐灰色粘土層，第２層は灰褐色粘土層，第３層は黒褐色砂混粘土層で，これら粘土層を上層とした。第４層は灰オリーブ色細砂層で，下層とした。

出土遺物は第67図に掲載した。340～360及びS39・S40・K1が上層出土遺物である。340～342は弥生土器の底部である。343は弥生土器の高杯である。344～349は須恵器である。344は蓋である。345・346は坏である。347は埦である。348・349は壺である。350～360は土師器の皿及び坏である。S39・S40は

石庖丁である。K1は鉄製品である。

361～367及びS41～S43は下層出土遺物である。361～366は須恵器の坏である。367は土師質土器の羽釜である。S41は石庖丁である。S42・S43は削器である。

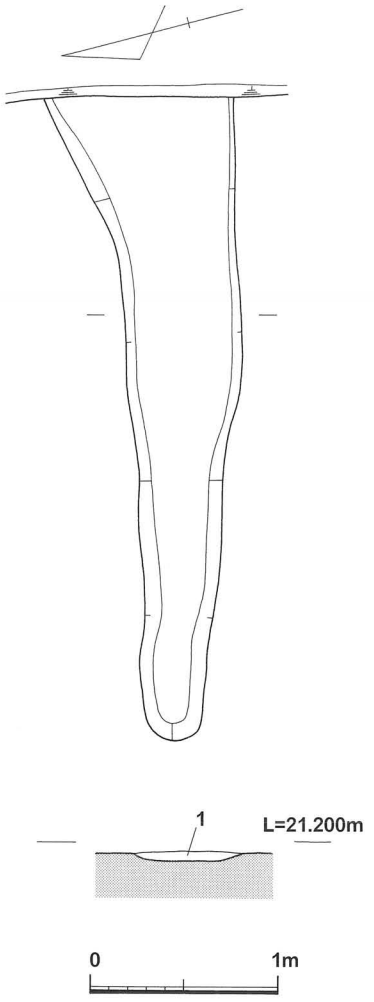
出土遺物は弥生時代～古代の遺物も多く含むが，上層出土の土師器の皿等から，13世紀末～14世紀前半の埋没と考えられる。なお，下層についてはやや古く，12世紀頃と考えられる。なお，後述する近世溝SD17や現在の水路もこの溝に並行していることから，中世前半頃までには現在の地割ができたことがうかがえる。

SD10～13（第５・68図）

N区において東西方向に断続的に続く溝である。いずれも断面形状は逆台形ないしは方形で，埋土は明黄褐色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色粘土の単層である。最大幅35cm，最大深さ30cmを測る。SD7及びSD8の合流部分で，これらの溝に流れ込むようやや深くなっていることから，これらの溝を連結する溝であった可能性が考えられる。出土遺物はなく詳細な時期は不明であるが，SD7・8と同時期の遺構の可能性が高い。

SD14（第５・69図）

N区中央部でSD9に並行して検出した遺構である。最大幅40cm，最大深さ10cm，検出長11mを測る。断面形状は浅いU字を呈し，埋土は黒褐色粘土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

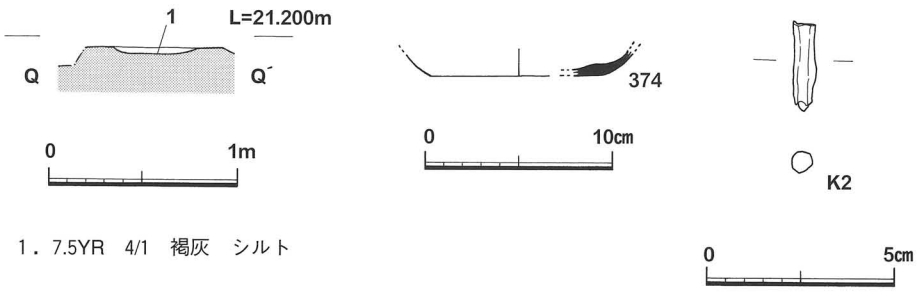


1．10YR　7/2　にぶい黄橙　シルト～細砂
（褐灰粘土ブロック含む）

第71図　SD16平・断面図

SD15（第70図）

N区西端で検出した溝である。SD1を切った状態であったが，SD1掘削中にその存在を把握したため，切り合いのない南端部分の記録しかできなかった。幅50cm，深さ12cmを測る。埋土はにぶい褐色粗砂の



1．7.5YR　4/1　褐灰　シルト

第72図　SD17断面図及び出土遺物実測図

単層である。

遺物は第70図に掲載した。368～372は瓦器埦である。373は土師器の坏である。13世紀の遺構と考えられる。

SD16（第71図）

N区東端で検出した溝である。最大幅１ｍ，最大深さ５㎝，検出長3.4ｍを測る。浅い堆積で，埋土は褐灰色粘土ブロックを含むにぶい黄橙色シルト～細砂の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，埋土が近世の遺構と似ていることから，同時期の遺構の可能性が考えられる。

SD17（第５・72図）

S区北端で検出した溝である。SD9に並行してやや湾曲しており，最大幅70㎝，最大深さ５㎝，検出長32ｍを測る。浅い堆積で，埋土は褐灰色シルトの単層である。

出土遺物は第72図に掲載した。374は須恵器の坏である。K2は鉄釘である。古代の遺物を含むが，陶磁器の小片が出土しており，近世の遺構と考えられる。

SD18（第５・73図）

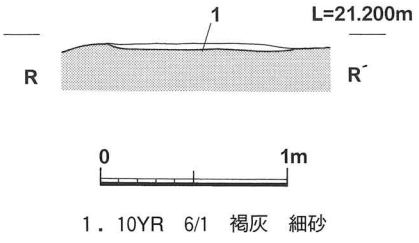
SD17の南側で並行して検出した溝である。最大幅1.3m，最大深さ５㎝，検出長14ｍを測る。浅い堆積で，埋土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，埋土が近世の遺構と似ていることから，同時期の遺構の可能性が考えられる。

SD19（第74図）

S区中央北部で検出した南北方向の溝である。最大幅25㎝，最大深さ５㎝，検出長2.2ｍを測る。浅い堆積で，埋土は褐灰色粘質シルトの単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，埋土が近世の遺構と似ていることから，同時期の遺構の可能性が考えられる。

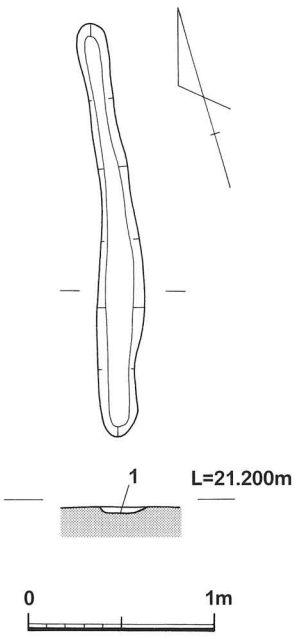
SD20（第５・75図）

S区南西部で検出した東西方向の溝である。南肩は調査区外のため検出できていない。最大深さ10㎝，検



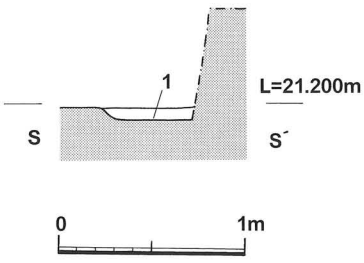
1．10YR　6/1　褐灰　細砂

第73図　SD18断面図



1．10YR　5/1　褐灰　粘質シルト

第74図　SD19平・断面図



1．10YR　5/1　褐灰　粘質シルト

第75図　SD20断面図

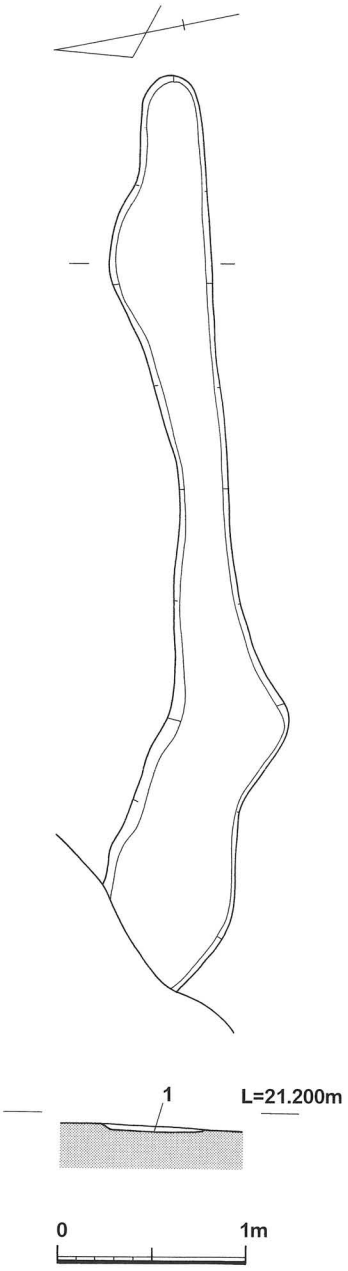
出長13mを測る。浅い堆積で，埋土は褐灰色粘質シルトの単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，埋土が近世の遺構と似ていることから，同時期の遺構の可能性が考えられる。

SD21（第76図）

S区南西部で検出した東西方向の溝である。最大幅60cm，最大深さ５cm，検出長4.9ｍを測る。浅い堆積で，埋土は褐灰色粘質シルトの単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，埋土が近世の遺構と似ていることから，同時期の遺構の可能性が考えられる。

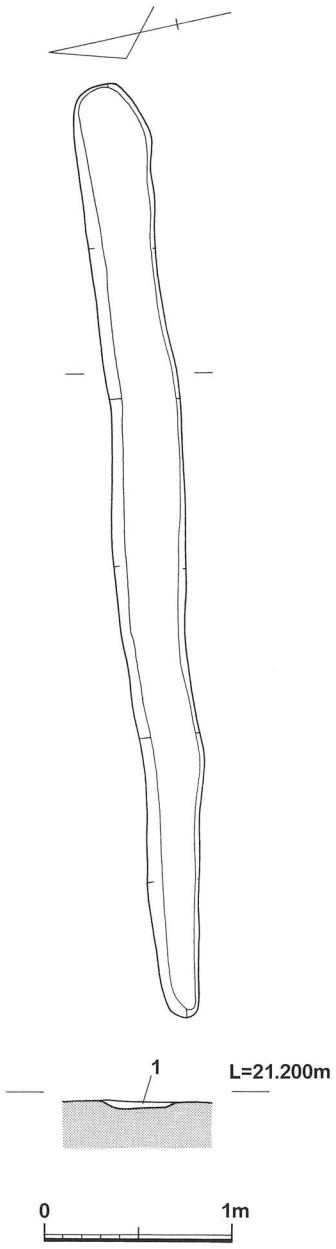
SD22（第77図）

S区南西部で検出した東西方向の溝である。最大幅40cm，最大深さ５cm，検出長５ｍを測る。浅い堆積で，埋土は褐灰色粘質シルトの単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，埋土が近世の遺構と似ていることから，同時期の遺構の可能性が考えられる。



１．10YR　5/1　褐灰　粘質シルト

第76図　SD21平・断面図



１．10YR　5/1　褐灰　粘質シルト

第77図　SD22平・断面図

第４章　自然科学的分析

日暮・松林遺跡出土木製品の樹種調査結果

㈱吉田生物研究所

１．試料

試料は高松市に所在する日暮・松林遺跡（特養ホーム）から出土した農具３点，食事具１点，容器１点，建築部材１点，用途不明品１点の合計７点である。

２．観察方法

剃刀で木口（横断面），柾目（放射断面），板目（接線断面）の各切片を採取し，永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３．結果

樹種同定結果（針葉樹２種，広葉樹１種）の表と顕微鏡写真を示し，以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

日暮・松林遺跡出土木製品同定表

No.	品　名	樹　　種
W88	杓文字	マツ科ツガ属
W89	漆器盆	ヒノキ科アスナロ属
W63	鍬	ヒノキ科アスナロ属
W49	鍬	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
W64	鍬	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
W85	加工木（線刻）	ヒノキ科アスナロ属
W50	木樋	ヒノキ科アスナロ属

１）マツ科ツガ属（*Tsuga* sp.）

（遺物W88）

木口では仮道管を持ち，早材から晩材への移行は急であった。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔はスギ型，ヒノキ型で１分野に２～４個ある。細胞壁には数珠状末端壁がある。上下両端には放射仮道管がある。板目では放射組織はすべて単列であった。ツガ属はツガ，コメツガがあり，本州，四国，九州に分布する。

２）ヒノキ科アスナロ属（*Thujopsis* sp.）

（遺物W89,W63,W85,W50）

木口では仮道管を持ち，早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個あ

る。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ，アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州，四国，九州に分布する。

3）ブナ科コナラ属アカガシ亜属（*Quercus subgen. Cyclobalanopsis* sp.）
（遺物W49,W64）

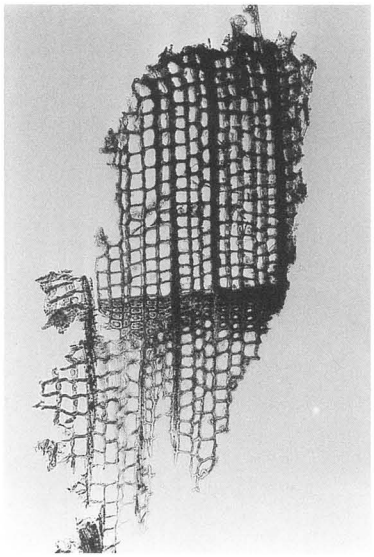
放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～200μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1～3細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり，時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ，アカガシ，シラカシ等があり，本州（宮城，新潟以南），四国，九州，琉球に分布する。

◆使用顕微鏡◆

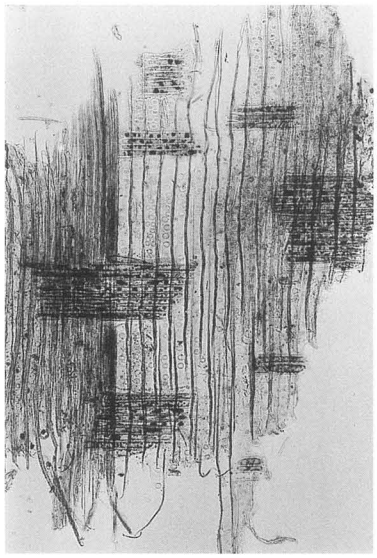
Nikon
MICROFLEX UFX-DX Type 115

参考文献

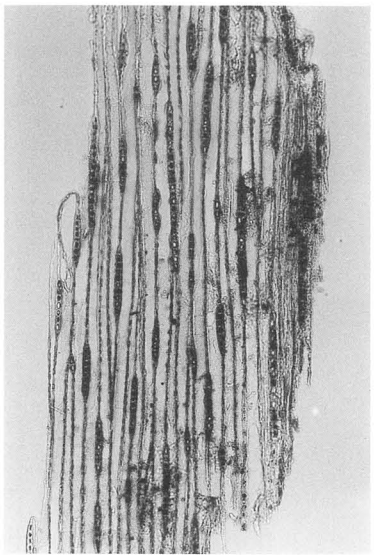
島地　謙・伊東隆夫　1988『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
島地　謙・伊東隆夫　1982『図説木材組織』地球社
伊東隆夫　1999『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』京都大学木質科学研究所）
北村四郎・村田　源　1979『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ』保育社
深澤和三　1997『樹体の解剖』海青社
奈良国立文化財研究所　1985『奈良国立文化財研究所　史料第27冊　木器集成図録　近畿古代篇』
奈良国立文化財研究所　1993『奈良国立文化財研究所　史料第36冊　木器集成図録　近畿原始篇』



木口×40

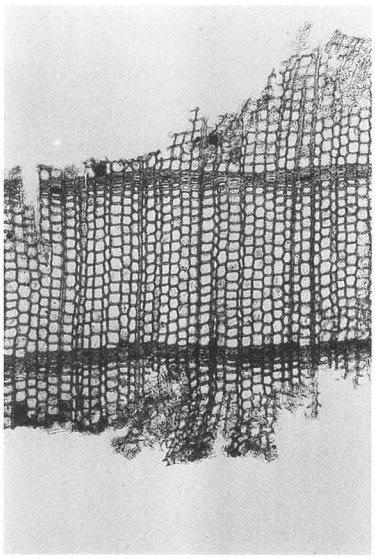


柾目×40

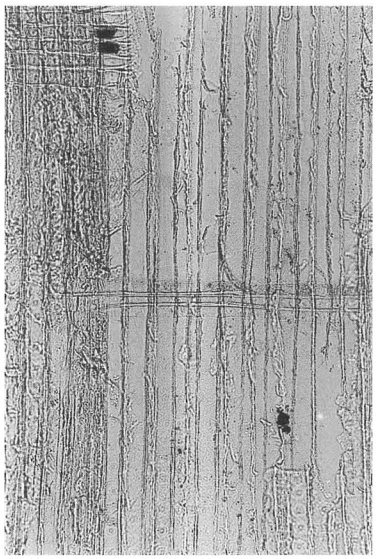


柾目×40

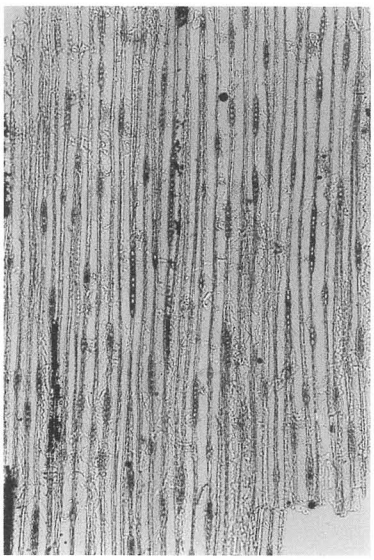
W88　マツ科ツガ属



木口×40

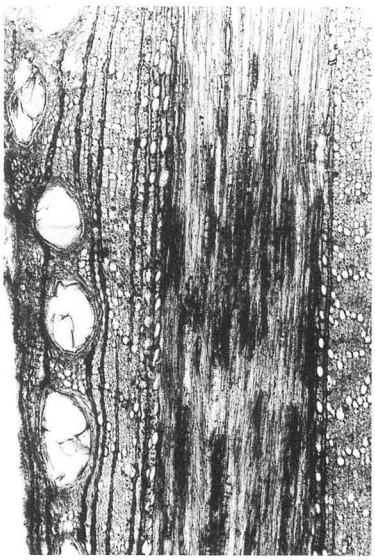


柾目×40

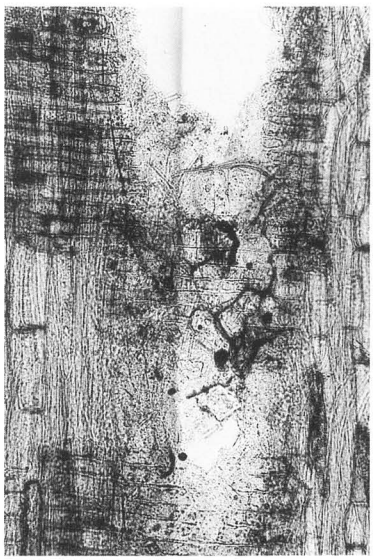


板目×40

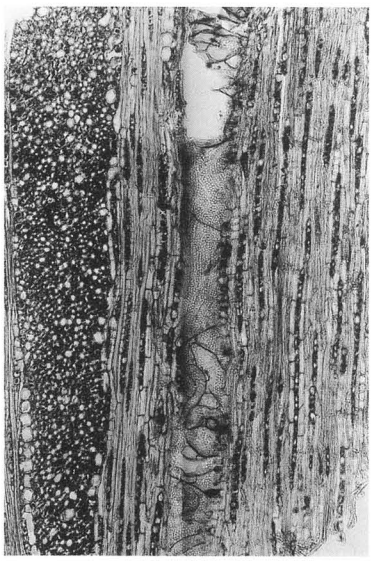
W89　ヒノキ科アスナロ属



木口×40

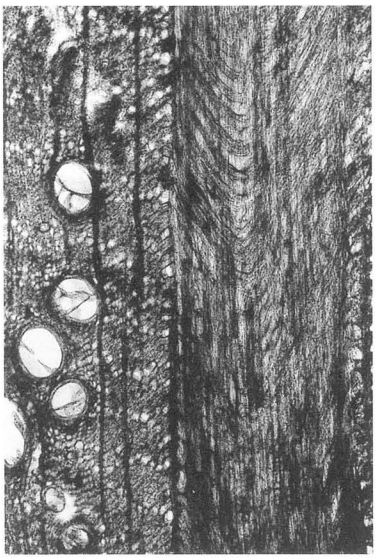


柾目×40

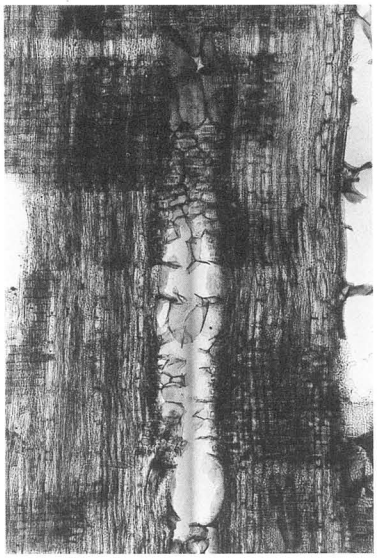


板目×40

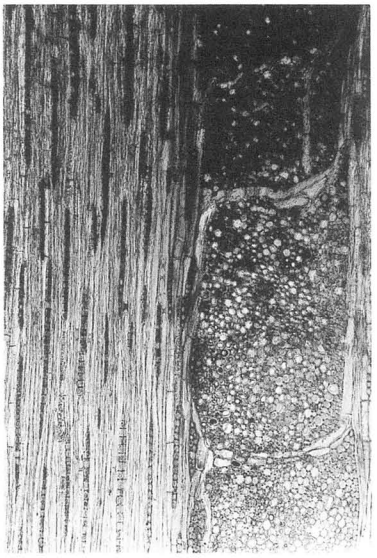
W63　ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口×40

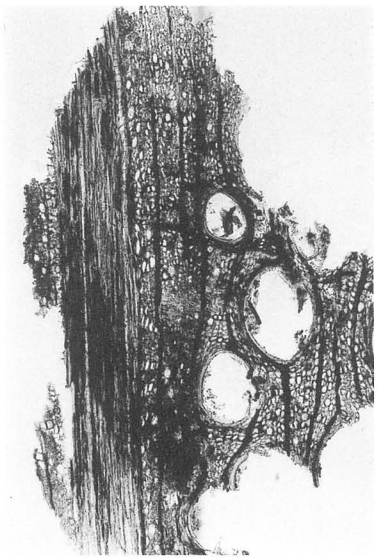


柾目×40

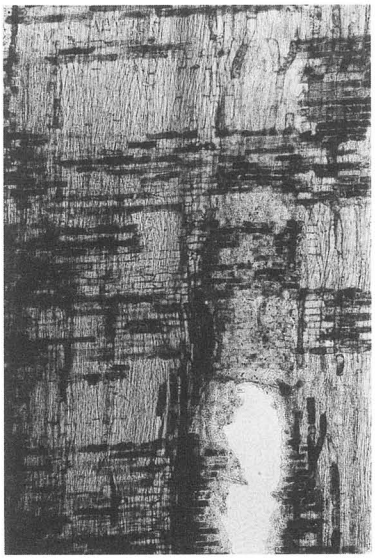


板目×40

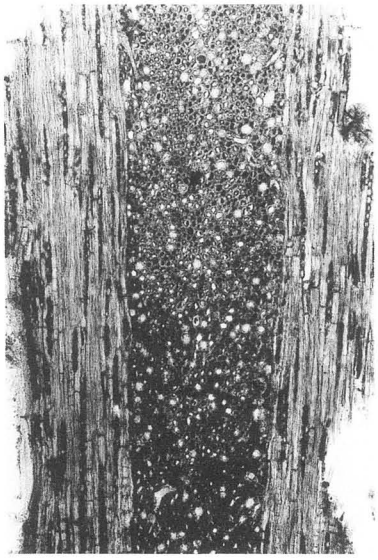
W49　ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口×40

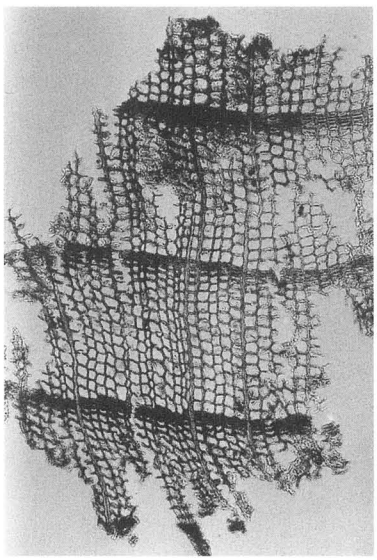


柾目×40

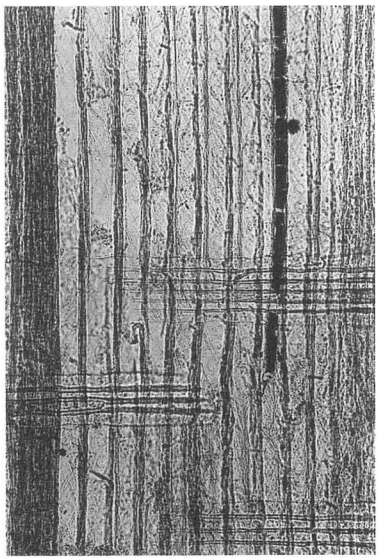


板目×40

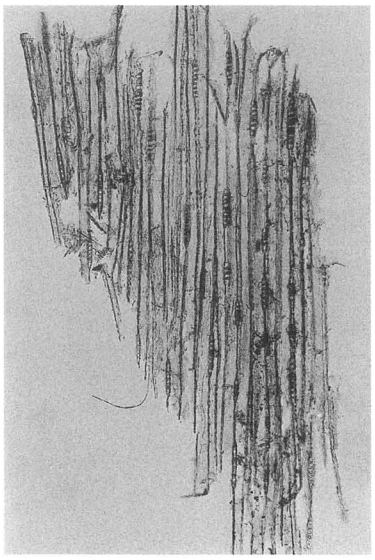
W64　ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口×40

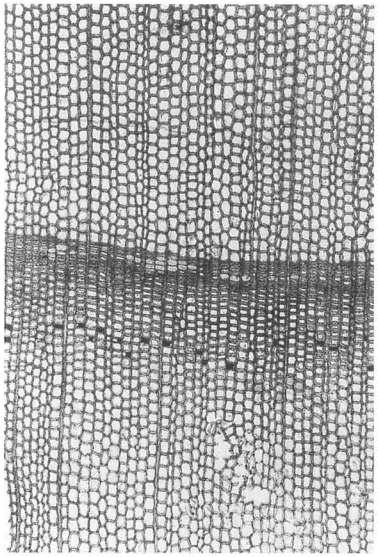


柾目×40

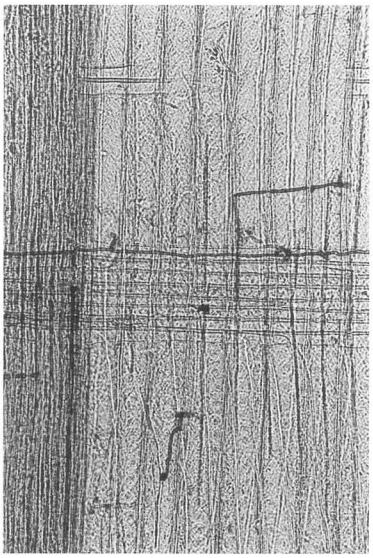


板目×40

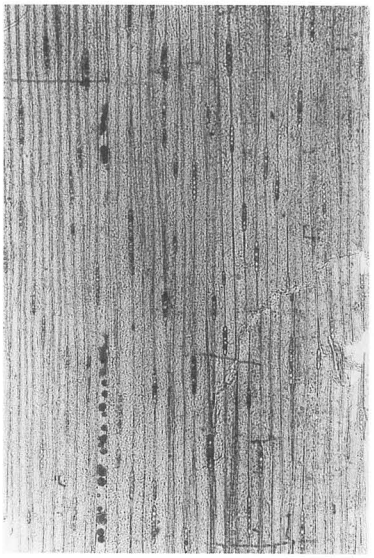
W85　ヒノキ科アスナロ属



木口×40



柾目×40



板目×40

W50　ヒノキ科アスナロ属

第５章　まとめ

第１節　遺構の変遷について

今回の調査では，弥生時代中期，弥生時代終末期，古墳時代後期，中世前半，近世以降の５時期の遺構・遺物を検出した。以下に５時期の主要遺構の変遷を示す。

弥生時代中期

弥生時代中期の遺物は多く出土したが，確実な当該期の遺構は不明である。これまでの周辺部の調査において弥生時代中期の掘立柱建物について，ほぼ東西方向を志向していることが指摘されている（中西1997）。今回の調査地で検出した掘立柱建物SB1～SB5については，73°～79°東偏した建物である。ややこれまでの調査事例の方位とは異なるが，その規模や埋土の状況から，当該期の可能性が最も高いと考えられる。

弥生時代終末期

当該期についても，出土遺物量に比べ明確な遺構は少ない。調査区中央で検出したSK5～8が該当する。不整形な土坑で，性格は不明である。

古墳時代後期

古墳時代中期末～後期前葉頃に，調査区西端を南北方向に流れるSD1が掘削された。これまでの周辺の調査からSD1は多肥宮尻遺跡SR02，都市計画道路調査地SR02から続き，今回の調査区を通り，済生会調査地SD1，共同住宅調査地SD1，フィットネスクラブ調査地SD1へと向かう方向性が見えてきた。なお，SD1は７世紀頃に埋没したと考えられる。また，この大規模な溝から派生すると考えられるSD7・8，さらにそこから派生するSD10～13についても同時期の遺構と考えられ，埋没時期については７世紀である。

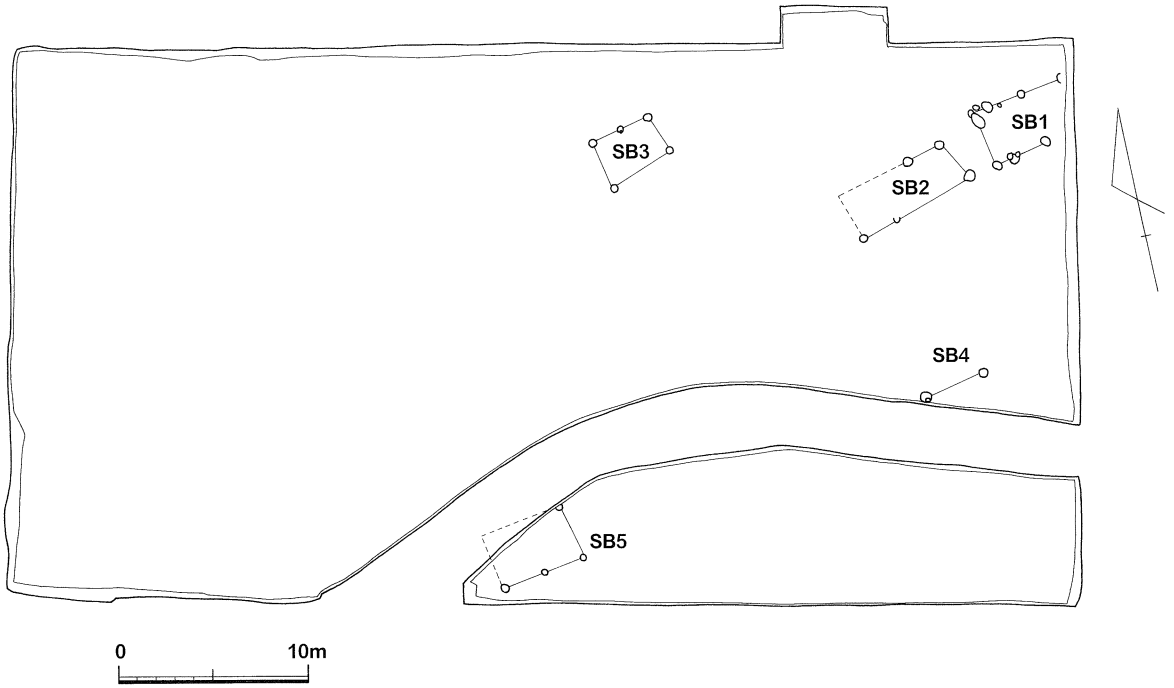
中世

SD1に並行して検出したSD2～6，SD15が12～13世紀の遺構である。溝は条里方位とは異なり，SD1を踏襲して掘削されている。また，これら溝群から徐々に条里方位へ流路方向を変えるSD9が13世紀末～14世紀前半に埋没している。以後，SD9の地割が踏襲され，調査地内を流れる現有水路もほぼ同じ流路をたどる。

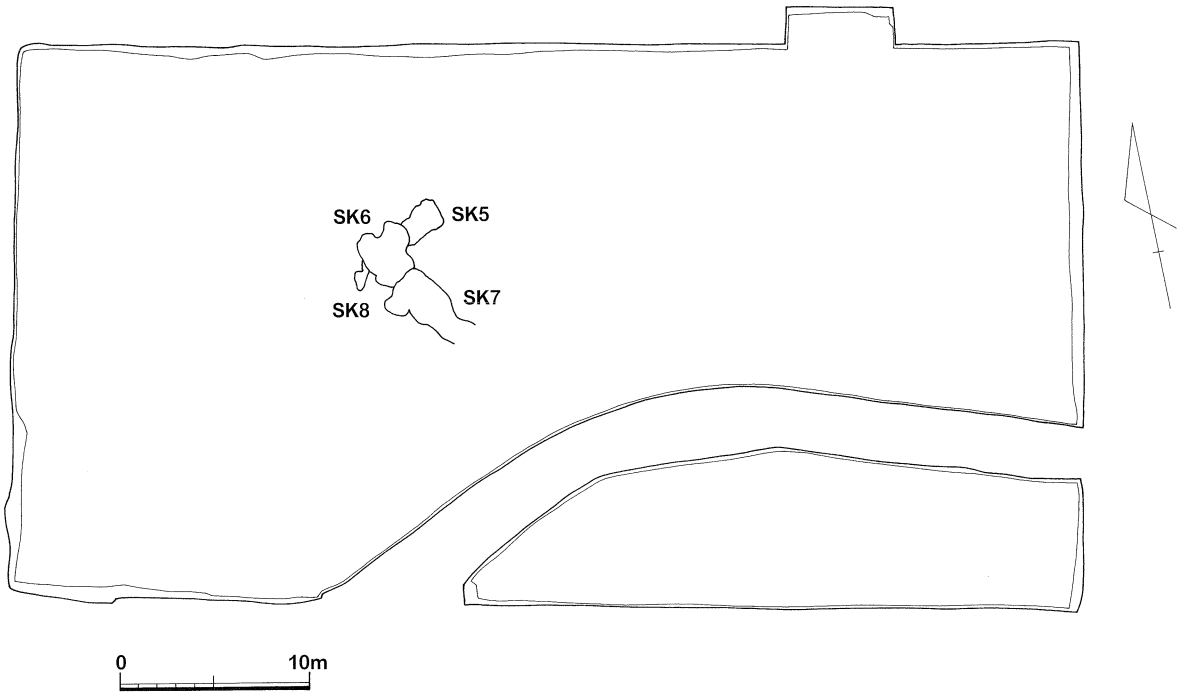
なお，これらSD1～6，SD15付近は，その埋没後もわずかに低くなって，灰オリーブ色粘質シルト層の堆積が見られる。出土遺物は中世までの遺物に限られることから，中世段階で堆積したと考えられる。

近世

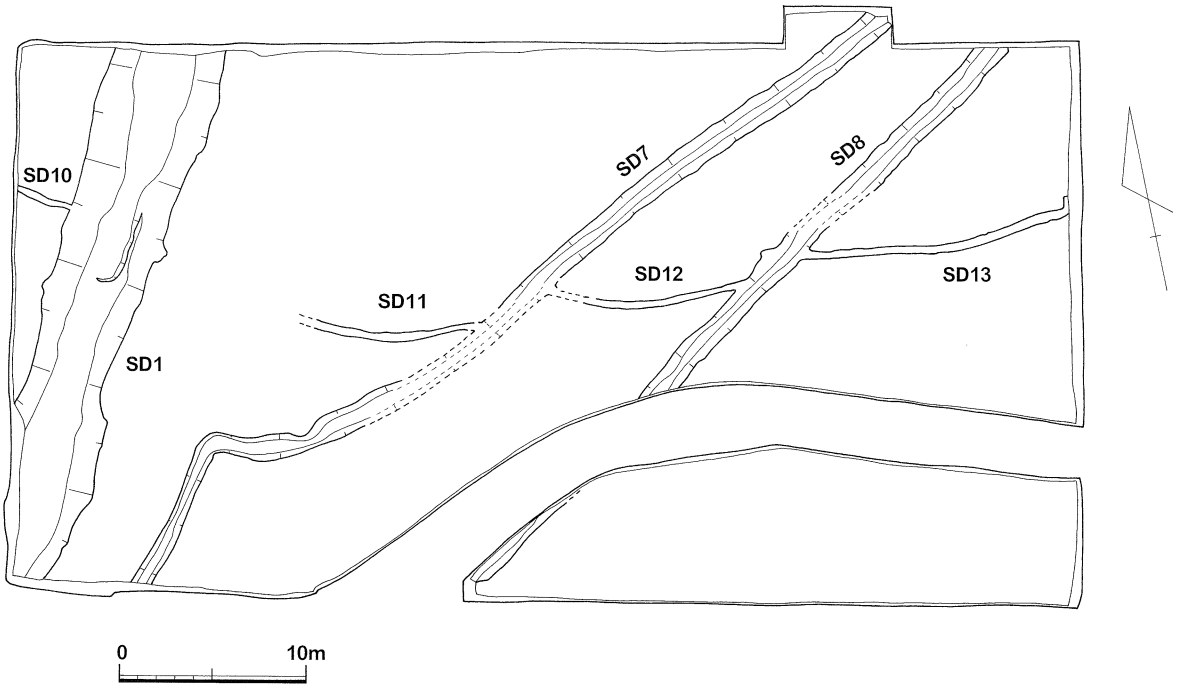
13世紀末～14世紀に埋没したSD9とほぼ同じ方位をとるSD17をはじめ，条里地割に沿った溝が数条と，土坑数基を検出したに過ぎない。



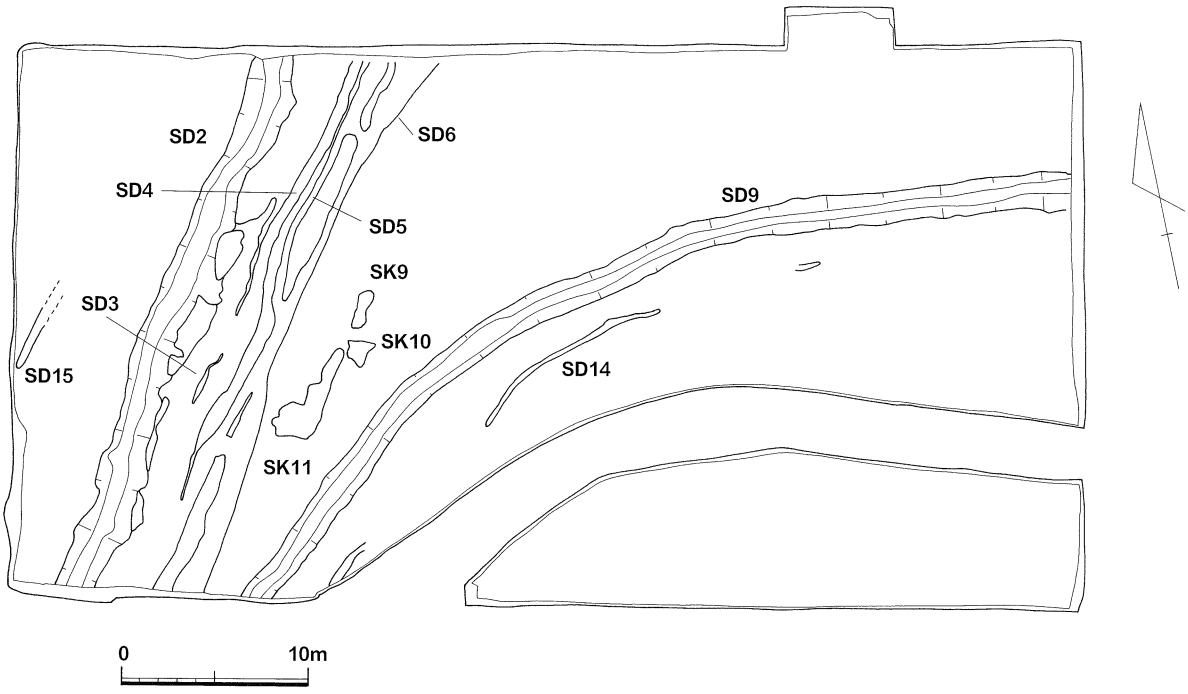
第78図　弥生時代中期の主要遺構平面図



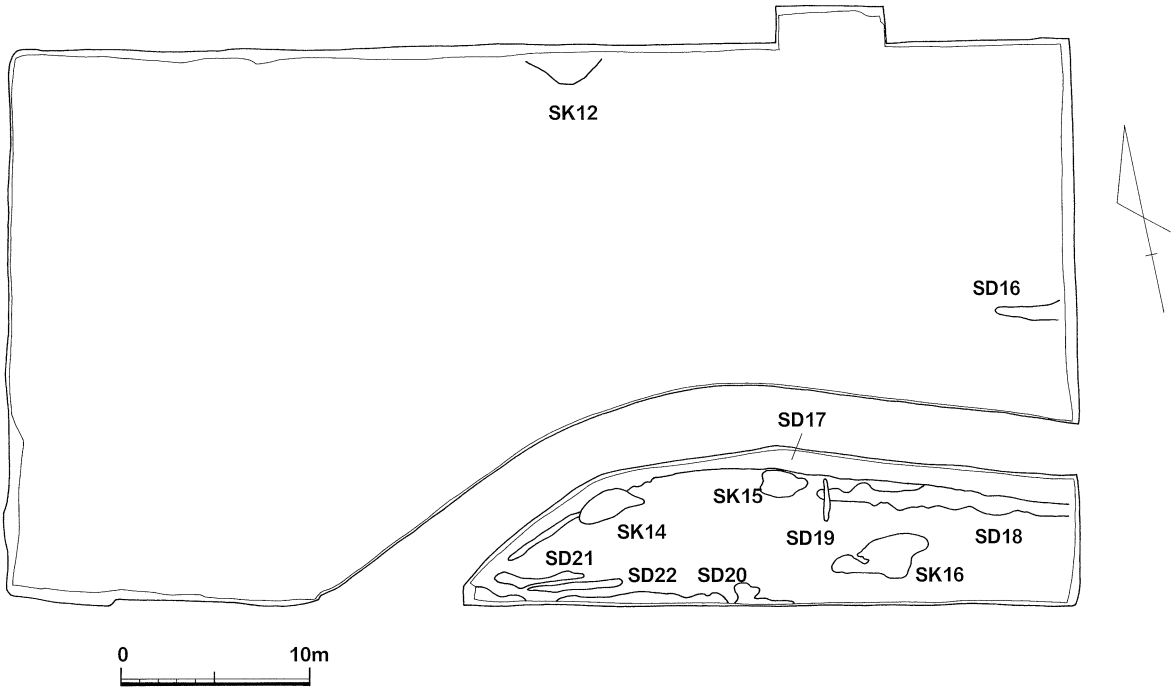
第79図　弥生時代終末期の主要遺構平面図



第80図　古墳時代後期の主要遺構平面図



第81図　中世の主要遺構平面図



第82図　近世の主要遺構平面図

第２節　多肥松林遺跡群における弥生時代から古墳時代の集落域の変遷

調査地周辺では，これまで数多くの発掘調査が行われ，面的に遺跡の広がりや内容が判明している地域である。遺跡名は多肥松林遺跡，日暮・松林遺跡，松林遺跡，多肥宮尻遺跡と区別されているが，遺跡としてはいずれも連続するものであり，行政的な区分でしかない。ここでは，これらの遺跡を多肥松林遺跡群としてその集落域の動向を見ていきたい。

まず，周辺の地形であるが，南西から流れてくる旧香東川主流路が桜木神社付近において，２方向へ分岐している。その東側の流路はそのまま北東部へ流れ，下池に向かって流れる。一方，西側の流路は，多肥松林遺跡（現県立桜井高等学校）の中央部を通り，そのまま北流する。これら２本の主流路と，流路によって分断された南北方向に長い３つの微高地から構成されている。

当該地域においては，西側主流路の西側部分で南西から北東方向へ流れる縄文時代晩期の遺物を含む旧河道が検出されているが，本格的に人の生活痕跡が認められるのは，弥生時代前期後半以降である。西側微高地上に多肥松林遺跡（高校）SD1等の溝が見られる（山下1999）。溝は弧状に巡っており，環濠の可能性も考えられる。溝以外の遺構は検出されておらず，実態は不明であるが，溝内からは多量の土器が出土しており，集落の存在した可能性が高い。また，東側微高地においても多肥宮尻遺跡（宅地造成）や弘福寺領田図調査地においても，弥生時代前期末の溝が検出されている。地形的には弥生終末期の遺物を含む包含層が堆積しており，わずかに低地となっているが，出土遺物量から周辺部に当該期の集落域の存在が示唆される。

弥生時代中期前半の遺構は現在のところ知られておらず，周辺でも東方の空港跡地遺跡及び宮西・一角遺跡において前期末～中期初頭の集落域が知られている程度である。

その後，弥生時代中期中葉に再び当該地に集落域が見られるようになる。西側流路を挟んで，西側微高地と中央微高地上に集落域が見られる。中央微高地では現在までに竪穴住居11棟と掘立柱建物35棟が検出されており，当該期の中心的な集落域であったことがうかがえる。また，西側微高地においては，明確な竪穴住居は多肥松林遺跡（高校）で１棟，松林遺跡（通学路）で１棟しか検出されていない。しかしながら，多肥松林遺跡（高校）においては竪穴住居を想定できる円形の溝を数棟分検出しており，松林遺跡（通学路）では時期不明の竪穴住居を３棟検出しており，集落が形成されていたことがうかがえる。なお，この２つの集落の様相は異なる。西側微高地の集落域では掘立柱建物が検出されておらず，竪穴住居主体の集落であった可能性が考えられる。一方，中央微高地の集落域では，竪穴住居11棟に対し，掘立柱建物35棟であり，掘立柱建物が全体の76％を占めており，掘立柱建物主体の集落域であった可能性が考えられる。西側微高地の調査は，トレンチ状の調査が多いことも掘立柱建物の未検出の要因の１つと考えられるが，両集落の竪穴住居と掘立柱建物の比率は明らかに違いがあると考えられる。

弥生時代中期後半以降，また当該地から集落域は消滅している。再び集落が営まれるようになるのは，弥生時代終末期である。当該期の集落域も，西側流路を挟んで，西側微高地と中央微高地上に集落域が見られる。やはり，中央微高地での竪穴住居及び掘立柱建物の検出例が多く，当該期においても中心的な集落域であったことがうかがえる。なお，西側微高地では，竪穴住居２棟を検出しているに過ぎない。いずれも，弥生時代中期中葉の集落域より集落域は狭まっていると考えられる。

古墳時代に入ると，再度集落が消滅している。現段階では集落域を検出していないが，多肥松林遺跡群の南部において古墳時代中期末～後期にかけての遺物が多量に出土していることから，中央微高地南部や西側微高地南部にその集落域が想定される。なお，当該期には今回調査地のSD1が掘削されており，これまでの調査成果から，400m以上に渡って水路が掘削されている。同様の水路が西側微高地上にも確認されており，当該期に大規模な灌漑水路が成立したことがうかがえる。

参考文献

大嶋和則1996『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　松林遺跡』高松市教育委員会

大嶋和則2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査　松林遺跡(第２次調査)』高松市教育委員会

山下平重1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊　多肥松林遺跡』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

北山健一郎1995『高松土木事務所新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　多肥松林遺跡』香川県教育委員会

西村尋文1998「多肥松林遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成９年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

中西克也1997『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書　日暮・松林遺跡』高松市教育委員会

大嶋和則2003『香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡(済生会)』高松市教育委員会

大嶋和則2005「日暮・松林遺跡(農道)」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成15年度国庫補助事業－』高松市教育委員会

小川賢ほか2005『フィットネスクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡(フィットネスクラブ)』高松市教育委員会

大嶋和則2005「日暮・松林遺跡(共同住宅)」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成15年度国庫補助事業－』高松市教育委員会

松本和彦ほか1998「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成９年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

植松邦浩ほか1999「多肥宮尻遺跡」『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成10年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

小野秀幸ほか2000「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成11年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

小川賢ほか2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　多肥宮尻遺跡』高松市教育委員会

第83図　弥生時代前期の集落域

第84図　弥生時代中期の集落域

第85図　弥生時代後期の集落域

第86図　古墳時代後期の集落域

土器観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm) 口径	底径	器高	外面	内面	色調（上＝外面,下＝内面）	胎土	焼成
1	弥生土器 高杯	4	包含層	22.0		(2.5)	ナデ	ナデ	7.5YR4/3 褐 7.5YR5/3 にぶい褐	やや密 2㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
2	弥生土器 底部	4	包含層		5.4	(3.4)	マメツ	タテヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR7/2 にぶい黄橙	粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
3	弥生土器 底部	4	包含層		9.0	(3.3)	マメツ	マメツ	5Y3/1 オリーブ黒 5Y3/1 オリーブ黒	粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
4	須恵器 蓋	4	包含層	15.2		(1.2)	回転ナデ	回転ナデ	N6/0 灰 N6/0 灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
5	須恵器 坏	4	包含層	13.0		(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	N7/0 灰白 N7/0 灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
6	須恵器 坏	4	包含層	11.0		(1.6)	ナデ	ナデ	N8/0 灰白 N8/0 灰白	やや密 2㎜以下の石英・長石含む	良
7	須恵器 坏	4	包含層		8.2	(1.2)	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐 7.5YR3/1 黒褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
8	土師質土器 脚	4	包含層			(10.3)	ナデ		2.5Y7/6 明黄褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
9	土師質土器 脚	4	包含層			(4.3)	ナデ		2.5YR5/6 明赤褐	やや密 3㎜以下の石英・長石含む	良
10	白磁 碗	4	包含層	15.6		(3.8)	施釉	施釉	5Y7/2 灰白 5Y7/2 灰白	精良	良好
11	須恵器 蓋	11	SK1	20.4		(1.2)	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白 5Y7/1 灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
12	弥生土器 甕	15	SK5	16.8		(9.4)	タテハケ	指頭圧	5YR5/6 明赤褐 7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
13	弥生土器 鉢	15	SK5	19.8	4.0	6.9	指頭圧 接合痕	マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR8/4 浅黄橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
14	弥生土器 底部	15	SK5		4.5	(3.4)	タテヘラミガキ スス付着	タテヘラケズリ	5YR5/4 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
15	弥生土器 高杯	16	SK6	16.2		(5.6)	ヨコヘラケズリ	分割ヘラミガキ	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR5/6 明赤褐	粗 2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
16	弥生土器 甕	17	SK7	16.6		(3.0)	マメツ	マメツ	5YR5/8 明赤褐 2.5YR5/8 明赤褐	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
17	弥生土器 甕	17	SK7	15.8		(6.7)	タテハケ	指頭圧	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR6/3 にぶい褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
18	弥生土器 底部	17	SK7		4.6	(4.0)	マメツ	マメツ	7.5YR7/8 黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
19	弥生土器 底部	17	SK7		4.4	(1.8)	マメツ	マメツ	5YR2/1 黒褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
20	弥生土器 底部	17	SK7		3.4	(6.0)	指頭圧	マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙 2.5Y7/1 灰白	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
21	弥生土器 紡錘車	17	SK7			(2.4)	マメツ	マメツ	5YR4/6 赤褐 7.5YR6/3 にぶい褐	粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
22	粘土塊	17	SK7			(3.9)			7.5YR8/4 浅黄橙	やや密 3㎜以下の石英・長石含む	良
23	須恵器 坏	19	SK9			(2.0)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/0 灰 2.5Y6/1 黄灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
24	土師器 皿	20	SK10	8.2	6.0	1.2	マメツ	マメツ	2.5Y7/8 黄 2.5Y7/6 明黄褐	粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
25	須恵器 埦	20	SK10		4.6	(1.8)	ヘラ切り・ナデ	ナデ	5Y7/1 灰白 5Y7/1 灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
26	磁器(龍泉窯系) 碗	21	SK11	16.0		(2.7)	青磁釉 鎬蓮弁	青磁釉	5Y5/2 灰オリーブ 5Y5/2 灰オリーブ	精良	良好
27	須恵器 埦	21	SK11		9.8	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y4/1 灰 7.5Y6/1 灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
28	土師器 皿	21	SK11		5.7	(1.4)	ナデ	ナデ	5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
29	磁器(肥前系) 碗	22	SK12		3.9	(1.8)	施釉	施釉	5GY7/1 明オリーブ灰 5GY7/1 明オリーブ灰	精良	良好
30	弥生土器 甕	26	SK16	22.4		(2.8)	ナデ 刻目・押圧突帯1条	ナデ	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/1 灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
31	弥生土器 高杯	26	SK16	32.8		(1.8)	マメツ	マメツ	10R6/8 赤橙 10R5/8 赤	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
32	弥生土器 底部	29	SD1		5.2	(2.8)	マメツ	ナデ・指頭圧	2.5YR5/6 明赤褐 2.5Y5/1 黄灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
33	弥生土器 底部	29	SD1		6.2	(1.4)	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐 10YR6/2 灰黄褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
34	弥生土器 底部	29	SD1		10.8	(7.0)	マメツ	タテヘラケズリ	10YR7/2 にぶい黄橙 N3/0 暗灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良好
35	弥生土器 高杯	29	SD1		24.0	(2.5)	ナデ 円孔2個1対	ヨコヘラケズリ	7.5YR6/3 にぶい褐 7.5YR6/3 にぶい褐	やや密 2㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
36	弥生土器 甕	29	SD1	23.2		(3.6)	ナデ	タテハケのちヨコハケ	10YR8/2 灰白 10YR8/1 灰白	粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
37	土師器 直口壺	29	SD1		7.2	(13.1)	ヨコヘラケズリのちヨコヘラミガキ	タテヘラミガキ・指頭ナデ・板ナデ	2.5Y7/1 灰白 2.5Y7/1 灰白	やや密 2㎜以下の石英・長石含む	良好
38	弥生土器 壺	32	SD1			(3.9)	マメツ 沈線3条	マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良好
39	弥生土器 壺	32	SD1			(5.1)	ナデ 沈線3条	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良好
40	弥生土器 甕	32	SD1	28.6		(5.0)	マメツ 刻目	マメツ	10YR5/2 灰黄褐 10YR4/2 灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
41	弥生土器 甕	32	SD1	32.6		(3.5)	ナデ 凹線3条・押圧突帯1条	ナデ	10YR4/2 灰黄褐 10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良好
42	弥生土器 甕	32	SD1	23.2		(4.4)	マメツ 凹線2条	マメツ	10YR5/2 灰黄褐 2.5Y6/2 灰黄	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
43	弥生土器 甕	32	SD1	19.4		(3.6)	ナデ	ナデ	10YR5/6 赤 10R6/6 赤褐	粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
44	弥生土器 甕	32	SD1	17.0		(4.0)	マメツ	マメツ	10YR4/2 灰黄褐 10YR4/2 灰黄褐	粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
45	弥生土器 細頸壺	32	SD1	11.8		(5.7)	マメツ 貼付突帯1条	マメツ	10YR5/2 灰黄褐 10YR4/3 にぶい黄褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良

46	弥生土器 細頸壺	32	SD1	11.2		(3.2)	ナデ 貼付突帯１条	ナデ	7.5YR6/3　にぶい褐 7.5YR5/3　にぶい褐	やや粗 ３㎜以下の石英・長石含む	良
47	弥生土器 細頸壺	32	SD1	10.6		(2.7)	マメツ 刻目突帯１条	マメツ	2.5Y6/2　灰黄 2.5Y6/3　にぶい黄	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良好
48	弥生土器 細頸壺	32	SD1	10.4		(5.0)	マメツ 刻目突帯２条	マメツ	2.5Y4/1　黄灰 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 １㎜以下の石英・長石含む	良好
49	弥生土器 細頸壺	32	SD1			(8.0)	タテハケ 刻目突帯２条	板ナデ・指頭圧・絞り 接合痕	7.5YR6/3　にぶい褐 7.5YR6/3　にぶい褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良好
50	弥生土器 ミニチュア土器	32	SD1		4.8	(7.0)	マメツ	粗いヨコハケ・指頭ナデ	10YR8/3　浅黄橙 10YR7/2　にぶい黄橙	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
51	弥生土器 広口壺	32	SD1	24.4		(2.0)	マメツ 刻目	マメツ	10YR4/3　にぶい黄褐 10YR4/3　にぶい黄褐	粗 ５㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
52	弥生土器 広口壺	32	SD1	20.8		(1.8)	ナデ 斜格子文・小円孔１個	ナデ 斜格子文	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
53	弥生土器 広口壺	32	SD1	19.2		(3.4)	マメツ 凹線３条のち刻目	マメツ 斜格子文・刺突文	2.5Y6/1　黄灰 N5/0　灰	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
54	弥生土器 広口壺	32	SD1	16.8		(2.0)	ナデ 刻目	ナデ 貼付突帯２条・波状文	10YR6/2　灰黄褐 5Y6/1　灰	やや密 ２㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
55	弥生土器 広口壺	32	SD1	20.4		(5.7)	ナデ 斜格子文・貼付突帯１条	指頭ナデ 斜格子文・円孔３個	10YR6/2　灰黄褐 10YR8/2　灰白	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良
56	弥生土器 高杯	32	SD1	34.6		(5.8)	タテハケのちタテヘラミガキ	タテハケのちヨコヘラミガキ 斜格子文	10YR4/1　褐灰 10YR4/1　褐灰	やや密 １㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
57	弥生土器 高杯	33	SD1	31.6		(5.5)	マメツ 刻目突帯３条・棒状浮文２個	マメツ 斜格子文・円形浮文３個１対	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良
58	弥生土器 高杯	33	SD1	40.1		(5.5)	マメツ 凹線１条	マメツ	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y4/1　黄灰	やや粗 ５㎜以下の石英・長石含む	良
59	弥生土器 高杯	33	SD1	28.4		(3.0)	マメツ	ナデ	10YR3/1　黒褐 10YR3/1黒褐	やや密 ２㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
60	弥生土器 高杯	33	SD1	24.8		(3.0)	マメツ 凹線２条	マメツ	2.5Y8/2　灰白 2.5Y8/2　灰白	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良
61	弥生土器 高杯	33	SD1			(9.5)	タテハケ・タテヘラミガキ 貼付突帯２条	ナデ・絞り	10YR7/3　にぶい黄橙 2.5YR7/3　にぶい橙	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良
62	弥生土器 高杯	33	SD1		11.5	(8.4)	ナデ	ナデ・絞り	7.5YR5/3　にぶい褐 7.5YR4/2　灰褐	やや粗 ５㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
63	弥生土器 高杯	33	SD1		10.9	(5.1)	タテヘラミガキ	板状工具圧痕	7.5YR4/3　褐 10YR4/1　褐灰	やや粗 １㎜以下の石英・長石含む	良好
64	弥生土器 高杯	33	SD1		14.8	(6.7)	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR4/1　褐灰 10YR5/1　褐灰	やや粗 ２㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
65	弥生土器 把手	33	SD1			(7.6)	板ナデ・指頭圧		10YR6/3　にぶい黄橙	やや密 １㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
66	弥生土器 甕	33	SD1	17.9		(7.4)	ヨコヘラミガキ	ハケ状のヨコヘラケズリ	10YR6/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや密 １㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
67	弥生土器 甕	33	SD1	18.6		(6.7)	タテハケ	指頭圧	7.5YR6/2　灰褐 10YR4/1　褐灰	密 １㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
68	弥生土器 広口壺	33	SD1	15.2		(6.1)	タタキのちタテハケ	ヨコヘラケズリのち指頭圧	10YR6/2　灰黄褐 10YR6/2　灰黄褐	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良好
69	弥生土器 広口壺	33	SD1	13.7		(7.8)	板ナデ	指頭圧	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
70	弥生土器 製塩土器	33	SD1		5.6	(4.0)	指頭圧	ヨコヘラケズリ・指頭圧	10YR6/3　にぶい黄橙 10YR6/3　にぶい黄橙	やや密１㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
71	弥生土器 高杯	33	SD1			(3.5)	ナデ	ナデ	10YR5/3　にぶい黄褐 7.5YR5/4　にぶい褐	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良好
72	弥生土器 高杯	33	SD1	23.4		(3.2)	マメツ	マメツ	5YR4/4　にぶい赤褐 7.5YR5/4　にぶい褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
73	弥生土器 高杯	33	SD1	28.2		(6.8)	ヨコヘラケズリのちヨコヘラミガキ	ヨコハケのちヨコヘラミガキ	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR5/3　にぶい黄褐	やや密 １㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
74	弥生土器 底部	34	SD1		7.4	(4.4)	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
75	弥生土器 底部	34	SD1		6.4	(3.2)	タテヘラミガキ	指頭ナデ	7.5YR6/1　褐灰 7.5YR6/3　にぶい褐	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
76	弥生土器 底部	34	SD1		5.1	(2.4)	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR6/2　灰黄褐 10YR5/1　褐灰	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良好
77	弥生土器 底部	34	SD1		7.2	(3.4)	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y2/1　黒 2.5Y6/1　黄灰	やや粗 ３㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
78	弥生土器 底部	34	SD1		6.0	(3.5)	タテヘラミガキ 焼成前穿孔	指頭ナデ	5YR5/3　にぶい赤褐 2.5YR4/4　にぶい赤褐	密 ３㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
79	弥生土器 底部	34	SD1		5.4	(6.0)	タテヘラミガキ	板ナデ	7.5YR3/3　暗褐 7.5YR4/2　灰褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
80	弥生土器 底部	34	SD1		11.2	(6.6)	タテヘラミガキ	板ナデ	N3/0　暗灰 10YR6/1　褐灰	密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
81	弥生土器 底部	34	SD1		7.8	(2.5)	タテヘラミガキ	板ナデ	2.5Y4/1　黄灰 N3/0　暗灰	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良好
82	弥生土器 底部	34	SD1		10.2	(4.4)	タテヘラミガキ	ナデ	10YR5/2　灰黄褐 7.5YR4/1　褐灰	粗 ５㎜以下の石英・長石含む	良
83	弥生土器 底部	34	SD1		7.2	(5.4)	タテヘラミガキ	粗いタテハケ	10YR4/1　褐灰 10YR3/1　黒褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良好
84	弥生土器 底部	34	SD1		7.6	(3.6)	タテヘラミガキ	タテハケのち指頭圧	10YR4/1　褐灰 2.5Y4/1　黄灰	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
85	弥生土器 底部	34	SD1		11.7	(12.4)	タテヘラミガキ	タテヘラケズリのち板ナデ	10YR5/4　にぶい黄褐 10YR4/3　にぶい黄褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
86	弥生土器 底部	34	SD1		6.6	(2.8)	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR6/2　灰黄褐 10YR6/3　にぶい黄橙	やや粗 ３㎜以下の石英・長石含む	良
87	弥生土器 底部	34	SD1		5.2	(4.8)	板ナデ 焼成前穿孔	指頭ナデ	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良
88	弥生土器 底部	34	SD1		4.4	(4.0)	板ナデ	指頭圧	10YR6/1　褐灰 2.5Y5/1　黄灰	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良好
89	弥生土器 底部	34	SD1		6.2	(5.0)	ミガキ状の板ナデ	板ナデ	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR4/1　褐灰	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
90	弥生土器 底部	34	SD1		7.8	(3.5)	マメツ	指頭ナデ	10YR7/2　にぶい黄橙 10YR6/2　灰黄褐	やや密 1.5㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
91	弥生土器 底部	34	SD1		6.0	(2.1)	マメツ	指頭圧	2.5Y6/4　にぶい橙 N4/0　灰	やや粗 １㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
92	弥生土器 底部	34	SD1		6.0	(3.2)	マメツ	指頭圧	5YR6/6　橙 5Y4/1　灰	粗 ４㎜以下の石英・長石含む	良

93	弥生土器 底部	34	SD1		7.8	(2.1)	マメツ	指頭圧	10YR6/2　灰黄褐 10YR5/1　褐灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
94	弥生土器 底部	34	SD1		10.4	(2.3)	マメツ	指頭圧	10YR7/4　にぶい黄橙 2.5Y8/2　灰白	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
95	弥生土器 底部	34	SD1		7.5	(2.8)	マメツ	指頭圧	7.5YR6/3　にぶい褐 10YR7/3　にぶい黄橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
96	弥生土器 底部	34	SD1		8.0	(4.2)	マメツ	指頭圧	2.5Y6/2　灰黄 2.5Y8/2　灰白	粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
97	弥生土器 底部	34	SD1		11.6	(4.4)	ナデ	指頭ナデ	10YR6/3　にぶい黄橙 10YR5/1　褐灰	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
98	弥生土器 底部	34	SD1		1.5	(1.8)	指頭圧	指頭圧	2.5Y7/3　浅黄 2.5Y7/2　灰黄	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
99	弥生土器 底部	34	SD1		6.0	(4.4)	マメツ	板ナデ	2.5Y5/1　黄灰 2.5Y5/1　黄灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
100	弥生土器 底部	34	SD1		6.4	(2.5)	ナデ	ヨコハケのち指頭圧	N4/0　灰 N4/0　灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
101	弥生土器 底部	34	SD1		9.2	(2.4)	マメツ	指頭圧のちヨコハケ	10YR6/2　灰黄褐 N3/0　暗灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
102	弥生土器 底部	34	SD1		8.0	(3.5)	マメツ	マメツ	10R6/6　赤橙 10R6/4　にぶい赤橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
103	弥生土器 底部	34	SD1		6.2	(2.8)	マメツ	マメツ	2.5YR6/6　橙 10YR8/1　灰白	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
104	弥生土器 底部	34	SD1		8.1	(4.8)	マメツ	マメツ	10YR7/2　にぶい黄橙 2.5YR5/4　にぶい赤褐	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
105	弥生土器 底部	34	SD1		5.6	(4.1)	マメツ	マメツ	10YR4/2　灰黄褐 7.5YR4/2　灰褐	粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
106	弥生土器 底部	34	SD1		11.6	(7.3)	マメツ	マメツ	10YR4/2　灰黄褐 2.5Y5/2　暗灰黄	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良好
107	土師器 坏	35	SD1	11.6	2.9	5.5	ナデのち分割ヘラミガキ	ナデのちヘラミガキ 暗文	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
108	土師器 甕	35	SD1	13.4		(15.2)	タテハケのちヨコハケ スス付着	タテヘラケズリのち指頭圧	10YR6/1　褐灰 10YR5/1　褐灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
109	須恵器 蓋	35	SD1	13.8		(1.6)	回転ナデ 自然釉	回転ナデ	N7/0　灰白 7.5Y6/1　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
110	須恵器 坏	35	SD1		4.8	(1.3)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	N4/0　灰 N5/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
111	須恵器 壺	35	SD1	7.8		(3.2)	ナデ	ナデ	2.5YR5/1　赤灰 N5/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
112	粘土塊	35	SD1			(5.0)			7.5YR8/2　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
113	弥生土器 壺	43	SD1			(5.6)	ナデ 沈線３条	ナデ スス付着	10YR6/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	粗 4㎜以下の石英・長石含む	良好
114	弥生土器 甕	43	SD1	19.2		(2.2)	ナデ 凹線２条・棒状浮文	ナデ	10YR6/3　にぶい黄橙 10YR6/2　灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
115	弥生土器 甕	43	SD1	19.0		(4.5)	ナデ 刻目	ナデ	7.5YR4/2　灰褐 7.5YR3/1　黒褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
116	弥生土器 甕	43	SD1	21.8		(4.5)	ナデ 刻目・押圧突帯１条	ナデ	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
117	弥生土器 甕	43	SD1	38.6		(3.2)	ナデ 押圧突帯１条	ナデ	7.5YR4/2　灰褐 7.5YR5/3　にぶい褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
118	弥生土器 甕	43	SD1	34.0		(6.8)	タテハケ 刻目	板ナデのちタテハケ	10YR4/2　灰黄褐 10YR4/3　にぶい黄褐	やや密 6㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
119	弥生土器 甕	43	SD1	21.6		(6.4)	マメツ	マメツ	7.5YR5/3　にぶい褐 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
120	弥生土器 甕	43	SD1	24.6		(4.3)	板ナデ	指頭ナデ	10YR6/3　にぶい黄橙 10YR5/3　にぶい黄褐	密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
121	弥生土器 甕	43	SD1	17.3		(7.9)	粗いタテハケ スス付着	ナデ	2.5Y8/2　灰白 2.5Y8/2　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
122	弥生土器 甕	43	SD1	15.6		(6.7)	板ナデのちヨコヘラミガキ	ナデ	7.5YR5/3　にぶい褐 7.5YR6/2　灰褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良好
123	弥生土器 甕	43	SD1	16.8		(1.7)	ナデ	ナデ	5YR6/6　橙 5YR6/6　橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
124	弥生土器 甕	43	SD1	15.3		(1.4)	マメツ	マメツ	2.5Y4/2　暗灰黄 2.5Y4/2　暗灰黄	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
125	弥生土器 広口壺	43	SD1	40.6		(3.5)	ナデ 沈線１条・刻目・小円孔２個	ナデ 沈線１条	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
126	弥生土器 広口壺	43	SD1	13.2		(2.8)	マメツ	マメツ	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y5/2　暗灰黄	やや密 3㎜以下の石英・長石含む	良好
127	弥生土器 広口壺	43	SD1	12.8		(3.5)	ナデ 斜格子文	指頭圧	7.5YR4/1　褐灰 7.5YR5/1　褐灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
128	弥生土器 広口壺	43	SD1	12.2		(1.8)	ナデ 凹線２条	ナデ 斜格子文	10YR7/3　にぶい黄橙 10YR7/2　にぶい黄橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
129	弥生土器 広口壺	43	SD1	19.0		(1.2)	ナデ 刻目	マメツ 斜格子文・小円孔２個	2.5Y7/2　灰黄 7.5YR6/4　にぶい橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
130	弥生土器 広口壺	43	SD1	19.4		(1.1)	マメツ 凹線２条のち刻目	マメツ 斜格子文	10YR6/3　にぶい黄橙 10YR6/2　灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
131	弥生土器 広口壺	43	SD1			(1.4)	マメツ 斜格子文	マメツ 斜格子文	10YR5/2　灰黄褐 10YR6/3　にぶい黄橙	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
132	弥生土器 広口壺	43	SD1			(1.9)	マメツ 斜格子文	マメツ 斜格子文	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
133	弥生土器 広口壺	43	SD1	13.4		(1.5)	ナデ 刻目	ナデ	2.5Y4/1　黄灰 2.5Y4/1　黄灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
134	弥生土器 広口壺	43	SD1	25.2		(3.0)	ナデ 棒状浮文	マメツ 斜格子文・小円孔３個	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y5/1　黄灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
135	弥生土器 広口壺	44	SD1	23.6		(1.9)	ナデ 刻目	ナデ 突帯２条・波状文	2.5Y8/4　浅黄 2.5Y7/3　浅黄	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
136	弥生土器 広口壺	44	SD1	24.0		(1.9)	ナデ 刻目・円形浮文３個１対	ナデ 突帯３条・刻目・刺突文・波状文	2.5Y8/2　灰白 2.5Y8/2　灰白	密 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
137	弥生土器 細頸壺	44	SD1	13.2		(2.9)	マメツ 突帯１条	マメツ	7.5YR6/4　にぶい橙 5YR6/4　にぶい橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
138	弥生土器 細頸壺	44	SD1	10.3		(3.4)	ナデ 凹線１条・刻目突帯１条	ナデ	10YR5/2　灰黄褐 7.5YR5/3　にぶい褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
139	弥生土器 細頸壺	44	SD1	9.1		(5.1)	マメツ 刻目・突帯２条	マメツ	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR7/3　にぶい黄橙	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良好

140	弥生土器 細頸壺	44	SD1	10.4		(3.3)	ナデ 刻目突帯２条	ナデ	5Y3/1　オリーブ黒 5Y3/1　オリーブ黒	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
141	弥生土器 細頸壺	44	SD1	11.4		(4.0)	ナデ 刻目・刻目突帯２条	ナデ	10YR7/2　にぶい黄橙 10YR6/2　灰黄褐	やや密 ２㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
142	弥生土器 細頸壺	44	SD1	12.0		(4.2)	マメツ 貼付突帯２条・刻目	マメツ	10YR4/3　にぶい黄褐 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
143	弥生土器 細頸壺	44	SD1	17.0		(3.0)	マメツ 斜格子文・円形浮文・棒状浮文	マメツ	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y5/2　暗灰黄	粗 ３㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
144	弥生土器 細頸壺	44	SD1	20.8		(3.6)	ナデ 斜格子文・刻目突帯２条	ナデ	7.5YR6/3　にぶい褐 7.5YR5/4　にぶい褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
145	弥生土器 直口壺	44	SD1	13.2		(4.8)	マメツ	マメツ	10YR5/1　褐灰 7.5YR5/1　褐灰	やや粗 ３㎜以下の石英・長石含む	良
146	弥生土器 直口壺	44	SD1	17.6		(4.7)	マメツ	マメツ	10YR3/2　黒褐 10YR3/2　黒褐	やや粗 ４㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
147	弥生土器 直口壺	44	SD1	16.4		(4.1)	ナデ 刻目	ナデ	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR5/3　にぶい黄褐	粗 ３㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
148	弥生土器 直口壺	44	SD1	20.0		(4.5)	ナデ 刻目	マメツ	10YR5/2　灰黄褐 10YR6/2　灰黄褐	やや粗 ３㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
149	弥生土器 直口壺	44	SD1	24.2		(3.5)	マメツ 刻目	マメツ	7.5YR4/4　褐 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 ３㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
150	弥生土器 直口壺	44	SD1	28.2		(7.6)	マメツ 刻目	マメツ	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
151	弥生土器 広口壺	44	SD1	16.8		(5.3)	ナデ 凹線３条・刻目	ナデ	5YR5/4　にぶい赤褐 7.5YR4/2　灰褐	やや粗 ３㎜以下の石英・長石含む	良好
152	弥生土器 広口壺	44	SD1			(7.4)	マメツ 突帯２条	指頭圧	10YR3/2　黒褐 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 １㎜以下の石英・長石含む	良
153	弥生土器 高杯	44	SD1	24.6		(4.5)	ナデ 刻目	ナデ 斜格子文	10YR7/2　にぶい黄橙 10YR7/1　灰白	やや密 ２㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
154	弥生土器 高杯	44	SD1	21.6		(4.3)	マメツ 刻目	ヨコヘラミガキ	5Y4/1　灰 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 １㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
155	弥生土器 高杯	44	SD1	28.8		(2.6)	マメツ	マメツ	5YR5/4　にぶい赤褐 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良
156	弥生土器 高杯	45	SD1	33.2		(3.4)	マメツ	マメツ 円形浮文	7.5YR4/3　褐 7.5YR4/3　褐	粗 ５㎜以下の石英・長石含む	良
157	弥生土器 高杯	45	SD1	39.4		(5.9)	ナデ 刻目突帯４条	ヨコヘラミガキ 斜格子文・円形浮文	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR5/3　にぶい黄褐	粗 ２㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
158	弥生土器 高杯	45	SD1	32.4		(3.6)	ナデ 凹線３条	ナデ	10YR6/2　灰黄褐 10YR7/3　にぶい黄橙	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良好
159	弥生土器 高杯	45	SD1	24.9		(4.2)	マメツ 凹線３条	マメツ	2.5YR6/8　橙 2.5YR6/8　橙	やや粗 １㎜以下の石英・長石含む	良
160	弥生土器 高杯	45	SD1	23.6		(5.7)	マメツ 凹線２条	マメツ	2.5YR6/8　橙 2.5YR6/8　橙	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良
161	弥生土器 高杯	45	SD1	19.8		(3.0)	マメツ 凹線１条	ナデ	2.5Y3/1　黒褐 2.5Y3/1　黒褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良
162	弥生土器 高杯	45	SD1	17.6		(3.1)	マメツ	マメツ	2.5YR6/6　橙 5YR7/4　にぶい橙	やや粗 ３㎜以下の石英・長石含む	良
163	弥生土器 高杯	45	SD1		10.3	(6.5)	マメツ	マメツ	2.5Y4/2　暗灰黄 2.5Y4/2　暗灰黄	粗 ４㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
164	弥生土器 高杯	45	SD1		13.6	(5.7)	マメツ	マメツ	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y5/2　暗灰黄	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良
165	弥生土器 高杯	45	SD1		14.8	(6.7)	ナデ	指頭ナデ	2.5Y7/2　灰黄 2.5Y7/2　灰黄	やや密 １㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
166	弥生土器 高杯	45	SD1		11.6	(7.6)	タテハケ	ナデ・絞り	10YR6/4　にぶい黄橙 2.5Y6/3　にぶい黄	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良好
167	弥生土器 高杯	45	SD1		13.0	(6.2)	タテヘラミガキ 方形スカシ６方	ナデ	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y5/2　暗灰黄	やや粗 ３㎜以下の石英・長石含む	良好
168	弥生土器 高杯	45	SD1			(6.4)	マメツ 貼付突帯２条・沈線４条・円孔２個	ナデ	2.5Y8/1　灰白 2.5Y8/1　灰白	密 １㎜以下の石英・長石含む	良好
169	弥生土器 把手	45	SD1			(5.2)	板ナデ		2.5YR5/4　にぶい赤褐	やや密 ３㎜以下の石英・長石含む	良好
170	弥生土器 底部	45	SD1		13.0	(5.4)	タテヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	2.5Y7/1　灰白 2.5Y7/1　灰白	密 １㎜以下の石英・長石含む	良
171	弥生土器 底部	45	SD1		16.6	(3.8)	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y3/2　黒褐 2.5Y3/2　黒褐	やや粗 ５㎜以下の石英・長石含む	良
172	弥生土器 底部	45	SD1		5.4	(3.0)	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y4/1　黄灰 7.5YR5/3　にぶい褐	やや粗 ３㎜以下の石英・長石含む	良好
173	弥生土器 底部	45	SD1		5.4	(2.1)	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/3　にぶい黄橙 10YR6/2　灰黄褐	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良好
174	弥生土器 底部	45	SD1		5.6	(2.5)	タテヘラミガキ	指頭圧	7.5YR5/3　にぶい褐 2.5Y4/1　黄灰	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
175	弥生土器 底部	45	SD1		7.2	(7.9)	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5YR4/4　にぶい赤褐 10YR3/1　黒褐	粗 ５㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
176	弥生土器 底部	45	SD1		7.0	(4.3)	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/3　にぶい黄褐	やや粗 ３㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
177	弥生土器 底部	45	SD1		6.2	(3.1)	タテヘラミガキ	指頭ナデ	7.5YR6/2　灰褐 2.5YR5/4　にぶい赤褐	密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
178	弥生土器 底部	45	SD1		5.8	(3.9)	タテヘラミガキ 焼成後穿孔	指頭ナデ	10YR6/1　褐灰 10YR5/1　褐灰	やや粗 ２㎜以下の石英・長石含む	良好
179	弥生土器 底部	46	SD1		7.8	(6.6)	タテヘラミガキ	板ナデ	2.5Y6/3　にぶい黄 2.5Y5/2　暗灰黄	粗 ３㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
180	弥生土器 底部	46	SD1		7.0	(4.2)	タテヘラミガキ	板ナデ	10YR7/2　にぶい黄橙 10YR6/2　灰黄褐	密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
181	弥生土器 底部	46	SD1		8.4	(5.1)	タテヘラミガキ	板ナデ	5Y7/2　灰白 N4/0　灰	やや密 １㎜以下の石英・長石含む	良
182	弥生土器 底部	46	SD1		8.8	(12.9)	タテヘラミガキのちヨコヘラミガキ	板ナデ	N2/0　黒 10YR3/1　黒褐	やや密 ３㎜以下の石英・長石含む	良
183	弥生土器 底部	46	SD1		8.6	(10.4)	タテヘラミガキ	板ナデ	10YR4/2　灰黄褐 10YR6/3　にぶい黄橙	やや密 １㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
184	弥生土器 底部	46	SD1		10.7	(12.3)	タテヘラミガキ	ナデ	7.5YR5/4　にぶい褐 7.5YR4/2　灰褐	やや粗 ５㎜以下の石英・長石含む	良
185	弥生土器 底部	46	SD1		6.0	(5.2)	タテヘラミガキ	ナデ	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR5/4　にぶい黄褐	やや密 ２㎜以下の石英・長石含む	良
186	弥生土器 底部	46	SD1		6.0	(5.3)	タテヘラミガキ	ナデ	2.5Y7/2　灰黄 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 ２㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好

187	弥生土器 底部	46	SD1		7.8	(3.8)	タテヘラミガキ	ナデ	10YR4/2　灰黄褐 N3/0　暗灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
188	弥生土器 底部	46	SD1		6.8	(2.7)	タテヘラミガキ	マメツ	10YR6/3　にぶい黄橙 10YR4/1　褐灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
189	弥生土器 底部	46	SD1		7.0	(5.2)	板ナデ	指頭圧	10YR7/2　にぶい黄橙 2.5Y7/2　黄灰	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良好
190	弥生土器 底部	46	SD1		4.9	(4.8)	板ナデ 焼成前穿孔	指頭圧 焼成前穿孔未貫通	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR4/2　灰黄褐	粗 2㎜以下の石英・長石・含む	良
191	弥生土器 底部	46	SD1		4.8	(1.9)	板ナデ	指頭圧	7.5YR7/2　明褐灰 2.5Y4/1　黄灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良好
192	弥生土器 底部	46	SD1		4.0	(2.2)	板ナデ	板ナデ	10YR8/2　灰白 10YR8/2　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
193	弥生土器 底部	46	SD1		6.0	(3.3)	板状工具圧痕	板状工具圧痕	10YR7/3　にぶい黄橙 10YR7/2　にぶい黄橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
194	弥生土器 底部	46	SD1		4.8	(2.2)	板ナデ	ナデ	2.5Y7/1　灰白 2.5Y7/1　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
195	弥生土器 底部	46	SD1		5.4	(3.1)	板ナデ	板ナデ	2.5Y8/1　灰白 2.5Y8/2　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
196	弥生土器 底部	46	SD1		5.4	(5.0)	マメツ	指頭圧	10YR5/2　灰黄褐 7.5Y4/1　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
197	弥生土器 底部	46	SD1		7.2	(3.7)	マメツ	指頭圧	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y5/3　黄褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
198	弥生土器 底部	46	SD1		7.0	(3.3)	マメツ	指頭圧	2.5Y4/2　暗灰黄 2.5Y4/2　暗灰黄	やや粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
199	弥生土器 底部	46	SD1		8.4	(5.0)	マメツ	指頭ナデ	10YR5/2　灰黄褐 N3/0　暗灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
200	弥生土器 底部	46	SD1		9.6	(3.8)	マメツ	指頭圧	7.5YR5/2　灰褐 7.5YR5/3　にぶい褐	粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
201	弥生土器 底部	46	SD1		5.0	(3.1)	マメツ	指頭圧	10YR5/1　褐灰 2.5Y4/1　黄灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
202	弥生土器 底部	46	SD1		6.0	(1.8)	マメツ	指頭圧	10YR5/2　灰黄褐 5Y4/1　灰	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
203	弥生土器 底部	46	SD1		7.6	(2.6)	ナデ	指頭圧	N3/0　暗灰 10YR6/4　にぶい黄橙	粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
204	弥生土器 底部	46	SD1		8.0	(2.7)	ナデ	指頭圧	2.5Y6/2　灰黄 2.5Y5/1　黄灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
205	弥生土器 底部	46	SD1		7.0	(2.1)	マメツ	指頭圧	2.5Y5/3　黄褐 2.5Y4/2　暗灰黄	やや粗 2㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
206	弥生土器 底部	46	SD1		4.6	(4.4)	マメツ	板ナデ	10YR6/1　褐灰 N4/0　灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
207	弥生土器 底部	46	SD1		5.0	(3.8)	マメツ	板ナデ	2.5Y6/2　灰黄 2.5Y7/1　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
208	弥生土器 底部	46	SD1		7.2	(2.5)	マメツ	板状工具圧痕	2.5Y6/2　灰黄 2.5Y4/1　黄灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
209	弥生土器 底部	46	SD1		8.0	(4.8)	マメツ	板ナデ	2.5Y6/2　灰黄 2.5Y6/2　灰黄	粗 3㎜以下の石英・長石含む	良好
210	弥生土器 底部	46	SD1		6.6	(2.2)	マメツ	板ナデ	2.5Y5/2　暗灰黄 N3/0　暗灰	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
211	弥生土器 底部	46	SD1		3.1	(2.6)	マメツ	板ナデ	2.5Y5/1　黄灰 2.5Y8/2　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
212	弥生土器 底部	47	SD1		3.2	(3.4)	指頭圧 爪圧痕	ナデ	10YR6/2　灰黄褐 10YR6/3　にぶい黄橙	やや粗 4㎜以下の石英・長石含む	良好
213	弥生土器 底部	47	SD1		3.8	(2.5)	指頭圧	マメツ	10YR7/1　灰白 10R6/6　赤橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
214	弥生土器 底部	47	SD1		4.4	(2.2)	タテハケのちナデ	板ナデ	N4/0　灰 2.5Y7/1　灰白	密 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
215	弥生土器 底部	47	SD1		7.4	(4.0)	マメツ	指頭圧のちハケ	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
216	弥生土器 底部	47	SD1		6.2	(2.7)	マメツ	タテハケ	5Y5/1　灰 5Y2/1　黒	やや粗 4㎜以下の石英・長石含む	良好
217	弥生土器 底部	47	SD1		8.3	(5.4)	マメツ	タテハケ	10YR6/3　にぶい黄橙 10YR5/2　灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
218	弥生土器 底部	47	SD1		6.6	(3.8)	ナデ	ナデ	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y5/2　暗灰黄	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
219	弥生土器 底部	47	SD1		9.2	(1.2)	ナデ	ナデ	10YR6/1　褐灰 10YR5/1　褐灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
220	弥生土器 底部	47	SD1		6.4	(2.4)	マメツ	マメツ	10YR6/1　褐灰 10YR6/2　灰黄褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良好
221	弥生土器 底部	47	SD1		9.2	(5.3)	マメツ	マメツ	2.5Y6/2　灰黄 2.5Y6/2　灰黄	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良好
222	弥生土器 底部	47	SD1		8.8	(5.5)	マメツ	マメツ	2.5YR5/6　明赤褐 10YR5/3　にぶい黄褐	やや粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
223	弥生土器 底部	47	SD1		14.4	(8.2)	マメツ	マメツ	2.5Y6/2　灰黄 2.5Y5/2　暗灰黄	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
224	弥生土器 底部	47	SD1		4.2	(4.2)	マメツ	マメツ	2.5Y8/2　灰白 2.5Y8/2　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
225	弥生土器 底部	47	SD1		7.0	(3.0)	マメツ	マメツ	5Y5/6　明赤褐 2.5Y6/2　灰黄	粗 3㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
226	弥生土器 底部	47	SD1		8.4	(5.1)	マメツ	マメツ	2.5Y4/2　暗灰黄 2.5Y4/2　暗灰黄	やや粗 3㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
227	弥生土器 底部	47	SD1		7.7	(3.4)	マメツ	マメツ	5YR4/3　にぶい赤褐 2.5YR4/4　にぶい赤褐	粗 3㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
228	弥生土器 底部	47	SD1		7.8	(4.4)	マメツ	マメツ	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
229	弥生土器 底部	47	SD1		9.0	(5.4)	マメツ	マメツ	2.5Y5/1　黄灰 2.5Y5/1　黄灰	粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
230	弥生土器 底部	47	SD1		11.0	(2.8)	マメツ	マメツ	10YR4/2　灰黄褐 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
231	弥生土器 底部	47	SD1		9.2	(2.8)	マメツ	マメツ	2.5Y5/2　暗灰黄 2.5Y6/2　灰黄	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
232	弥生土器 底部	47	SD1		11.0	(3.9)	マメツ	マメツ	5YR5/4　にぶい赤褐 10Y3/1　オリーブ黒	粗 3㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
233	弥生土器 底部	47	SD1		7.2	(2.0)	マメツ	マメツ	2.5Y7/1　灰白 N4/0　灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良好

234	弥生土器 底部	47	SD1		6.0	(2.4)	マメツ	マメツ	2.5Y6/1　黄灰 2.5Y6/1　黄灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
235	弥生土器 底部	47	SD1		9.8	(5.7)	マメツ	マメツ	10YR4/3　にぶい黄褐 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 5㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
236	弥生土器 底部	47	SD1		5.8	(2.2)	マメツ	マメツ	5YR5/4　にぶい赤褐 2.5YR5/4　にぶい赤褐	やや粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
237	弥生土器 底部	47	SD1		5.0	(2.4)	マメツ	マメツ	5Y8/1　灰白 5Y8/1　灰白	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
238	弥生土器 底部	47	SD1		4.9	(3.9)	マメツ 焼成前穿孔・スス付着	ナデ	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR4/2　灰黄褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
239	弥生土器 底部	47	SD1		5.6	(2.2)	マメツ 焼成後穿孔	マメツ	10YR6/1　褐灰 10YR7/2　にぶい黄橙	粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
240	弥生土器 底部	47	SD1		3.8	(2.0)	マメツ	タテヘラケズリ	10YR6/2　灰黄褐 5YR5/4　にぶい赤褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
241	弥生土器 底部	47	SD1		5.3	(1.4)	ナデ・ヘラミガキ	ナデ	10YR2/1　黒 10YR4/2　灰黄褐	密 2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
242	弥生土器 甕	47	SD1		14.0	(2.5)	ナデ	ナデ	5YR5/3　にぶい赤褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
243	弥生土器 高杯	47	SD1		11.0	(1.6)	ナデ 刻目・鋸歯文	ナデ	2.5Y6/1　黄灰 2.5Y4/1　黄灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
244	弥生土器 甕	48	SD1	15.6		(7.4)	タテハケ スス付着	指頭圧	7.5YR6/4　にぶい橙 10YR5/2　灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
245	弥生土器 甕	48	SD1	14.6		(7.8)	タテハケ スス付着	タテヘラケズリのち指頭圧	10YR6/3　にぶい黄橙 7.5YR4/2　灰褐	密 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
246	弥生土器 甕	48	SD1	16.0		(5.3)	タテハケ	タテヘラケズリのち指頭圧	7.5YR6/3　にぶい褐 10YR5/2　灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
247	弥生土器 甕	48	SD1	14.1		(5.3)	タテハケ	ヨコヘラケズリ	5YR5/3　にぶい赤褐 5YR5/4　にぶい赤褐	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
248	弥生土器 甕	48	SD1	18.2		(3.2)	タテハケ	ナデ	10YR4/2　灰黄褐 10YR3/2　黒褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
249	弥生土器 甕	48	SD1	16.8		(4.5)	粗いタテハケ	指頭圧	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR5/3　にぶい黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
250	弥生土器 甕	48	SD1	13.8		(4.3)	タテハケ	ヨコハケ	10YR6/2　灰黄褐 10YR6/2　灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
251	弥生土器 甕	48	SD1			(9.1)	粗いタテハケ スス付着	タテヘラケズリのち指頭圧	10YR7/3　にぶい黄橙 7.5YR5/3　にぶい褐	やや密 3㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
252	弥生土器 甕	48	SD1	19.0		(6.0)	タテハケのちタテヘラミガキ	指頭圧	10YR5/2　灰黄褐 10YR5/2　灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
253	弥生土器 ミニチュア土器	48	SD1	7.2		(5.2)	板状工具圧痕	指頭圧のちヨコヘラケズリ	7.5YR6/4　にぶい橙 10YR5/3　にぶい黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
254	弥生土器 細頸壺	48	SD1			(7.1)	マメツ	指頭ナデ	7.5YR5/3　にぶい褐 10YR5/1　褐灰	やや密 2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
255	弥生土器 広口壺	48	SD1	16.0		(1.6)	ナデ・指頭圧	ナデ	10YR6/2　灰黄褐 10YR6/3　にぶい黄橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
256	弥生土器 広口壺	48	SD1	18.4		(5.2)	タテハケ	ヨコヘラケズリ	5Y5/1　灰 5Y6/1　灰	やや密 2㎜以下の石英・長石含む	良
257	弥生土器 複合口縁壺	48	SD1	19.4		(4.3)	ナデ 鋸歯文・沈線3条	ナデ	7.5YR5/2　灰褐 10YR5/2　灰黄褐	やや粗 5㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
258	弥生土器 高杯	48	SD1	22.6		(4.1)	マメツ	マメツ	7.5YR5/4　にぶい褐 7.5YR6/4　にぶい橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
259	弥生土器 高杯	48	SD1	27.8		(4.0)	マメツ	マメツ	5YR6/6　橙 5YR5/6　明赤褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
260	弥生土器 高杯	48	SD1			(3.8)	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	ヨコハケのち分割ヘラミガキ	7.5YR5/4　にぶい褐 7.5YR6/4　にぶい橙	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
261	弥生土器 高杯	48	SD1			(3.5)	タテハケ	ヨコハケ	5YR7/6　橙 5YR7/4　にぶい橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
262	弥生土器 高杯	48	SD1			(5.6)	タテヘラミガキ 円形スカシ4方	板ナデ	7.5YR5/3　にぶい褐 7.5YR5/3　にぶい褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
263	土師器 甕	48	SD1	21.1		(2.9)	ナデ	ナデ	7.5YR5/4　にぶい褐 7.5YR5/4　にぶい褐	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
264	粘土塊	48	SD1			7.2			7.5YR8/3　浅黄橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
265	粘土塊	48	SD1			4.9			2.5YR6/6　橙	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
266	粘土塊	48	SD1			5.2			2.5YR7/1　明赤灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
267	弥生土器 甕	52	SD2	11.4		(4.5)	タテハケ	指頭圧	7.5YR6/3　にぶい褐 7.5YR6/3　にぶい褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
268	須恵器 蓋	52	SD2			(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1　灰 5Y6/1　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
269	須恵器 蓋	52	SD2			(1.6)	回転ナデ	ナデ	N7/0　灰白 N7/0　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
270	須恵器 蓋	52	SD2	16.8		(1.9)	ナデ	ナデ	N6/0　灰 N6/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
271	須恵器 蓋	52	SD2	12.0		(2.1)	回転ナデ	回転ナデ	N5/0　灰 N5/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
272	須恵器 坏	52	SD2	12.6		(3.9)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/0　灰 N6/0　灰	密 2㎜以下の石英・長石含む	良
273	須恵器 甕	52	SD2	20.2		(8.6)	平行タタキのちカキ目 自然釉	同心円あて具痕	10Y4/2　オリーブ灰 10YR6/1　褐灰	やや密 3㎜以下の石英・長石含む	良
274	須恵器 坏	52	SD2		7.8	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1　灰 5Y6/1　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
275	須恵器 坏	52	SD2		6.6	(1.1)	回転ナデ	回転ナデ	5Y5/1　灰 5Y5/1　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
276	須恵器 埦	52	SD2		10.2	(1.5)	ナデ	ナデ	5Y7/1　灰白 5Y7/1　灰白	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
277	須恵器 埦	52	SD2	12.0		(3.4)	回転ナデ	回転ナデ	N4/0　灰 N5/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
278	土師器 埦	52	SD2	13.0		(3.3)	マメツ	ヘラミガキ	2.5Y8/2　灰白 2.5Y8/2　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良好
279	土師器 埦	52	SD2	13.6	7.0	4.6	ナデ	ヨコヘラミガキ	2.5Y7/2　灰黄 2.5Y7/2　灰黄	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
280	須恵器 蓋	55	SD2	15.0		(2.3)	回転ナデ	回転ナデ	N3/0　暗灰 2.5Y5/1　黄灰	やや密 3㎜以下の石英・長石含む	良

281	須恵器 蓋	55	SD2	13.3		(1.5)	ナデ	ナデ	N3/0　暗灰 N4/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
282	須恵器 坏	55	SD2		10.0	(0.8)	回転ナデ	回転ナデ	2.5YR5/6　明赤褐 5YR5/4　にぶい赤褐	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
283	須恵器 高杯	55	SD2			(4.3)	回転ナデ 沈線２条	回転ナデ	N6/0　灰 N6/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
284	須恵器 壺	55	SD2	7.0		(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	N4/0　灰 N5/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
285	瓦器 埦	55	SD2	12.0		(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	N5/0　灰 N5/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
286	土師質土器 釜	55	SD2	27.8		(6.5)	タテハケのち指頭圧	タテヘラケズリのち板ナデ	10YR7/2　にぶい黄橙 10YR6/2　灰黄褐	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
287	土師質土器 鍋	55	SD2	44.2		(6.5)	粗いタテハケ スス付着	粗いヨコハケ・指頭圧	5YR4/2　灰褐 5YR6/4　にぶい橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
288	須恵器 甕	60	SD3	24.2		(3.0)	回転ナデ	回転ナデ	5B5/1　青灰 5B5/1　青灰	密 2㎜以下の石英・長石含む	良好
289	須恵器 坏	60	SD3		9.7	(0.9)	回転ナデ	回転ナデ	N4/0　灰 N5/0　灰	密 2㎜以下の石英・長石含む	良好
290	須恵器 鉢	60	SD3		8.7	(7.9)	カキ目	指頭ナデ	N7/0　灰白 10YR6/1　褐灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良好
291	土師器 埦	60	SD3		7.3	(2.1)	ナデ	ヨコヘラミガキ	10YR8/2　灰白 10YR7/1　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
292	土師器 埦	60	SD3		8.0	(2.0)	ナデ	ナデ	5YR6/4　にぶい橙 10YR6/2　灰黄褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
293	弥生土器 高杯	61	SD4		12.4	(3.3)	マメツ	マメツ	5YR6/4　にぶい橙 10YR7/2　にぶい黄橙	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
294	土師器 皿	61	SD4	8.4	6.9	1.3	ナデ	ナデ	10YR8/2　灰白 10YR8/2　灰白	密 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
295	土師器 埦	61	SD4	13.0		(2.1)	マメツ	マメツ	2.5Y8/1　灰白 2.5Y8/1　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
296	須恵器 蓋	61	SD4			(0.8)	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1　灰白 N6/0　灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良好
297	須恵器 坏	61	SD4		9.4	(1.0)	回転ナデ・回転ヘラケズリ 爪圧痕	回転ナデ	N7/0　灰白 N7/0　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
298	須恵器 埦	61	SD4	17.3		(3.5)	ナデ	ナデ	10Y7/1　灰白 2.5GY7/1 明オリーブ灰	やや密 3㎜以下の石英・長石含む	良
299	須恵器 底部	61	SD4		9.6	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	5B4/1　暗青灰 N4/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
300	須恵器 底部	61	SD4		5.6	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ	N3/0　暗灰 7.5Y6/1　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
301	弥生土器 高杯	62	SD5	23.8		(2.9)	ナデ	ナデ	10YR5/4　にぶい黄褐 10YR6/3　にぶい黄橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
302	須恵器 蓋	62	SD5	17.0		(0.7)	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1　灰白 5Y7/1　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
303	須恵器 蓋	62	SD5			(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1　灰白 2.5Y7/2　灰黄	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
304	須恵器 蓋	62	SD5	14.6		(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1　灰白 2.5Y7/2　灰黄	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
305	須恵器 蓋	62	SD5	13.0		(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	10GY5/1　緑灰 10GY5/1　緑灰	密 1㎜以下の石英・長石・含む	良好
306	須恵器 坏	62	SD5		8.3	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1　灰白 5Y6/1　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
307	須恵器 坏	62	SD5		7.6	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1　灰白 2.5Y7/1　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
308	須恵器 坏	62	SD5		10.8	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	N6/0　灰 N7/0　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
309	須恵器 坏	62	SD5		11.5	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ	5B6/1　青灰 5B6/1　青灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
310	須恵器 坏	62	SD5		5.4	(0.6)	回転ナデ	回転ナデ	N4/0　灰 N4/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
311	須恵器 坏	62	SD5		8.5	(1.0)	回転ナデ	回転ナデ	N5/0　灰 N5/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
312	須恵器 坏	62	SD5		10.8	(0.9)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	10Y7/1　灰白 10Y6/1　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
313	須恵器 高杯	62	SD5			(5.6)	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1　灰 N7/0　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
314	須恵器 高杯	62	SD5		10.0	(1.2)	ナデ	ナデ	5Y7/1　灰白 5Y7/1　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
315	須恵器 埦	62	SD5	14.2		(3.0)	回転ナデ	回転ナデ	N5/0　灰 5B5/1　青灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
316	須恵器 埦	62	SD5		5.0	(1.1)	ナデ	ナデ	5Y8/1　灰白 7.5Y7/1　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
317	須恵器 埦	62	SD5		6.2	(1.1)	マメツ	マメツ	2.5Y7/1　灰白 5Y7/1　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
318	土師器 坏	62	SD5		7.8	(0.8)	ナデ	ナデ	2.5Y6/4　にぶい黄 2.5Y7/4　浅黄	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
319	土師器 坏	62	SD5		5.8	(1.1)	ナデ	ナデ	10YR8/2　灰白 10YR8/2　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
320	土師器 坏	62	SD5		6.2	(1.2)	マメツ	マメツ	10YR8/3　浅黄橙 10YR8/2　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
321	土師器 埦	62	SD5		5.0	(2.1)	マメツ	マメツ	10YR7/3　にぶい黄橙 2.5Y7/2　灰黄	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
322	土師器 埦	62	SD5	15.6		(2.7)	ナデ	ナデ	2.5Y8/6　黄 10YR6/6　明黄褐	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
323	土師器 埦	62	SD5	14.2		(2.7)	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/4　にぶい黄橙 2.5Y7/2　灰黄	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
324	土師器 埦	62	SD5	13.2		(2.4)	ナデ	ナデ	2.5Y7/1　灰白 5Y3/1　オリーブ黒	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
325	土師器 埦	62	SD5	15.4		(2.6)	ナデ	ナデ	2.5YR7/6　橙 5YR8/4　淡橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
326	黒色土器 埦	62	SD5	15.0		(2.1)	マメツ	ヨコヘラミガキ	5G2/1　緑黒 5G1.7/1　緑黒	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
327	黒色土器 埦	62	SD5	14.8		(2.2)	ナデ	ヨコヘラミガキ	5Y5/3　灰オリーブ 5Y3/1　オリーブ黒	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良

328	瓦器 埦	62	SD5		5.3	(3.0)	ナデのち指頭圧	ナデのちヨコヘラミガキ	N5/0　灰 N4/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
329	瓦器 埦	62	SD5		5.3	(1.5)	ナデ・指頭圧	ナデ・ヘラミガキ	N4/0　灰 N4/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
330	弥生土器 底部	64	SD7		10.3	(10.4)	マメツ	マメツ	7.5YR6/4　にぶい橙 7.5YR6/3　にぶい褐	粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
331	須恵器 蓋	64	SD7	10.4		(2.9)	回転ナデ	回転ナデ	N7/0　灰白 N7/0　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
332	須恵器 蓋	64	SD7		6.9	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ	N7/0　灰白 N6/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
333	須恵器 坏	64	SD7		7.6	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1　灰白 N8/0　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
334	須恵器 台付壺	65	SD8		8.0	(5.1)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/0　灰 N7/0　灰白	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
335	弥生土器 甕	65	SD8	27.6		(4.4)	ナデ	板ナデ	7.5YR4/3　褐 7.5YR5/3　にぶい褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
336	弥生土器 甕	65	SD8	25.0		(6.2)	ナデ	ナデ	10YR6/4　にぶい黄橙 10YR6/4　にぶい黄橙	やや粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
337	弥生土器 甕	65	SD8	25.0		(6.6)	ナデ	ナデ	10YR6/4　にぶい黄橙 10YR6/4　にぶい黄橙	粗 1㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
338	弥生土器 甕	65	SD8	30.2		(8.4)	ナデ	ナデ	7.5YR5/3　にぶい褐 7.5YR5/3　にぶい褐	粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
339	弥生土器 甕	65	SD8	32.2		(3.5)	ナデ	ナデ	7.5YR4/1　褐灰 7.5YR6/6　橙	粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
340	弥生土器 底部	67	SD9		8.6	(2.2)	マメツ	指頭圧	7.5YR7/4　にぶい橙 10YR4/1　褐灰	粗 3㎜以下の石英・長石含む	不良
341	弥生土器 底部	67	SD9		8.4	(3.1)	板ナデ	マメツ	5YR5/4　にぶい赤褐 7.5YR5/4　にぶい褐	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良好
342	弥生土器 底部	67	SD9		7.8	(4.0)	タテヘラミガキ	指頭圧	7.5YR5/4　にぶい褐 10YR5/3　にぶい黄褐	粗 2㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良
343	弥生土器 高杯	67	SD9			(2.5)	ナデ 凹線3条・円孔4個	ナデ	7.5YR4/1　褐灰 7.5YR5/2　灰褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
344	須恵器 蓋	67	SD9			(0.9)	回転ナデ	回転ナデ	N6/0　灰 N8/0　灰白	やや密 2㎜以下の石英・長石含む	良
345	須恵器 坏	67	SD9	13.6		(3.4)	回転ナデ	回転ナデ	N6/0　灰 N6/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
346	須恵器 坏	67	SD9		11.2	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ	N5/0　灰 N7/0　灰白	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
347	須恵器 埦	67	SD9	15.4		(2.6)	回転ナデ	回転ナデ	N5/0　灰 N6/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
348	須恵器 壺	67	SD9	10.0		(2.1)	回転ナデ	回転ナデ	N4/0　灰 N5/0　灰	やや密 2㎜以下の石英・長石含む	良好
349	須恵器 壺	67	SD9	9.0		(3.3)	ナデ	ナデ	5Y2/1　黒 5Y2/1　黒	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
350	土師器 皿	67	SD9	7.4	5.3	1.0	ナデ	ナデ	10YR8/3　浅黄橙 10YR8/3　浅黄橙	やや密 2㎜以下の石英・長石含む	良
351	土師器 皿	67	SD9	8.9	6.0	1.0	ナデ	ナデ	7.5YR8/1　灰白 7.5YR8/1　灰白	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
352	土師器 皿	67	SD9	8.2	6.4	1.1	ナデ	ナデ	7.5YR8/2　灰白 7.5YR8/3　浅黄橙	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
353	土師器 皿	67	SD9	8.4	6.4	1.0	ナデ	ナデ	10YR8/1　灰白 7.5YR8/1　灰白	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
354	土師器 皿	67	SD9	8.8	6.8	1.0	ナデ	ナデ	7.5YR8/2　灰白 10YR8/2　灰白	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
355	土師器 皿	67	SD9	8.8	6.4	1.1	ナデ	ナデ	10YR8/3　浅黄橙 10YR8/2　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
356	土師器 皿	67	SD9	9.2	7.2	1.0	ナデ	ナデ	10YR8/1　灰白 7.5YR8/2　灰白	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
357	土師器 皿	67	SD9	9.6	7.2	1.1	マメツ	マメツ	10YR8/3　浅黄橙 2.5Y8/2　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
358	土師器 皿	67	SD9		5.8	(0.9)	マメツ	ナデ	2.5Y8/2　灰白 2.5Y8/2　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
359	土師器 皿	67	SD9		6.6	(0.9)	ナデ	ナデ	2.5Y8/1　灰白 10YR8/2　灰白	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
360	土師器 坏	67	SD9		8.4	(0.5)	ナデ	ナデ	2.5YR5/6　明赤褐 10YR8/4　浅黄橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
361	須恵器 坏	67	SD9		9.9	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	10Y8/1　灰白 7.5Y7/1　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
362	須恵器 坏	67	SD9		9.0	(1.1)	回転ナデ	回転ナデ	10Y6/1　灰 10Y6/1　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
363	須恵器 坏	67	SD9		8.2	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/1　灰白 7.5Y7/1　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
364	須恵器 坏	67	SD9		6.2	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1　灰白 5Y6/1　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
365	須恵器 坏	67	SD9		7.6	(1.9)	ナデ	ナデ	2.5Y7/1　灰白 2.5Y7/1　灰白	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
366	須恵器 坏	67	SD9	12.6		(3.1)	回転ナデ	回転ナデ	N5/0　灰 7.5GY7/1　明緑灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
367	土師質土器 羽釜	67	SD9	22.6		(4.8)	指頭圧 接合痕	板ナデ	10YR7/2　にぶい黄橙 10YR7/3　にぶい黄橙	やや粗 4㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
368	瓦器 埦	70	SD15	14.2		(2.2)	指頭圧	ナデ	N5/0　灰 N5/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
369	瓦器 埦	70	SD15	13.0		(2.9)	指頭圧	ナデ	5Y3/1　オリーブ黒 5Y3/1　オリーブ黒	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
370	瓦器 埦	70	SD15	13.0		(1.4)	ナデ	ナデ	N4/0　灰 N4/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
371	瓦器 埦	70	SD15	14.4		(2.8)	マメツ	マメツ	N4/0　灰 N4/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
372	瓦器 埦	70	SD15		4.6	(1.1)	ナデ	ナデ・ヘラミガキ	N5/0　灰 N5/0　灰	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
373	土師器 坏	70	SD15		7.5	(1.6)	マメツ	マメツ	10YR8/3　浅黄橙 10YR8/4　浅黄橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
374	須恵器 坏	72	SD17		9.2	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	N5/0　灰 N5/0　灰	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好

木器観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			特徴
				長	幅	厚	
W1	建築部材	30	SD1	51.6	12.7	8.2	断面楕円形。
W2	板材	30	SD1	36.0	5.9	3.4	両面を粗く加工。
W3	板材	30	SD1	16.1	6.9	2.4	両面を粗く加工。
W4	柄	30	SD1	140.9	2.8	3.0	表面を平滑に仕上げる。
W5	加工木	36	SD1	4.7	1.2	1.4	小片。
W6	加工木	36	SD1	5.5	2.9	2.0	小片。
W7	加工木	36	SD1	5.6	2.0	1.1	小片。
W8	加工木	36	SD1	6.9	1.9	1.3	小片。
W9	加工木	36	SD1	7.7	1.5	1.0	小片。
W10	加工木	36	SD1	8.0	2.7	1.5	小片。
W11	加工木	36	SD1	7.2	2.1	1.5	小片。
W12	加工木	36	SD1	9.0	3.2	1.9	小片。
W13	加工木	36	SD1	10.2	3.5	2.4	小片。炭化。
W14	加工木	36	SD1	9.0	3.1	2.0	小片。
W15	加工木	36	SD1	7.8	3.2	2.7	小片。
W16	加工木	36	SD1	12.2	3.3	2.7	小片。炭化。
W17	加工木	36	SD1	3.8	4.5	2.4	小片。
W18	加工木	36	SD1	12.6	4.4	2.5	小片。
W19	加工木	36	SD1	13.2	4.9	4.1	小片。
W20	加工木	36	SD1	14.3	2.0	1.4	小片。全面炭化。
W21	加工木	36	SD1	8.4	4.6	2.8	小片。炭化。
W22	加工木	37	SD1	18.4	3.2	3.2	小片。炭化。
W23	加工木	37	SD1	20.3	3.0	2.1	小片。
W24	加工木	37	SD1	16.1	2.8	1.6	小片。
W25	加工木	37	SD1	20.2	5.3	4.1	小片。
W26	加工木	37	SD1	24.5	3.7	3.7	小片。
W27	加工木	37	SD1	25.6	7.2	4.3	小片。
W28	加工木	37	SD1	23.5	4.8	3.8	小片。
W29	加工木	37	SD1	23.2	3.5	2.6	小片。
W30	加工木	37	SD1	14.8	4.9	5.0	小片。
W31	板材	38	SD1	37.6	7.8	4.0	小片。
W32	ミカン割材	38	SD1	34.1	6.9	4.6	小片。
W33	ミカン割材	38	SD1	29.9	4.8	3.4	小片。
W34	加工木	38	SD1	38.7	7.5	4.2	断面長方形。
W35	加工木	38	SD1	45.1	12.9	7.4	先端に切断面を残す。
W36	加工木	39	SD1	33.2	11.3	5.7	先端に切断面を残す。
W37	加工木	39	SD1	12.3	10.0	5.9	先端に切断面を残す。
W38	加工木	39	SD1	20.9	7.6	6.1	先端に切断面を残す。炭化。
W39	板材	39	SD1	57.7	12.6	4.6	両面を粗く加工。
W40	柱材	40	SD1	18.3	9.2	6.3	先端に切断面を残す。上部炭化。
W41	柄	40	SD1	8.0	2.6	2.5	小片。
W42	柄	40	SD1	9.3	3.1	3.3	小片。
W43	柄	40	SD1	8.0	2.7	2.9	小片。
W44	柄	40	SD1	15.0	2.1	1.8	小片。先端を尖らす。
W45	柄	40	SD1	10.9	3.1	3.0	小片。先端を尖らす。
W46	柄	40	SD1	33.3	3.5	3.0	先端に切断面を残す。樹皮残る。
W47	杭	40	SD1	51.0	7.9	7.7	先端部を粗く削る。樹皮残る。
W48	杭	40	SD1	35.0	3.4	3.5	両端部を削る。樹皮残る。
W49	広鍬未製品	40	SD1	26.8	22.0	3.5	両面を粗く削る。
W50	木樋	41	SD1	320.0	25.0	17.0	割り抜き式。内面を平滑に仕上げる。外面は炭化し粗加工のみ。
W51	柄	49	SD1	7.1	2.3	2.1	小片。
W52	柄	49	SD1	7.2	2.3	2.3	小片。
W53	柄	49	SD1	10.6	2.5	2.3	小片。
W54	柄	49	SD1	12.6	2.4	2.5	小片。
W55	加工木	49	SD1	6.5	5.0	1.0	小片。
W56	加工木	49	SD1	4.0	4.3	1.2	小片。
W57	加工木	49	SD1	3.8	2.6	0.7	小片。
W58	加工木	49	SD1	10.0	3.0	1.8	小片。
W59	加工木	49	SD1	14.9	2.5	1.0	小片。
W60	加工木	49	SD1	9.6	2.3	1.0	小片。
W61	加工木	49	SD1	11.0	4.7	2.7	小片。
W62	加工木	49	SD1	10.1	4.1	2.2	小片。
W63	広鍬未製品	49	SD1	20.4	9.3	1.4	両面を丁寧に加工。薄いつくり。
W64	広鍬未製品	49	SD1	21.7	16.0	3.0	両面を粗く削る。3分割されており切断面が残る。
W65	柄	53	SD2	5.7	2.5	2.1	小片。
W66	柄	53	SD2	8.6	2.4	2.0	小片。
W67	柄	53	SD2	6.6	2.3	2.1	小片。
W68	柄	53	SD2	4.0	2.0	2.0	小片。
W69	柄	53	SD2	5.4	2.3	2.1	小片。
W70	柄	53	SD2	4.4	2.4	2.2	小片。
W71	柄	53	SD2	20.2	2.4	2.1	小片。
W72	加工木	53	SD2	9.1	4.6	4.8	小片。円柱状。
W73	加工木	53	SD2	9.4	3.6	3.2	小片。円柱状。
W74	加工木	53	SD2	7.0	4.1	2.3	小片。三角柱状。
W75	加工木	53	SD2	8.0	2.3	0.7	小片。
W76	加工木	53	SD2	7.0	2.2	1.1	小片。
W77	加工木	53	SD2	4.3	2.1	1.0	小片。
W78	加工木	56	SD2	5.9	2.5	1.2	小片。
W79	加工木	56	SD2	5.7	1.4	0.6	小片。
W80	加工木	56	SD2	5.3	3.6	1.2	小片。
W81	加工木	56	SD2	8.6	5.2	2.7	小片。

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			特　　徴
				長	幅	厚	
W82	加工木	56	SD2	15.7	1.1	0.4	小片。
W83	加工木	56	SD2	13.6	1.4	1.0	小片。
W84	加工木	56	SD2	20.8	2.0	0.5	小片。先端部を箆状に尖らせる。
W85	加工木	56	SD2	9.7	1.5	0.5	小片。線刻あり。
W86	板材	56	SD2	18.7	9.8	2.8	全面炭化。
W87	板材	56	SD2	30.2	13.2	3.0	両面を粗く削る。
W88	杓文字状製品	56	SD2	23.6	7.3	0.3	薄い板材。
W89	盆状製品	56	SD2	11.0	11.3	0.5	全面に朱漆の痕跡あり。中心部に大きな円孔と小円孔4個が見られる。

石器観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			重量(g)	石材	特徴
				長	幅	厚			
S1	削器	14	SK4	2.8	1.8	0.6	2.8	サヌカイト	刃部のみ残る。両面より調整。
S2	石鏃	15	SK5	2.3	1.8	0.3	0.9	サヌカイト	凹基式。先端部を欠く。両面より細かく調整。
S3	石鏃	17	SK7	2.7	1.2	0.3	0.9	サヌカイト	平基式。両面より調整。
S4	削器	18	SK8	2.5	2.4	0.7	3.3	サヌカイト	剥片を利用し刃部をつくる。
S5	石鏃	19	SK9	2.6	1.9	0.6	2.8	サヌカイト	基部を欠く。両面より細かく調整。
S6	柱状片刃石斧	31	SD1	7.6	3.8	2.9	177.5	緑泥片岩	基部のみ残る。装着時の擦痕残る。
S7	削器	42	SD1	11.0	4.7	1.3	84.4	サヌカイト	背部に自然面を残す。剥片の一部を細かく調整し刃部をつくる。
S8	削器	42	SD1	8.0	5.1	1.9	146.3	サヌカイト	側縁部に自然面を残す。剥片を利用。
S9	石庖丁	42	SD1	3.2	2.8	1.0	10.0	サヌカイト	刃部のみ残る。
S10	石庖丁	42	SD1	4.0	4.7	0.5	10.1	サヌカイト	抉りを持つ。刃部は片面より調整。
S11	石庖丁	42	SD1	6.5	4.0	1.3	41.2	サヌカイト	完形品。小型で抉りは浅い。刃部は両面より調整。
S12	石鏃	42	SD1	3.0	1.7	0.6	2.6	サヌカイト	平基式。両面より細かく調整。
S13	石鏃	42	SD1	2.0	1.5	0.4	1.3	サヌカイト	凹基式。先端部を欠く。両面より細かく調整。
S14	石鏃	42	SD1	1.5	2.2	0.7	2.6	サヌカイト	平基式。基部のみ残る。
S15	太型蛤刃石斧	42	SD1	9.6	5.2	3.6	266.4	緑泥片岩	刃部のみ残る。
S16	砥石	42	SD1	10.6	6.6	6.5	605.8	砂岩	全面に擦痕あり。
S17	石庖丁	50	SD1	4.3	4.1	1.0	18.8	サヌカイト	抉りを持つ。
S18	石庖丁	50	SD1	2.6	3.0	1.3	11.7	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。
S19	石庖丁	50	SD1	5.6	4.1	0.9	23.7	サヌカイト	両面より粗く調整。
S20	石庖丁	50	SD1	5.4	4.7	1.0	39.0	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。両面より調整。
S21	削器	50	SD1	4.3	4.6	0.9	19.4	サヌカイト	背部に自然面を残す。剥片を利用して刃部をつくる。
S22	削器	50	SD1	5.0	4.7	1.9	83.1	サヌカイト	腹部に自然面を残す。剥片を利用して刃部をつくる。
S23	円盤状製品	50	SD1	5.8	5.4	1.1	42.3	粘板岩	周囲を打ち欠いて円盤状に仕上げる。
S24	石庖丁	54	SD2	10.4	5.2	0.6	61.0	サヌカイト	抉りを持つ。刃部はあまり調整されていない。
S25	削器	54	SD2	6.6	6.7	1.4	54.2	サヌカイト	側縁部に自然面を残す。剥片を利用して刃部をつくる。
S26	石庖丁	57	SD2	11.5	4.1	0.9	65.1	サヌカイト	抉りを持つ。背部・刃部とも両面より細かく調整。
S27	石庖丁	60	SD3	11.6	5.1	1.1	82.6	サヌカイト	抉りを持つ。片面より調整。
S28	削器	60	SD3	4.5	3.9	0.8	14.3	サヌカイト	剥片を利用し刃部をつくる。
S29	削器	60	SD3	3.3	2.6	0.4	4.3	サヌカイト	剥片を利用し刃部をつくる。
S30	石鏃	61	SD4	1.4	1.3	0.4	1.0	サヌカイト	平基式。先端部を欠く。両面より細かく調整。
S31	削器	61	SD4	2.6	1.6	0.4	2.5	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。
S32	石槍	64	SD7	6.4	2.9	1.2	35.0	サヌカイト	両面より細かく調整。
S33	削器	64	SD7	2.3	2.9	0.5	3.5	サヌカイト	剥片を利用し刃部をつくる。
S34	削器	64	SD7	3.2	3.1	0.6	7.6	サヌカイト	剥片を利用し刃部をつくる。
S35	削器	64	SD7	2.0	3.0	1.0	7.1	サヌカイト	剥片を利用し刃部をつくる。
S36	扁平片刃石斧	65	SD8	5.0	3.5	0.7	28.9	緑泥片岩	刃部を欠く。
S37	石錐	65	SD8	4.7	1.9	0.7	5.3	サヌカイト	剥片を利用し錐部をつくる。片面より調整。
S38	石鏃	65	SD8	3.9	1.4	0.5	2.1	サヌカイト	凸基式。両面より調整。
S39	石庖丁	67	SD9	3.8	3.6	0.9	14.3	サヌカイト	浅い抉りを持つ。刃部は両面より調整。
S40	石庖丁	67	SD9	2.4	4.7	1.6	23.3	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。
S41	石庖丁	67	SD9	3.2	3.4	1.7	14.5	サヌカイト	側縁部の一部のみ残る。両面より調整。
S42	削器	67	SD9	2.9	2.4	0.5	4.4	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。
S43	削器	67	SD9	2.0	2.1	0.3	1.9	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。

骨観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			特　　徴
				長	幅	厚	
B1	獣骨	58	SD2	14.4	3.6	2.4	
B2	獣骨	58	SD2	13.0	2.4	2.1	
B3	獣骨	58	SD2	5.3	1.1	0.9	

鉄器観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			特　　徴
				長	幅	厚	
K1	鉄板	67	SD9	5.7	5.7	0.8	
K2	釘	72	SD17	2.3	0.6	0.6	

写 真 図 版

図版1

写真1　調査地全景（北から）

写真2　N区遺構検出状況（東から）

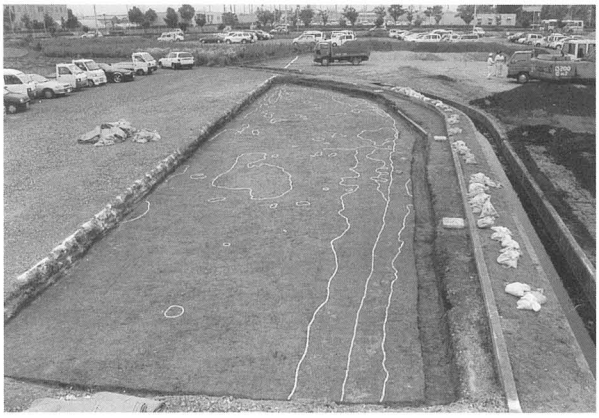


写真3　S区遺構検出状況（西から）

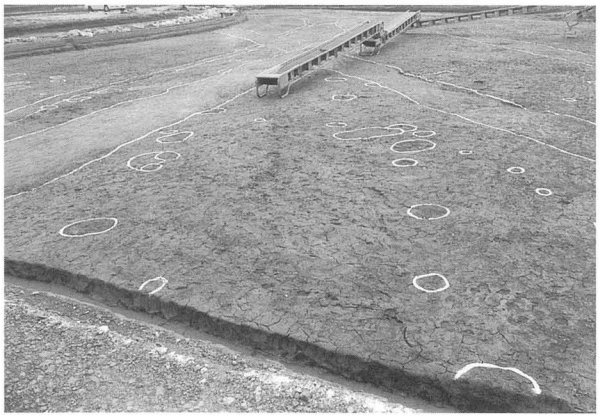


写真4　SB1検出状況（西から）

写真5　SB1完掘状況（北から）

写真6　SB1・SB2完掘状況（西から）

写真7　SB3検出状況（西から）

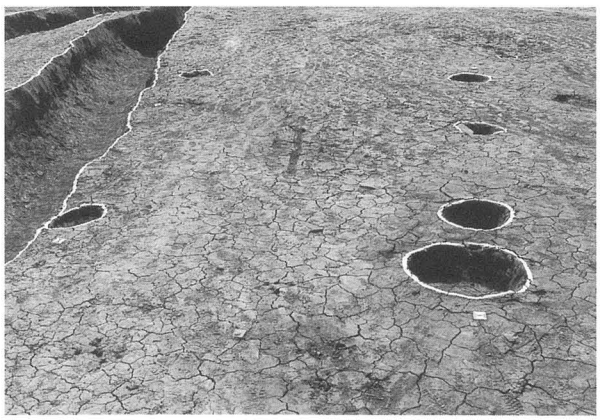


写真8　SB3完掘状況（東から）

写真９　SB4完掘状況（西から）

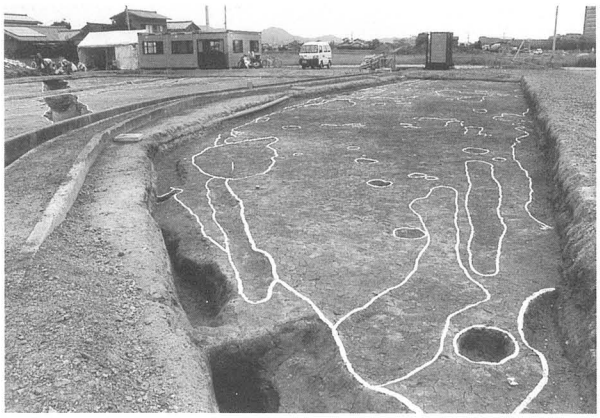


写真10　SB5完掘状況（東から）

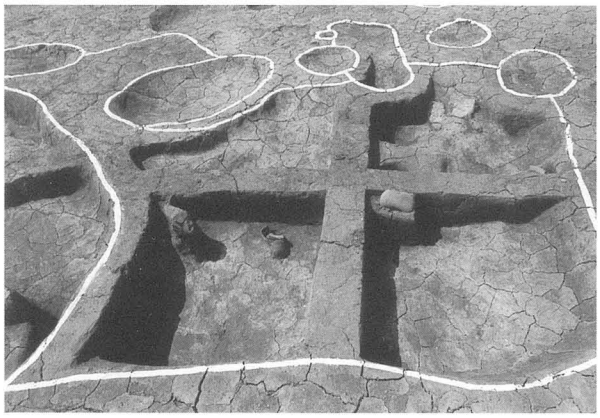


写真11　SK5断面（南から）

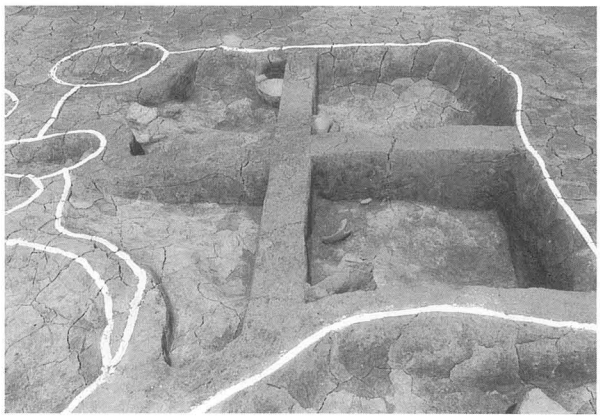


写真12　SK5断面（西から）

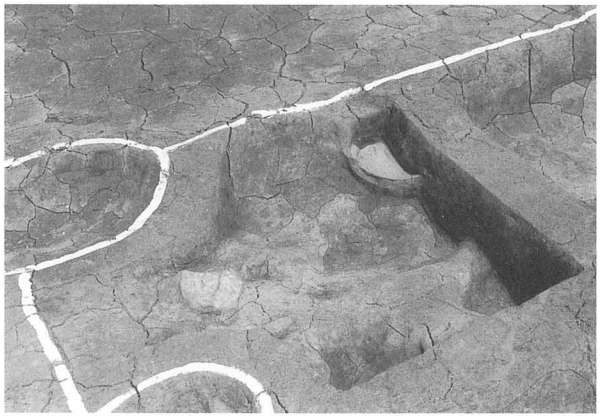


写真13　SK5土器（13）出土状況（北から）

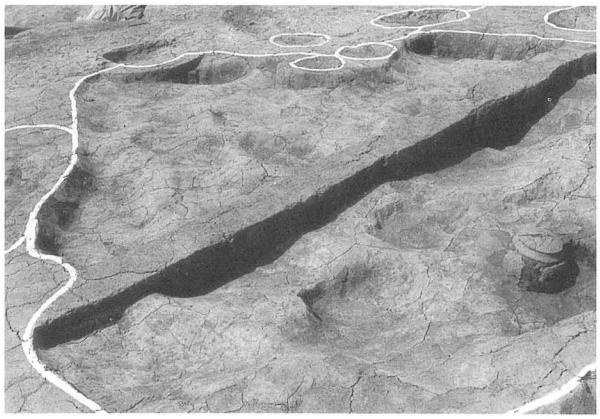


写真14　SK6断面（南から）

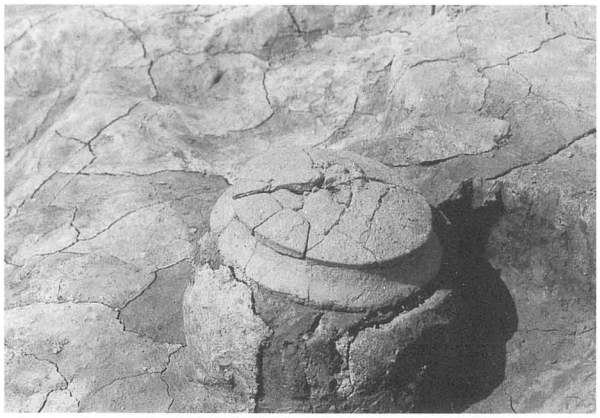


写真15　SK6土器（15）出土状況（北から）

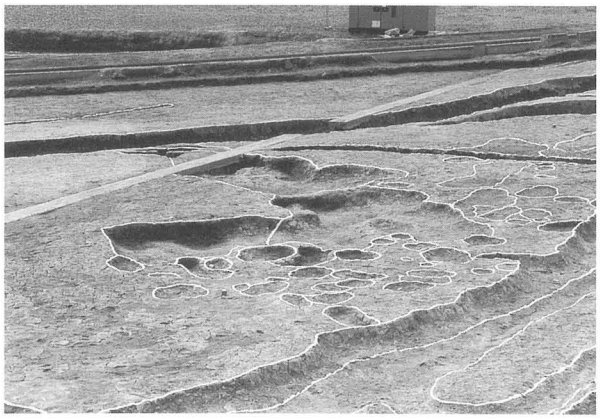


写真16　SK5・SK6・SK7完掘状況（北から）

図版3

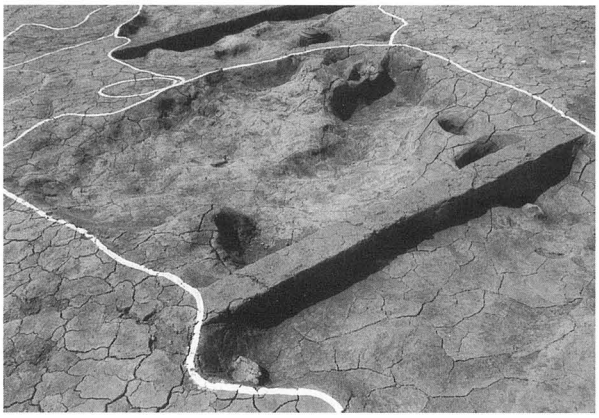


写真17　SK7断面（南から）

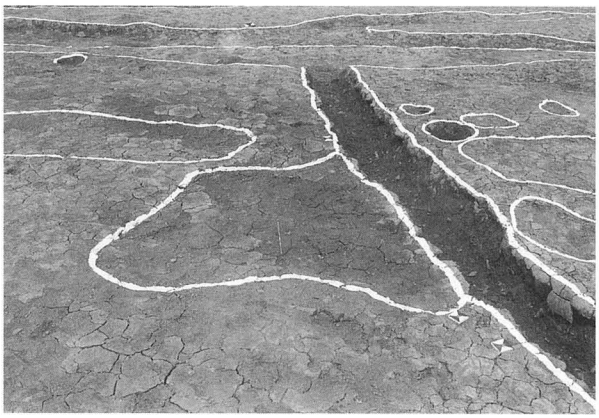


写真18　SK10完掘状況（東から）

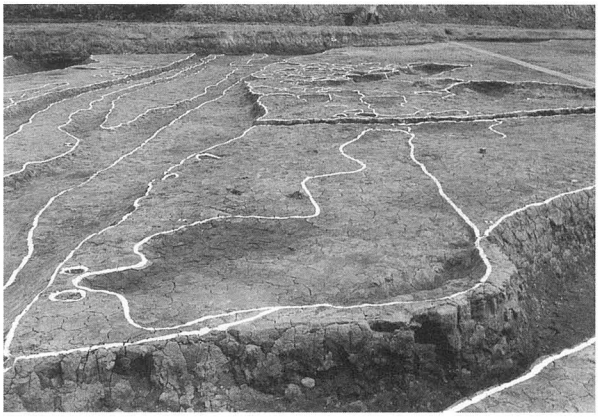


写真19　SK11完掘状況（南から）

写真20　SD1完掘状況（北から）

写真21　SD1断面（南から）

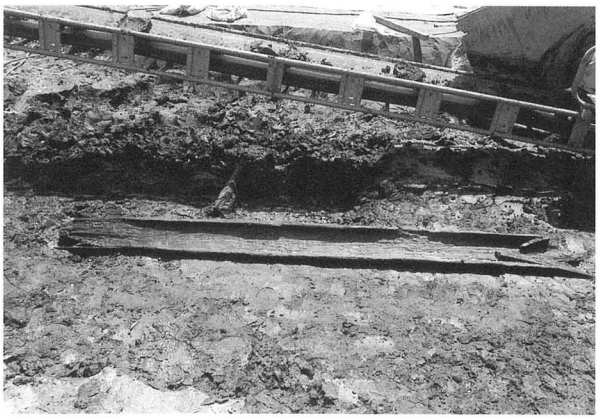


写真22　SD1木樋出土状況（西から）

写真23　SD1～SD6完掘状況（北から）

写真24　SD1～SD6完掘状況（南から）

写真25　SD2完掘状況（北から）

写真26　SD2完掘状況（南から）

写真27　SD2断面（南から）

写真28　SD7・SD8完掘状況（北から）

写真29　SD7完掘状況（北から）

写真30　SD7断面（南から）

写真31　SD7断面（西から）

写真32　SD8完掘状況（北から）

図版5

写真33　SD8完掘状況（南から）

写真34　SD8断面（北から）

写真35　SD9完掘状況（西から）

写真36　SD9断面（南から）

写真37　SD9断面（西から）

写真38　SD9断面（西から）

写真39　SD12完掘状況（東から）

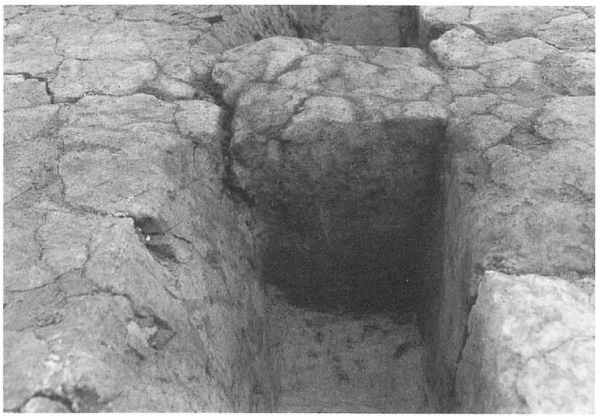


写真40　SD12断面（西から）

写真41　日暮・松林遺跡出土木樋

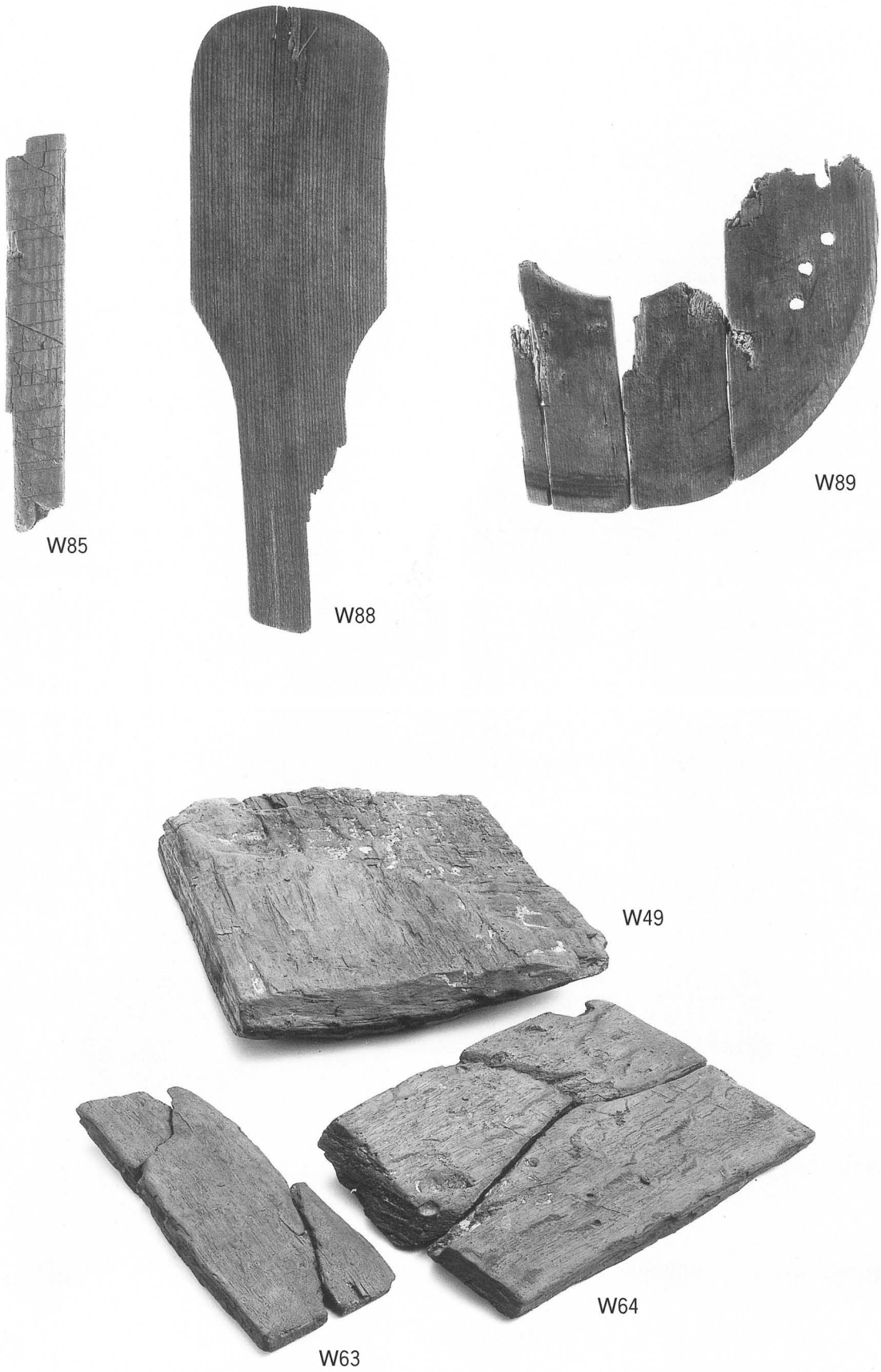


写真42　日暮・松林遺跡出土木製品

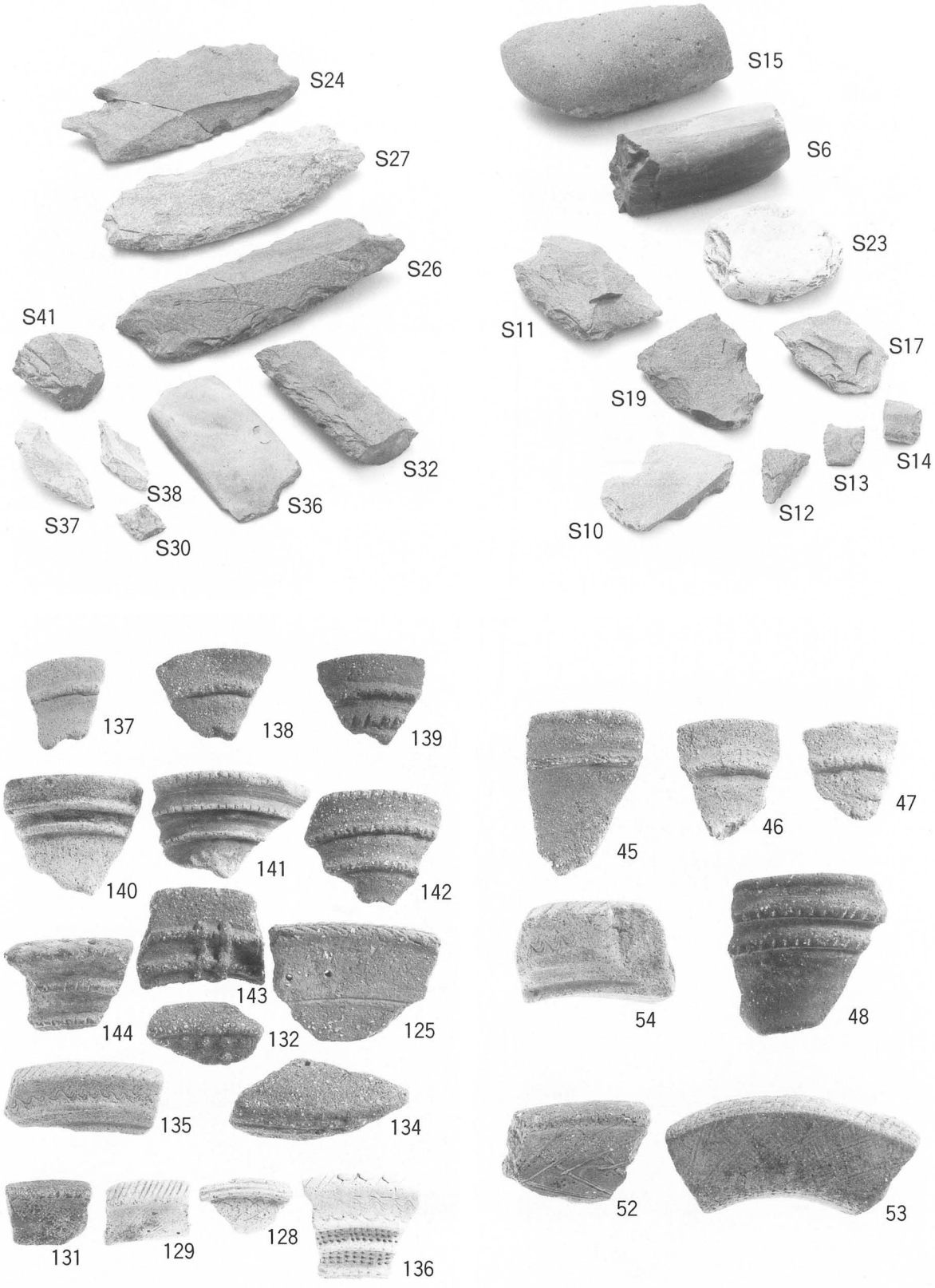


写真43　日暮・松林遺跡出土遺物①

50

49

13

12

15

68

17

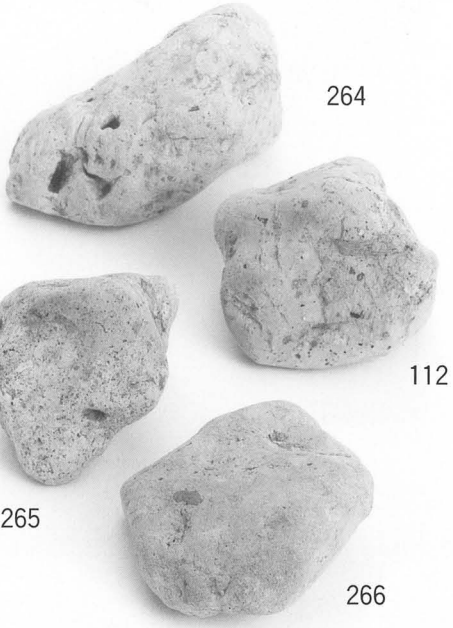
写真44　日暮・松林遺跡出土遺物②

62

20

18

184


264
112
265
266

330

写真45　日暮・松林遺跡出土遺物③